

平成20・21・22年度 沖縄県教育委員会研究指定
〈体育・スポーツ推進校〉

研究紀要

〈三年次〉

【研究主題】

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～



与那国町立与那国小学校

〒907-1801 沖縄県八重山郡与那国町字与那国1025番地

電話(0980) 87-2872

FAX(0980) 87-3288

E-mail yona-sho@cosmos.ne.jp

平成20・21・22年度沖縄県教育委員会指定 体育・スポーツ推進校研究発表会 三年次（最終年次）

研究主題

運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

1. 日時 平成22年10月10日（日） 11:30～15:00

2. 会場 与那国小学校 ○公開授業・・・運動場
○全体会・・・体育館

3. 日程

11:15 11:30 12:15 13:30 15:00

受付	公開授業	昼食	全体会（研究実践報告・指導助言等）
----	------	----	-------------------

4. 公開授業（11:30～12:15）

年・科	教科	単元名	授業者	場所
5・6年 体育	T・T 新	二種競技 （バドミントン・趙藤）	仲本 支佐（5年） 平良 賢輔（6年）	運動場 （雨天時・体育館）

5. 全体会【体育館】（13:30～15:00）（司会 上地真由美）

(1) 開会のことば	教頭	嶺井俊宏
(2) 激励のあいさつ	与那国町教育委員会教育長 県教育庁保健体育課課長 与那国町長	崎原用能 渡嘉敷通之 外間守吉
(3) 研究経過報告	研究主任	水見拓磨
(4) 研究実践報告	低・中・高学年部	
(5) 質疑・応答		
(6) 指導助言	八重山教育事務所指導主事 与那国町教育委員会教育課長	大浜 謙 東小浜功尚
(7) 講評	県教育庁保健体育課主任指導主事	玉城義一
(8) 謝辞	校長	平良 進
(9) 閉会のことば	教頭	嶺井俊宏

はじめに

本校は、明治18年（1885年）に設立されて、今年で125年目の節目を迎えます。その節目の年に当たり、県教育委員会指定「体育・スポーツ推進校」三年目（最終年次）の研究発表が出来ます事は光栄であり、本校に歴史を刻むこれからの新しい1ページでもあります。

数多くの優秀な選手を輩出してきた「スポーツ王国与那国島」。その礎を築く小学校教育の「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」を目標に、「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」を研究主題に、一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して何をサブテーマに研究を進めてまいりました。

年間計画の見直しと作成、研究授業、授業研究で指導法の工夫・改善、コーディネーション運動の実践、食育との関連、特にめあてのもたせ方、場の設定のあり方で有意義な沢山の論議を交わすことができ、資質の向上に大きく貢献する事ができました。「教師は授業で勝負」と言われるように、明日の授業をどうつくっていくか何度も検討に検討を重ね、手応えのある授業を展開できた充実感に浸っています。PTA による遊具造り、環境整備活動も主題に大きく迫ることができ、感謝している所です。

この三年間のデータを元に振り返ってみると、全国的な体力の低下傾向に対し、本校では確実に年度毎に体力の増加傾向が見られたことは、本研究の取り組みに自信を持つことができ、これからも頑張っていく決意です。県教育委員会の推薦により、「全国学校体育研究優良校」を受賞したことも合わせてご報告申し上げます。ありがとうございました。

最終年次と申しましても、全てやりきったつもりはございません。子ども達が、「運動に親しみ、たくましい体と心を自主的に育てる」その態度を、生涯に渡って育てる為にも、三年間の成果と課題を総括し次年度もスタートしていきたいと思えます。

結びに、本研究を指導して下さった県教育庁保健体育課の先生方、八重山教育事務所の先生方、沢山の指導助言を賜り、有り難うございました。外間守吉町長を初め与那国町教育委員会の物心両面に渡るご支援・ご協力には感謝申し上げます。研究に関わった沢山の方々、環境整備、遊具造り等でご苦勞なさいました PTA、地域の皆様にも厚く感謝を申し上げます。本日は本当に有り難うございました。

平成22年10月10日

校長 平良 進

もくじ

◇はじめに

I 本校の概要	・・・	1
II 研究の概要		
1. 研究主題	・・・	6
2. 研究主題設定の理由	・・・	6
3. 研究仮説	・・・	7
4. 研究の視点	・・・	7
5. 研究方針	・・・	7
6. 研究内容	・・・	8
7. 研究の全体構想図	・・・	9
8. 研究組織図	・・・	10
9. 組織の活動内容	・・・	10
10. 平成22年度研究経過	・・・	11
III 研究の実際		
1. 体育学習における授業の工夫		
(1) コーディネーション運動について	・・・	13
(2) 年間指導計画における工夫	・・・	15
(3) 各学年部の授業実践		
(①) 低学年部の実践「実習リズム遊び」	・・・	18
(②) 中学年部の実践「マット運動」	・・・	31
(③) 高学年部の実践「二種競技」	・・・	64
2. 教科外における実践		
(1) 体育朝会における実践	・・・	84
(2) 人材活用による実践	・・・	86

3. 各専門部の実践		
(1) 資料調査部の実践	・・・	87
(①) 新体力テストの結果と考察	・・・	88
(②) 体位・体格の実態	・・・	94
(③) 児童の泳力	・・・	104
(④) 食育の充実	・・・	106
(⑤) コーディネーション運動の実践	・・・	120
(2) 環境整備部の実践	・・・	129
(①) 児童の実態把握	・・・	130
(②) 僕の私のゴールド記録	・・・	134
(③) なわとび検定	・・・	136
(④) 朝のジョギング	・・・	138
(⑤) 環境の充実	・・・	139
4. 関連した取り組み		
(1) 幼稚園部の活動	・・・	141
(2) 放課後スポーツ活動の取り組み	・・・	143
(3) 運動会の取り組み	・・・	145

IV 研究の成果と課題	・・・	147
-------------	-----	-----

V 資料

◇おわりに

研究同人

I 本校の概要

与那国小学校の概要一覧

学校概要

(平成22年 9月14日 現在)

項目	規模等概要
位 置	北緯24度28分2秒 東経123度0分5秒 標高15.5M
創 立	明治18年4月10日 平成22年度 創立125周年
校 名	与那国町立与那国小学校 (校名は何度も改称され、昭和33年祖納小学校を与那国小学校と改称し、現在に至る。)
所在地	〒907 1801 八重山郡与那国町字与那国1025 電話 : 0980-87 2872 FAX : 0980-87-3288 URL : http://www.cosmos.ne.jp/yona-sho/index.html E-MAIL : yona-sho@cosmos.ne.jp
学校数	普通学校 6学校
児童数	67人
職員数	11名 (校長、教頭、事務職含む)
敷地保有面積	17,092平方メートル
校舎保有面積	1,842平方メートル 普通教室 432 特別教室 956
体育館の面積	680平方メートル
付帯施設	与那国町立児童生徒交流センター
その他	<p>☆敷地内によなぐに幼稚園を擁する 園児 4歳児 10名 5歳児 10名 教職員数 4名 園長は校長、副園長は教頭が兼務 ☆平成20年度～22年度 沖縄県教育委員会指定 「体育・スポーツ推進校」</p> <p>研究主題 運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成 ～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～</p> <p>☆平成22年度5月1日 学習支援ヘルパー配置1人(本校拠点校) 普通学級における特別支援対象児への学習支援が開始</p>

学校教育の目標

平成 22 年度

1. 本校教育の目標

教育基本法及び学習指導要改訂の趣旨、本県本町の教育推進計画・学校教育における指導の努力点等に基づく目標を踏まえ、「知識基盤社会」の中で主体的に対応できる能力など「生きる力」の育成を目指すとともに、生涯学習の視点に立って知・徳・体の調和のとれた心豊かで、心身ともに健康で行動力があり、粘り強くやり抜く児童を育成する。

特に県指定体育・スポーツ推進校としてたくましい体と豊かな心を育むための教育活動の推進に加えて、地域人材の活用や幼・小・中の連携を図り、開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。

《 教育目標 》 一生懸命がんばる子



《 具体目標 》 よく考え自ら学ぶ子 礼儀正しく思いやりのある子 健康で明るくたくましい子 粘り強くやりぬく子

(1) めざす子供像

- ◎かっこいい子（よく考え自ら学ぶ子）
 - ・よく見、よく聞き、よく考える子
 - ・めあてを持って学習する子
 - ・すすんで探求する子
- ◎やさしい子（礼儀正しく思いやりのある子）
 - ・だれとでも仲良くできる子
 - ・明るいあいさつのできる子
 - ・物を大事にする子
- ◎たくましい子（健康で明るくたくましい子）
 - ・健康で心豊かな子
 - ・安全に気をつけ、健康で明るい子
 - ・ねばり強く頑張る子
- ◎やりぬく子（粘り強くやりぬく子）
 - ・きまりをまもる子
 - ・ねばり強くやりぬく子
 - ・命を大切にする子

(2) めざす教師像

- ・広い識見と教養を備えた教師
- ・使命感に燃え、愛情に溢れた教師
- ・健康で明るく、協調性に富む教師

(3) めざす学校像

- ・花と緑のきれいな学校
- ・楽しさと厳しさがあがり、活力のある学校
- ・創意・工夫・特色ある教育活動が展開される学校

(4) めざす保護者像（案）

- ・何でも話し合い、子供達に夢と希望を育む家庭
- ・学習する雰囲気を整え、小さな事でもほめ、励ましていける家庭
- ・物事の善悪を深い愛情で論じ、生きる基本を育む家庭

*校訓 「 自主 ・ 勤勉 ・ 礼節 」

本年度の各学年重点目標

かしこい子 考える子	知	1年	よく聞いて話し子
		2年	よく聞いて発表できる子
		3年	よく聞き、よく考えて発表できる子
		4年	よく聞き、めあてをもって学習する子
		5年	よく考え、すすんで学習する子
		6年	よく考え、学習にはげむ子
やさしい子 心の豊かた子	徳	1年	思いやりをもち、みんなと仲よくできる子
		2年	きまりを守り、友だちを思いやり、仲良くできる子
		3年	きまりを守り、みんなを思いやり、仲良くできる子
		4年	きまりを守り、みんなを思いやり、仲良くできる子
		5年	思いやり、助け合い、進んで良いことをする子
		6年	思いやりをもち、進んでみんなのために働く子
たくましい子 体の強い子	体	1年	元気いっぱい、あそぶ子
		2年	元気よく、あそぶ子
		3年	じょうぶな体をつくる子
		4年	進んでじょうぶな体をつくる子
		5年	めあてをもって体をきたえる子
		6年	めあてをもって体をきたえる子
やりぬく子 粘り強い子	意	1年	力いっぱい、がんばる子
		2年	さいごまで、がんばる子
		3年	何事も最後までやりぬく子
		4年	おばり強く、最後までやりぬく子
		5年	根気強く、最後までやりぬく子
		6年	目標をもち、最後までやりぬく子

2. 教育方針

- (1) 自主性と創造性を養い、自己実現の能力を育てる。
 - ・児童一人一人の個性を伸ばし、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら行動するための「生きる力」を育てる。
- (2) 健康で明るく、強い意志力と最後までやりぬく子を育てる。
 - ・進んで体力と気力を養い、どんな困難でも乗り越える強い意志と目標に向かって積極的に行動する児童を育てる。
- (3) 豊かな情操を養うとともに、勤労を尊ぶ態度を育てる。
 - ・自然や物事に感動する感性と正義感、思いやりの心、協調性などの豊かな人間性を培う「心の教育」の充実を図るとともに、体験学習を通して働く喜びを体得させる。
- (4) 社会の一員としての自覚を高め、道徳性の育成に努める。
 - ・人間尊重の精神と社会の規律を重んずる態度を育て、日常生活における人間関係を通して、道徳的実践力を育てる。
- (5) 郷土の自然と文化を愛し、その保全と発展に努める態度を育てる。
 - ・郷土の自然や文化に対する理解を深め、その保全継承と新しい文化の創造に努める能力や態度を育てる。
- (6) 平和を愛する心を育て、国際性と国際感覚を育てる。
 - ・自国の歴史や文化に誇りを持つと同時に、世界の国々の生活や文化を理解し、国際協調の精神と、世界の平和建設に努める態度を育てる。

3. 学校経営方針

【基本方針】

学校教育は児童生徒を教え育てることが本質的な任務である。そして、それは学校の教育目標の実現に向けられた目的的な活動である。したがって、学校経営方針は目指す児童生徒像や育成するために必要とする条件を整備することを志向していることが大切である。よって、本校は「学校の主人公は、子どもである」ことを方針に据えて、かつ組織体としての機能を十分に充たせ、全職員の大団円の下に、情熱と創意を持って、協働して教育実践を進めていく。

- (1) 学習指導要領の方針である「心豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成」、「知識基盤社会の中で主体的に生きて働く力となるような子どもたちが自ら学び自ら考える力の育成」、「基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実」、「創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくり」に努める。
- (2) 県教委指定「体育・スポーツ活動」の研究実践に当たり、幼稚園・中学校・高校との連携、保護者・地域との連携を深めた研究実践を通して教育活動の活性化を図り、子どもの望ましい人格形成を図る。
- (3) 学級経営を充実させ、児童や教師の信頼関係を人事にし、温かい人間関係と楽しい学校づくりに努める。
- (4) 校内研修や指定研修を中心に、授業による研究活動を推進し、「わかる授業」、「参加する授業」を創造し実践する。
- (5) 「どの子にも基礎学力をしっかりと身につけさせること」が、小学校の最大の責務であることをしっかりと踏まえ、確かな学力の定着を最重点に位置づけて教育課程を編成し実践する。
- (6) 「年間指導計画」の作成、実施、評価をきめ細かく行い、各学年で履修すべき内容を確実に指導し、教育課程の完全実施に努める。
- (7) 年間指導計画や綿密な透案をもとに、標準授業時数の確保を図るとともに、指導と評価を一体化させたきめ細かな学習指導を展開する。
- (8) 家庭や地域との連携・協力をとおして、開かれた学校づくりを推進し教育活動の改善充実を図る。
- (9) 「誇りが人をつくる」というスタンスの下、師弟同行、全職員の協働により花と緑の多いのある学校、整理整頓清掃の行き届いた学校を作る。
- (10) 児童の健康・安心・安全な居場所としての学校をつくるため、保護者・地域・関係機関との連携を強化し、学習環境、教育条件の整備・充実に努める。

4. 本年度の重点目標

- ◎本校創立125年の歴史と伝統を踏まえ、時代や地域・保護者の要請に応え、明るく力強く前進する学校づくりを目指す。
- ◎体育・スポーツ研究指定(最終年次)を踏まえ、幼小中、地域と連携した研究を推進し、児童の確かな変容を図り、学校教育への信頼と教育活動の充実する年とする。
- ◎新学習指導要領移行最終年にあたり、改訂の趣旨を十分に踏まえた教育計画の作成を目指す。(先取り実施を行う)
 - (1) 「生きる力」の育成を図り、思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、指導法の工夫改善・充実を図る。
 - (2) 道徳教育の充実・体験活動の充実を図り、明るく、心豊かな児童の育成に努める。
 - (3) 体育・スポーツ活動、健康安全・食に関する指導の充実を図りたくましい体と心を育み、体力の向上を目指す。
 - (4) 保護者・地域と連携し基本的な生活習慣の定着を図り、確かな学力の定着を目指す。
 - (5) 読書活動の充実と読書環境の整備・充実に努める。
 - (6) 緑の少年団や体験活動、総合的な学習の時間の充実に努め、地域への理解と愛着を深めるとともに特色ある教育活動を推進する。
 - (7) 学級経営の充実を図り、校内生徒指導・教育相談体制の確立に努め児童の自己指導能力の育成を図る。
 - (8) 学校教育を開き、保護者・地域に信頼され、開かれた学校づくりに努める。

平成22年度 学校職員及び学級編成表 (平成22年9月14日現在)

職名(学年)	氏名	児童在籍数				
		学年	男	女	計	備考欄
校長	平良進	学年				
教頭	竈井俊宏	全児童数	34	33	67	
教諭(1年)	上地真由美	1学年	5	4	9	
教諭(2年)	米須清秀	2学年	6	7	13	
助教諭(3年)	東内原初紀	3学年	4	8	12	
教諭(4年)	宮良善起	4学年	6	4	10	
教諭(5年)	仲木史佐	5学年	8	5	13	
教諭(6年)	平良賢輔	6学年	5	5	10	
教諭(専科)	水見拓磨	園児在籍数				
養護教諭	伊舎堂優子	園児	男	女	計	全園児
学校事務	大城世子	年少	5	5	10	
幼稚園教諭	踏久嶺ひとみ	年長	4	6	10	合計20
幼稚園教諭	前浜盛美緒	必置の主任等				
用務員		主任名		氏名		
学校医	花村泰範	教務主任		水見拓磨		
学校歯科医	大仲徹	生徒指導主任		平良賢輔		
学校薬剤師	山城尊	環境整備主任		米須清秀		
学校評議員	福藏 国象	研究主任		水見拓磨		
学校評議員	大冨味 剛要	保健主任		伊舎堂優子		
学校評議員	田嶋 瑞都					

Ⅱ 研究の概要

1. 研究主題
2. 研究主題設定の理由
3. 研究仮説
4. 研究の視点
5. 研究方針
6. 研究内容
7. 研究の全体構想図
8. 研究組織図
9. 組織の活動内容
10. 平成22年度研究経過

II 研究の概要

1. 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

2. 研究主題設定の理由

近年、子どもを取りまく環境の変化は著しい。その要因としては科学技術の発達、経済発展に伴う国際化、情報化、少子・高齢化等があげられる。近所に遊ぶ友達が減っていく中で家庭用ゲーム機やインターネット、携帯電話が普及したことは、子ども達の戸外遊びを減少させ、生活習慣や食生活の乱れは、肥満増加の原因の一つにあげられている。このことは子ども達の体力の低下、ひいては子ども達の体育離れにつながり、今や体育が「好き」「嫌い」の二極化を課題とした議論は、日常的に行われるようになった。

学習指導要領体育科の目標は「心と体を一体としてとらえ、…生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るく生活を営む態度を育てる。」である。また、沖縄県の「学校教育における指導の努力点」にも「生涯にわたる豊かな『スポーツライフ』の基礎を培う視点に立ち、…積極的に運動に親しむ資質や能力を育てること」があげられている。このことから、子ども達の運動離れが進む現代、体育科では技能の習得だけではなく、技能を習得していく過程で得られる「もっとやってみよう」「またやってみよう」という経験、つまりスポーツと関わりながら健康を保持増進していくための基礎となる運動経験が重視されていることがわかる。

本校は学校教育目標に「一生懸命がんばる子」の育成、具体目標に「よく考え自ら学ぶ子（知）」「礼儀正しく思いやりのある子（徳）」「健康で明るくたくましい子（体）」「粘り強くやりぬく子（意欲）」の育成を掲げて日々教育活動に取り組んでいる。研究は4つの具体目標の中の「健康で明るくたくましい子」の育成に焦点をあてて進められている。毎日の教育実践、特に体育科において、子ども達が主体的に参加し、達成する喜びを味わい「またやってみよう」と思うような授業をしていくことが「健康で明るくたくましい子」そして「一生懸命がんばる子」の育成につながっていくと考える。

本校の児童は休み時間に外で遊ぶ子が多く、21年度のアンケートの結果で89%の児童が運動をするのが好き、82%の児童が体育の学習が好きと答えるほど運動好きである。放課後のスポーツ活動にはミニバスケットや野球、柔道などがあり34%の児童が所属している。また、これらのスポーツ活動に参加しながら27%の児童が陸上の練習にも参加している。与那国町は陸上が盛んで、毎年行われる町少年陸上競技大会の練習にほとんどの児童が参加している。こうしてみると児童の運動の機会は十分確保されているようであるが、児童数の減少やゲーム機の普及などの影響で放課後の子ども達の活動は変化してきており、体力の二極化は本校においても大きな課題の一つである。過去2年間の新体力テストの結果を考察すると、「長座体前屈」の結果の向上が見られる一方「握力」「上体起こし」に課題が残る。各学年の課題についてはそれぞれの授業実践の中で単元の種目と関わる項目について考察し指導に生かしていく。

上に掲げたテーマを主題とした研究は3年次を迎えた。学習における基本的な考え方についての理論研究会、授業研究会の実施、指導計画や評価基準を見直すなどの授業改善に向けての取り組みは継続して行われている。2年次からは「コーディネーション運動」を研究内容に取り入れ、各単元で資料を収集し実践するなど独自の取り組みも行ってきた。たくましい体づくりの基本ともいえる「食」に着目したのも2年次からである。体育だけでなく、食育の面からの実践にも取り組み毎日の食への関心を引き出すことができた。この他にも、竹馬や雲梯、ケンステップの設置などの環境整備も力を入れており、道具や場所の確

保が進むにつれ休み時間に外で遊ぶ児童の姿が多く見られるようになってきた。

今年度は過去2年間の研究をふまえ、運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童を育成するキーワードを「めあての持たせ方」「場の設定」「コーディネーション運動」とした。コーディネーション運動により各単元の主運動につなげる動きを経験させる。そして、一人一人の力に合っためあてを持たせ運動に親しませること、工夫された場の中で目標を達成する喜びやチャレンジすることの楽しさを味わわせ「またやりたい」「もっとやってみたい」と思わせることが「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」につながると考える。

3. 研究仮説

- (1) 一人一人にめあてをもたせそれを達成させていくことで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2) 場の設定を工夫し運動の楽しさや喜び味わわせることで、自ら進んで運動に親しみたくましい体と心をつくる児童を育成することができるであろう。
- (3) 児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、変化のある反復の中で楽しみながら考えさせることで、児童の技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。

4. 研究の視点

- (1) 児童一人一人の力に合っためあての設定
 - ①「たのしい」「またやりたい」という関心と意欲を持たせる。
 - ②自分の運動能力を客観的に把握できるようにする。
 - ③子ども達が無理なく楽しめる運動内容を提示する。
 - ④友達のように気づき、お互いに関わり合いながら運動に親しめるようにする。
 - ⑤学習意欲が維持され、単元のねらいに迫れるよう学習形態を工夫する。
- (2) 児童が主体的に取り組める場の工夫
 - ①ねらいとする技能の習得に段階的に近づく場の設定。
 - ②自分やチームの課題に合った練習ができる場の設定。
 - ③動画を使い、自分や友達の様子を客観的に見ることができる場の設定。
- (3) コーディネーションについて
 - ①子ども達の運動機会の確保。
 - ②変化のある反復により、主運動における動きのもとをつくる。
 - ③子ども達に運動を創り出す楽しさを味わわせる。

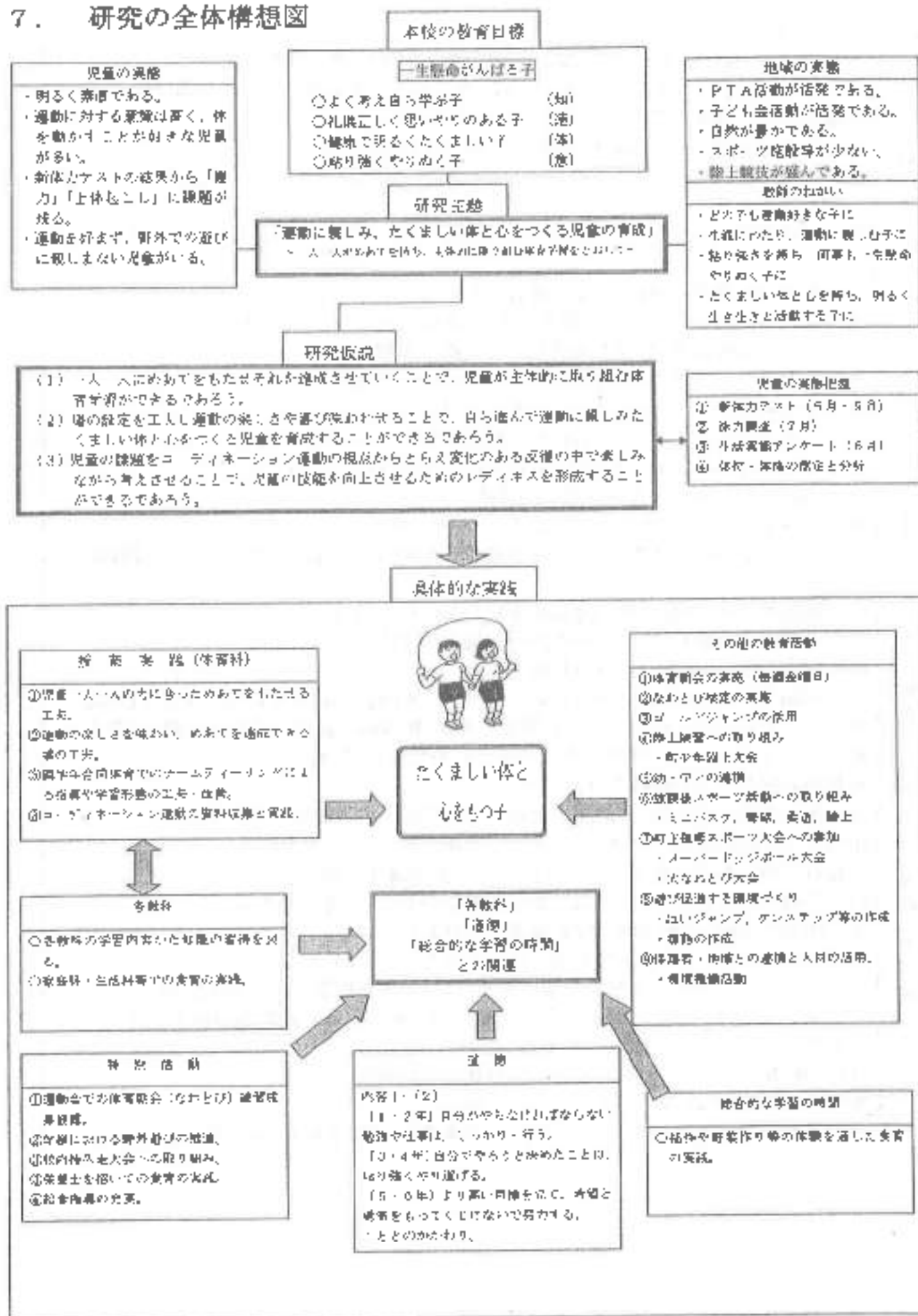
5. 研究方針

- (1) 全教師共通理解のもと、全教育活動を通して推進する。
- (2) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、理論研究や実践を通して、授業改善を図る。
- (3) アンケート調査やデータ分析によって、実態を把握し実践活動に役立てる。
- (4) 低・中・高学年で計3回の授業研究を行い、指導力の向上と指導方法の工夫改善に努める。
- (5) 望ましい食習慣の形成のため、食育の授業実践に取り組む。
- (6) 原則として毎月第1、第3水曜日を校内研究の日とする。
- (7) 研究のまとめとして、報告書を作成する。
- (8) 運動に親しめる環境整備の充実や工夫を行う。
- (9) 幼稚園・中学校や他の学校との連携を図る。
- (10) 家庭・地域・PTAとの連携を図る。

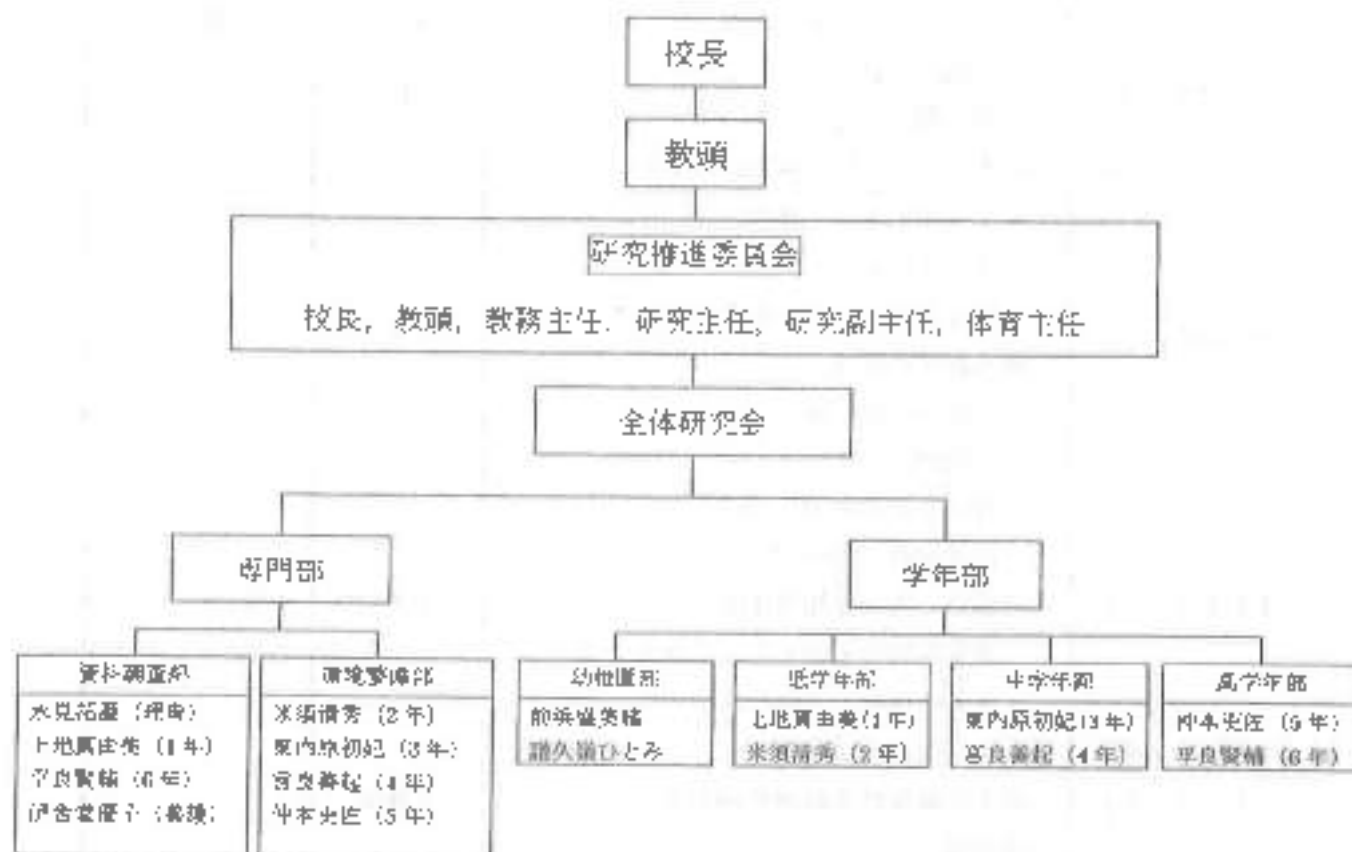
6. 研究内容

平成二十一年度(二年次)	<p>①研究主題の達成を図るため組織的・計画的な研究体制を確立する。 ②学習における基本的な考え方について理論研究会と授業研究会を実施する。 ③研究授業を通して学習指導方法の工夫改善を図る。 ④年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しを図る。 ⑤アンケート、新体力テストの結果から、児童の運動面や基本的な生活リズムの実態把握に努める。 ⑥運動の継続化を図る工夫を隣学年で計画し、次年度に一斉に取り組めるようにする。 ⑦週行事や日課等を見直し、業間体育等を設置する。 ⑧竹馬やうんてい等遊びの環境を整備し、遊びを通じた体力の向上を図る。 ⑨校種間及び保護者・地域と連携した取り組みを図る。 ⑩望ましい生活習慣の奨励に努め、体方向上の工夫改善を図る。 ⑪成果と課題から、次年度への方向性を検討する。</p>
平成二十二年度(三年次)	<p>①一年次の課題をもとに、さらに充実した学習の工夫・改善を図る。 ②学習における基本的な考え方の理論研究と授業研究を深める。 ③体方向上に結びつける取り組みの見直しを図る。 ④研究授業を通して、体育学習指導方法の工夫・改善に努める。 ⑤アンケート調査により、児童の実態把握に努めるとともに、前年度との比較検討を行う。 ⑥年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しを図る。 ⑦体育朝会を実施し、全校の取り組みの輪を広げる。 ⑧家庭、地域での体力づくりの奨励を行う。 ⑨体力向上の工夫・改善を図るために、望ましい生活習慣・食育指導の充実を図る。 ⑩「たくましい体と心をつくる」視点により、児童の主体的な活動を計画・実践する。 ⑪コーディネーション運動の導入と授業への活用を図る。 ⑫地域人材リストの作成と活用を図る。 ⑬二年次の発表会をもち、成果と課題から次年度への方向性を検討する。</p>
平成二十三年度(三年次)	<p>①過去2年間の成果と課題をもとに、学習指導の改善・充実を図る。 ②体育学習における基本的な考えについて授業研究を深める。 ③授業研究会を通して、体育科学習指導方法の工夫・改善に努める。 ④年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しをする。 ⑤体育朝会、なわとび検定を実施し体力の向上に取り組む。 ⑥コーディネーション運動の理解を深め、資料収集と授業での活用を図る。 ⑦ハイジャンプ・平均台等遊びの環境を整備し、遊びを通じた体力の向上を図る。 ⑧地域人材リストを作成し活用する。 ⑨校種間及び保護者・地域と連携した取り組みを図る。 ⑩家庭・地域での体力づくりの日常化を図る。 ⑪三年次の研究実践の発表会をもち、研究成果を分析・考察し、次年度に生かす。</p>

7. 研究の全体構想図



8. 研究組織図



9. 組織の活動内容

組織名	活動内容	構成員	
校長・教頭	○全体総括・指導助言・渉外・交渉	校長・教頭	
校内研究推進委員会	①研究計画の企画立案 ②研究の推進、各部への連絡調整 ③全体研究会の計画、運営 ④研究記録の整理、保管 ⑤指導講師との連絡調整	校長 教頭 教務主任 学完主任 研究副主任	
全体研究会	①研究計画、研究内容の検討、確認 ②日課に準拠した評価の検討 ③研究発表及び発表研究会 ④研究報告書の原稿作成 ⑤全体的諸問題の討議、決定	全職員	
各専門部	資料調査部	①指導案形式の検討・提案 ②新体カブスの実施、結果の分析・考察 ③ユーティリティー運動の資料収集と整理	水見祐基 上地真由美 平良賢輔 伊舎堂優子
	運動学療法部	①実地アンケートの実施・分析 ②体育学習環境の整備、教材開発 ③運動の日常化を図る（チームドジャンプ作成） ④なわとび検定の実施 ⑤遊具設置の作成、準備（PTAとの連携）	米須清秀 東内原初紀 宮良善起 中本史広
各学年部	①児童の英徳の把握 ②指導方法の工夫改善 ③資料の活用、学習環境整備 ④研究発表の計画、実践、実践、まとめ ⑤研究記録原稿作成	各学年	
幼稚園	①小学校とのつながりを感じさせた研究と実践	幼稚園	

10. 平成22年度研究経過

月 日	研究内容	部会	備考
4月 2日 (金)	○全校朝会の持ち方について ・体育朝会、なわとび検定	全体会	
4月14日 (火)	○平成20・21年度取り組み説明	全体会	
4月20日 (火)	○研究主題の検討・決定 ○研究の進め方 ・研究授業の日程と授業者決定 ○研究組織の編成 ・各部構成員の確認 ・活動内容の検討	全体会	
5月11日 (火)	○研究授業の持ち方について ・指導案様式の検討 ○理論研…大浜謙指導主事 ・新学習指導要領における体育学習 ・食育の現状と方向性について	全体会	主事招聘
5月12日 (水)	○第1回新体カゼスト	体育主任	
5月14日 (金)	○第1回研究授業指導案検討会	全体会	
5月19日 (水)	○理論研 ・コーディネーション運動 ○授業検討会の持ち方について	研究主任	
5月26日 (水)	○第1回研究授業 3・4年「マット運動」	中学年部	主事招聘
5月28日 (金)	○第2回研究授業指導案検討会	全体会	
6月 9日 (水)	○第2回研究授業 1・2年「表現リズム遊び」	低学年部	主事招聘
6月20日 (日)	○運動会 ・なわとび朝会の成果発表		
6月22日 (火)	○プール学習スタート		
7月 6日 (火)	○5・6年稲刈り体験		
7月21日 (水)	○3年次発表会に向けて ・日程の検討 ・研究紀要作成の役割分担 ○体力づくり・体育指導改善講習会伝達	全体会	
7月22日 (木)	○講話「体育科教育」		与中校長 東迎和芳先生
7月23日 (金)	○専門部会 ・各専門部の取り組みの確認 ○小学校体育実技指導者講習資料伝達	各専門部 研究主任	

8月	○体育館表示作成 ○町少年陸上大会に向けての取り組み ○ゴールドジャンプ（カード）の検討配布	環境部	
9月 8日（木）	○第3回研究授業指導案検討会	全体会	
9月 9日（木）	○3・4年食育授業 ○1・2年食育授業	各学年	
9月10日（金）	○第2回新体力テスト		
9月15日（水）	○職員作業 ・はいジャンプ、クンステップの整備		
9月22日（水）	○H22年度校内研究の成果と課題	全体会	
9月25日（土）	○PTA 環境整備作業 ・平均台設置	PTA 環境整備部	
10月 2日（土）	○PTA 作業 ・体育館表示の設置		
10月 4日（月）	○3年次実践報告会リハーサル	全体会	
10月 6日（水）	○3年次実践報告会に向けて	全体会	
10月10日（日）	○第3回研究授業 5・6年「二種競技」 ○3年次実践報告会	高学年部	主事招聘
10月27日（水）	○第3回研究授業の反省	全体会	
1月19日（水）	○3年次研究の総括的反省	研究主任	
2月15日（金）	○校内持久走大会		
2月16日（水）	○次年度の校内研究計画案の検討	研究主任	
3月 2日（水）	○次年度の校内研究計画案の検討	全体会	

Ⅲ 研究の実際

1. 体育学習における授業の工夫
 - (1) コーディネーション運動について
 - (2) 年間指導計画における工夫
 - (3) 各学年部の授業実践
 - ①低学年部「表現リズム遊び」
 - ②中学年部「マット運動」
 - ③高学年部「二種競技」
2. 教科外における実践
 - (1) 体育朝会における実践
 - (2) 人材活用による実践
3. 各専門部の実践
 - (1) 資料調査部の実践
 - ①新体力テストの結果と考察
 - ②体位・体格の実態
 - ③児童の泳力
 - ④食育の充実
 - ⑤コーディネーション運動の実際
 - (2) 環境整備部の実践
 - ①児童の実態把握
 - ・運動や体育の学習に関するアンケート
 - ②僕の、私のゴールド記録
 - ③なわとび検定
 - ④朝のジョギング
 - ⑤環境の充実
4. 関連した取り組み
 - (1) 幼稚園部の活動
 - (2) 放課後スポーツ活動の取り組み
 - (3) 運動会の取り組み

Ⅲ 研究の実際

1 体育学習における授業の工夫

(1) コーディネーション運動について

コーディネーション能力とは

運動を合理的に実施するには、筋力や持久力や関節可動域などの「機能」が重要であるが、さらに運動の「調整」が不可欠となる。この「調整」とは体を動かすときに、いくつかの神経や筋肉を同時に共同して使う機能である。この神経系による調整能力を「コーディネーション」という。1970年代からは学校教育現場、競技スポーツ現場で研究と実践が進められプログラム開発の基礎が築かれた。



実際のパフォーマンスを構成する要素を考えると、動きの3要素に技術、戦術、経験、知識、心理、性格などたくさんの要素が加わってくる。コーディネーション能力はこれらの要素とも密接な関係があり、相補的な役割を担っている。

コーディネーション運動のポイント

① 7つのコーディネーション能力

定位能力	相手やボールなどと自分の位置関係を正確に把握する能力
変換能力	状況に合わせて、素早く動作を切り替える能力
連結能力	関節や筋肉の動きを、タイミングよく同調させる能力
反応能力	合図に素早く、性格に反応する能力
識別能力	手や足、用具などを精密に操作する能力
リズム能力	動きをまねしたり、イメージを表現する能力
バランス能力	不安定な体勢でもプレーを継続する能力

小学校1年生から6年生までの全体像を意識し各学年の発達段階に応じた課題をコーディネーション運動の視点から捉えることが大切である。

② 変化のある反復

コーディネーション運動には技能習得のための動きのもとをつくり、習熟のレベルを維持し、それぞれの主運動ごとに要求される技能を補完する役割がある。前後左右、左右上下バランス良く体を使いながら、ボールの大きさや重さ、相手を変化させて反復することがポイントである。

③楽しみながら考える

授業の中には教師が教える場面と気づくのを待つ場面がある。コーディネーション運動においても対比をさせたり、観察させたりすることが重要である。教師が2つの運動をやってみせて対比させて違いを考えさせる事で、子ども達は発達段階に応じて運動のしくみや意味を理解することができる。考えながら参加する授業の中で、達成感を味わわせたり、想像力を伸ばしたりしていくことで、子ども達への動機づけが高まると考えられる。

コーディネーション運動のメリット

現在のスポーツ科学では小学校1年生（6歳）頃から小学校6年生（12歳）頃までの時期において、運動学習に関する神経系や知覚の発達が最も目覚ましいことが明らかにされている。たとえば、バス、キャッチ、ジャンプなどの動きには空間を正確に把握する能力や時間やタイミングを把握する能力、またボールや身体を操作する能力が必用でありこの神経系の能力がコーディネーション能力である。神経系の能力が発達するする小学校の時期に適切なコーディネーション運動を与えることは、技能を向上させるための前提条件（レディネス）の形成につながるだけでなく、脳の学習能力を高める可能性が指摘されており、これは他の運動を速やかに学習することにもつながる。

コーディネーション運動の指導の視点

①子どもの運動機会の確保

子ども達の中につまづきが出てきたとき、コーディネーションの視点からどんな能力を改善したらよいか考え、課題を解決するための運動例を提示する。

②子どもの発想を育む

コーディネーション運動の特徴は「自分たちの運動を創る」ことにあります。与えられた運動を行うだけでなく、子ども達のアイデアを生かして新しい運動を創ることで、創り出す楽しさを体験させていく。

③教師の指導内容の改善と開発

教師一人一人が、子ども達ができそうな課題を模索することで、新しい発想、新しい視点で授業づくりができるようにする。

与那国小学校におけるコーディネーション運動の取り組み

与那国小学校では平成20年度、1年次の研究でコーディネーション運動が紹介され、2年次からは各単元の授業実践の中に取り入れてきた。今年度3年次を迎えるにあたり、本研究の特色ある取り組みとして柱の一つに加えて取り組んでいる。実際の運動の内容を見ると、学習指導要領体育の内容-A「体づくり運動」の「多様な動きをつくる運動遊び」→「多様な動きをつくる運動」→「体力を高める運動」の流れと類似しているが、本研究ではコーディネーション運動のねらいを主運動の技能向上を支えるための前提条件（レディネス）の形成と捉えている。実際の授業実践では毎回の授業の始めにコーディネーション運動の時間を設定し、各学年の発達段階における課題にあわせた運動に取り組んでいる。

平成22年度 与那国小学校 体育科年間指導計画【1学期】

学期		1学期(36時間)											
		4月			5月			6月				7月	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
項目	行事	身体計測 交通安全教室			第一回校内新体力テスト 町軽スポーツ大会(フットボール) 校内PTAスポレク大会			運動会 プール開き 与P連スポレク大会				町少年軽スポーツ大会 (ドッチボール)	
	1年 領域・ 種目	遊具遊び③ 多様な動き(バランス・ 移動)① 体ほぐし運動④ コーディネーション運動②			多様な動き (コーディネーション運動)① ボール投げゲーム⑦ (※新体力テスト含む)			かけっこ・リレー⑤ 表現② (※運動会練習期間)				多様な動き (コーディネーション運動)① 水遊び⑧	
	2年 領域・ 種目	遊具遊び③ 多様な動き(バランス・ 移動)① 体ほぐし運動④ (コーディネーション運動)			多様な動き (コーディネーション運動)① ボール投げゲーム⑦ (※新体力テスト含む)			かけっこ・リレー⑤ 表現② (※運動会練習期間)				多様な動き (コーディネーション運動)① 水遊び⑧	
	3年 領域・ 種目	体ほぐしの運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール⑤ マット運動②			体ほぐし運動(コーディネーション運動)② 表現・リズムダンス・フォークダンス⑥ リレー② マット運動⑤ (※運動会練習期間)				深く・泳ぐ⑩				
	4年 領域・ 種目	体ほぐしの運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール⑤ マット運動②			体ほぐし運動(コーディネーション運動)② 表現・リズムダンス・フォークダンス⑥ リレー② マット運動⑤ (※運動会練習期間)				深く・泳ぐ⑩				
	5年 領域・ 種目	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール⑦			鉄棒運動 走り高跳び⑤		表現③ 短距離走・リレー③ (※運動会練習期間)			水泳⑩			
6年 領域・ 種目	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール⑦			鉄棒運動 走り高跳び⑤ ←		表現③ 短距離走・リレー③ (※運動会練習期間) →			水泳⑩				

平成22年度 与那国小学校 体育科年間指導計画【2学期】

学期		2学期(45時間)														
		9月				10月				11月				12月		
		13	14	15	18	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
項目	行事	身体計測 第二回校内新体カテスト				三年次指定研究報告会 小体運動区隔上大会								県内選抜テスト(4学年) 地区選抜テスト(5年)		
	1年	体ほぐしの運動④ ハードルリレー⑤ 川とび③				多様な動き (コーディネーション運動)② ボール遊びゲーム③ リズム遊び②				多様な動き (コーディネーション運動)② とび箱遊び④				多様な動き (コーディネーション運動)② 鉄棒運動④		
	2年	体ほぐしの運動④ ハードルリレー⑤ 川とび③				多様な動き (コーディネーション運動)② ボール遊びゲーム③ リズム遊び②				多様な動き (コーディネーション運動)② とび箱遊び④				多様な動き (コーディネーション運動)② 鉄棒運動④		
	3年	サッカー⑤ 走り幅跳⑤ ハードル走③				ティーボール⑤ 保健①「健康な生活」				多様な動き (コーディネーション運動)① とび箱⑤ 保健②「育ちゆく体と私」				多様な動き (コーディネーション運動)① 鉄棒運動②		
	4年	サッカー⑤ 走り幅跳⑤ ハードル走③				ティーボール⑤ 保健①「育ちゆく体と私」				多様な動き (コーディネーション運動)② とび箱⑤ 保健③「育ちゆく体と私」				多様な動き (コーディネーション運動)① 鉄棒運動④		
	5年	ドッジボール⑤				サッカー⑤ 2種競技 (ハードル走・走り幅跳)⑤				体力を高める運動③ (コーディネーション運動) とび箱⑤ 保健②「けがの防止」				体力を高める運動② (コーディネーション運動) とび箱③ 保健②「けがの防止」		
6年	ドッジボール⑤				サッカー⑤ 2種競技 (ハードル走・走り幅跳)⑤				体力を高める運動③ (コーディネーション運動) とび箱⑤ 保健②「病気の予防」①				体力を高める運動② (コーディネーション運動) とび箱③ 保健②「病気の予防」①			

平成22年度 与那国小学校 体育科年間指導計画【3学期】

学期		3学期(24時間)								
		1月			2月			3月		
		28	29	30	31	32	33	34	35	
項目	行事	書き初め大会 学芸会			校内持久走大会 児童会役員選挙 委員会引き継ぎ式			卒業式		
	1年 投擲・蹴球 田	表現①リズム遊び② 鬼遊び③			マット遊び⑦ ボールけりゲーム⑧					
	2年 投擲・蹴球 田	表現①リズム遊び② 鬼遊び③			マット遊び⑦ ボールけりゲーム⑧					
	3年 投擲・蹴球 田	持久走② 多様な動き(コーディネーション運動)③ フラッグフットボール③			持久走④ 多様な動き(コーディネーション運動)④ フラッグフットボール⑤					
	4年 投擲・蹴球 田	持久走② 多様な動き(コーディネーション運動)③ フラッグフットボール③			持久走④ 多様な動き(コーディネーション運動)④ フラッグフットボール⑤					
	5年 投擲・蹴球 田	マット運動⑤ 保健④「心の健康」			持久走④ バスケットボール④					
6年 投擲・蹴球 田	マット運動⑤ 保健④「食気の予防」			持久走④ バスケットボール④						

(3) 各学年部の授業実践

①低学年部の実践

体育科学習指導案

日時 : 平成22年6月9日(水) 5校時
場所 : 五郷国小学校 体育館
対象 : 1学年 男子4名 女子4名 計8名
2学年 男子5名 女子7名 計12名
授業者 : 上地真由美(11) 米須清秀(12)

1 単元名

表現リズム遊び 「ジャングルたんけん」

2 単元設定の理由

生涯スポーツの重要性が重視される現在、全学年に体づくり運動が領域として位置付けられており、本校でも運動に親しむ態度の育成に向けて取り組んでいる。

低学年においては、遊びを通して各種運動の技能の習得に繋げていく段階である。

本校の低学年の児童は、幼稚園の頃から遊具等を使って体を動かす様子がよく見られた。また、他教科での合同学習を通して、2年生が1年生をリードしながら、共に活動している姿も見られる。

そこで、全身的な動きでリズムにのって動くことが楽しい表現リズム遊びを取り上げることで、児童がより運動に親しめるようにしたい。その中では、互いの発達段階を生かした仲間との関わりを意識しながら、活動を進めていきたい。

また、年間を通して、体づくり運動をコーディネーション運動に置き換えて指導する。多様な動きを体験させながら、他者との関わりを持つ体づくり運動のねらいに加えて、活動する中で「輝く笑顔と汗」が見られるコーディネーション運動の良さを取り入れたい。変化のある動きを繰り返したり楽しみながら考え、夢中になって取り組む事で、体を巧みに操る能力が総合的に高まると考える。そして、教師と子どもが一緒になって運動に取り組む中で、楽しさやできる喜びを味わわせていく。

学習過程では、児童が心と体を解放し、自由に表現リズム遊びができるように、教師も積極的に関わっていく。そして、多様な活動の場を用意し、グループ同士での話し合いをもち、活動へのイメージが膨らむような授業展開を図っていく。

3 運動の特性

(1) 一般的特性

リズム遊びは、音楽にのって自由な動きで弾んで踊ることが楽しい運動遊びである。

表現遊びは、身近な生活の中から変身したい題材を見つけて、そのものになりきって全身の自由な動きで表現して楽しむことができる運動遊びである。

(2) 児童から見た特性

本校の低学年児童は、何かに変身して、動くことが大好きな児童が多い。自然に動物好きで動物の仕草や鳴き声など、よく見て知っている児童も多い。言葉や音楽に合わせた身体表現が苦手な児童も見受けられるが、模倣する動きの対象があると、一瞬に真似をして踊ることができる。

自己とのかかわり	仲間とのかかわり	モノとのかかわり
<ul style="list-style-type: none">・いろいろなイメージで変身することが楽しい。・即興的に体を動かすことが楽しい。 <p>●動きが分からなかったり、動くのが恥ずかしかったりすると楽しめない。</p>	<ul style="list-style-type: none">・仲間と関わり合って動いたり、踊ると楽しい。・動きを見せ合うことで、互いの違いやよさが生かされると楽しい。 <p>●表現したことが見る側に分かってもらえないと楽しめない。</p>	<ul style="list-style-type: none">・音楽のリズムにのって、イメージが膨らむと楽しい。・安全面に気をつけながら、活動ができると楽しい。 <p>●リズムにのれない音楽だと楽しめない。</p>

4 児童の実態

(1) 1学年 (男子4名 女子4名 計8名)

- ・活発な男子が多く、何かをするときは、数名の女子が声をかけて協力して行おうとしている。
- ・女兒は校内にある遊具(ホッピング・一輪車)に興味を持って遊び、男児は、滑り台やブランコなどの固定遊具に興味を持ち、おいかけっこなどが好きである。
- ・室内遊びを好む児童もいるが、体を動かして遊ぶことに関しては、全員が夢中になって楽しむことができる。
- ・歌や身体表現を抵抗なく楽しむ児童もいる反面、何をしたいのか分からない児童も数名いる。教師の声かけを通して、活動の場に参加している児童も見られる。
- ・2年生と活動することを楽しみにしている。

(2) 2学年 (男子5名 女子7名 計12名)

- ・男女が仲良く、一緒に遊ぶことができる。
- ・体を動かすことが大好きで、休み時間は元気よく外に遊びに行く。
- ・どの教科も意欲的に取り組むことができる。
- ・感情が豊かで、体で表現することを抵抗なく行える児童が多く、リーダーとなる児童を中心として、活発に活動ができる。
- ・1年生とペアになり、積極的にリードして活動することができる。

(3) アンケートの結果・考察 5月実施

① 体を動かして遊ぶことは好きですか。

・すき(20名) ・きらい(0名)

② 休み時間にどのようにして遊ぶことが多いですか。

○教室で遊ぶことが多い (6名)
○外で遊ぶことが多い (14名)

・幼稚園の遊具で ・5年生のお兄ちゃんと追いかけっこ
・おにごっこ ・パトミントン ・一輪車

③ 学校でする体育の学習は好きですか。

・すき(20名) ・きらい(0名)

④ 二人でする体操とみんなでする体操は、どちらが好きですか。

・二人でする体操(2名) ・みんなでする体操(18名)

⑤ 動物やいろいろな物に変身して動くことは、好きですか。

・とても好き(19名) ・好き(1名) ・あまりすきではない(0名) ・苦手(0名)

⑥ 曲や音楽を聞いて、好きなように動くのは好きですか。

・とても好き(14名) ・好き(6名) ・あまりすきではない(0名) ・苦手(0名)

理由

- ・体が勝手に動く。 ・楽しいから踊りたくなる ・音楽が好き
- ・2年生のお姉ちゃんが教えてくれたり、動いている途中でも話を聞いてくれるから

〈考察〉

アンケートより、体を動かすことや体育の学習が好きと全員答えている事から、児童は運動に対する意欲が高いことが伺える。

質問②の休み時間を教室に外で遊ぶことが多い児童は、隣接する幼稚園の遊具を利用したり、園児や高学年の児童と追いかけっこを楽しむ姿が見られる。教室で遊ぶことが多い児童に関しても、時間が十分確保されていれば、安心して外に出ることができる。

質問④では、4月は全体でする体操を行い、5月の中旬からは二人で触れあいながらできるストレッチを取り入れて行っている。二人でする体操は次に何をやるのか、やり方が分からないという児童の声があることから、児童自身が理解して行えるような工夫が必要だと考える。

質問⑤では、低学年の児童の特性からも見られるように、何かに変身して表現することへの興味関心が高いことが伺える。

また、即興的にリズムにのって表現することの質問⑥では、すきではないと答えている児童が少ないことから、表現する楽しさを感じている児童が多いことが把握できる。

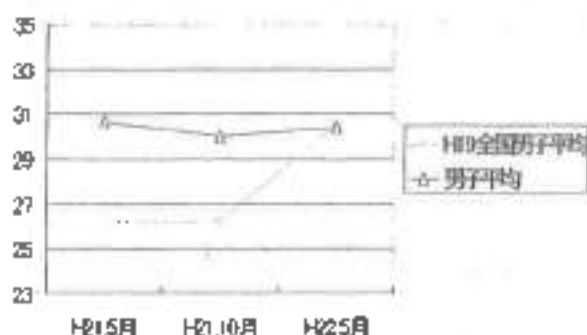
しかし、自ら表現するよりも誰かの真似をして一緒に楽しむという児童の様子もあることから、手だてを工夫することで、安心して、より自分らしく表現を楽しむことができると考える。

(4) 体力テストから見た児童の実態

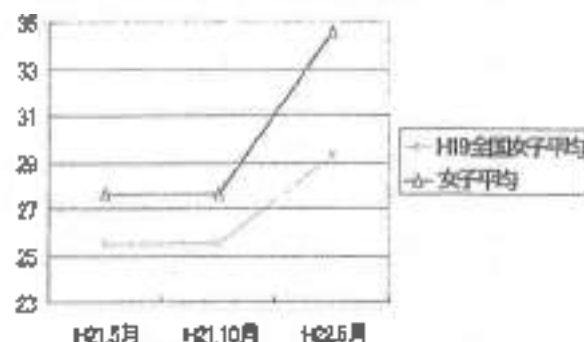
～ 表現リズム遊びに関連する俊敏性の「反復横跳び」と柔軟性の「長座体前屈」の項目の結果～

平成22年度 2年生 反復横跳びの推移

(男子)

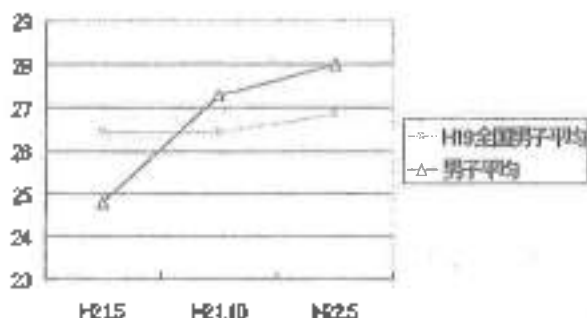


(女子)

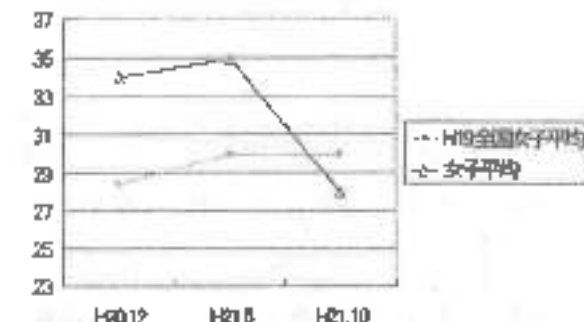


平成22年度 2年生 長座体前屈の推移

(男子)



(女子)



平成22年度 1年生 全国との比較

(H22年 5月実施)

全国平均(H19)	反復横跳び		長座体前屈	
	男子	女子	男子	女子
	26.20	25.49	26.41	28.39
本校 平均	男子 28.60	女子 25.00	男子 26.00	女子 25.00
全国との差	◎ 2.3	▼ 0.49	▼ 0.49	▼ 3.39

2年生は昨年度に2回実施し、今年度1回の3回の実施を行っている。昨年度と比べて、男子は反復横跳びが平均並みに下がったのに対して、長座体前屈が伸びている。女子は長座体前屈に落ち込みが見られるものの、反復横跳びは、伸びが見られる。

1年生は、今年度の1回の実施を全国平均と比較した。反復横跳びの男子以外の項目は、全国平均よりも下回っている。

このことより、本単元の表現リズム遊びを行うにあたって、体力の向上を図るため、俊敏性と柔軟性を意識したコーディネーション運動の時間を毎時間設けていく。

5 研究主題との関わり

(1) 研究主題

運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

(2) 研究仮説

- ①児童一人一人にめあてをもたせ、それを達成させていくことで、児童が主体的に取り組むことができるであろう。
- ②場の設定を工夫し楽しみながら運動することで、自ら進んで運動に親しむ児童を育成することができるであろう。
- ③児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、変化のある反復の中で楽しみながら考えさせることで、児童の技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。

(3) 主題へのせまり方

本研究では、主題を達成するための3つのキーワードを「めあての持たせ方」「場の設定」「コーディネーション運動」とし、上記の仮説を設定した。

本単元では、コーディネーション運動を毎時間取り入れ、心と体を解放し、表現リズム遊びにつなげていく。第3時から第5時までは、さまざま動物の特徴や動きを児童から十分引き出して、動きのイメージを共有して持たせる。第6時からは、体験した動物の動きを活かしながら、場面ごとに変わる曲調に合わせて、グループでお話を作っていく。その際には、一人一人が選んだ動物の動きを考えるというめあてをもって、取り組んでいく。さらに、活動の場を多様に設定することで、児童が主体的に動くことができれば、運動に親しみ、たくましい体と心を持つ児童の育成につながるのではないかと考える。

(4) 研究仮説にせまるための手だて

【手だて①】めあてをもたせる指導方法の工夫

- ア) 児童は、第2時でリズム遊びを充分楽しめ、第3時から第5時までは、めあて①のいろいろな動物に変身することの楽しさを味わせつつ、どのような動きをしたいか、自分のめあてを持たせる。第6時から第8時までは、めあて②に対する活動を充実していく。経験した動物の動きを基に自分が表現したい動物を選び、グループで作ったお話に合わせて、どのように表現するか考えさせる。
- イ) 動物の動きや特徴を共有し、表現活動に活かせるように、イメージバスケットづくりを行う。
- ウ) 友達の良い動きも真似しながら動きを取り入れ、動物の特徴を捉えた動きで踊るようにする。

【手だて②】場の設定の工夫

- ア) 曲の選定を工夫する。リズム遊びでは、テンポのよい曲を選定し、心と体を解放して踊れるようにする。動物に変身して踊って遊ぶときは、動物の特徴を捉えた曲を選定する。第6時からのグループでお話を作る際には、動きの変化が見られるように、3場面の曲(はじめ・中・終わり)を選定する。
- イ) ジャングルをイメージして表現遊びが広がるように、様々な道具を設定する。

【手だて③】コーディネーション運動の効果的活用

- ア) 表現リズム遊びにつながる心と体の準備運動的な活動として捉え、友達とかわり、楽しみながら行うことによって、抵抗なく活動に取り組めるようにする。

6 本単元における指導の留意点

(1) グループ作り

1・2年合同のグループを作る。表現することに慣れない内は、リーダーとなる児童を中心に2つのグループ(10名×2)で行う。活動の状態を見て、それぞれ表現したいことが出てくると、4つのグループ(5名×4)で行う。グループでのお話作りの際には、みんなの意見も取り入れて表現できるように、教師も積極的に支援する。

(2) 他教科との関連

生活→「学校たんけんをしよう」で見た、校内の動植物やその他の動物の様子をビデオで見ることによって、イメージを膨らませ、動物が持つ特徴や動きを言葉で挙げるイメージバスケット(うさぎ：びよんびよんはねる)を作り、表現遊びに活かしていく。

図工→動物になりきって表現できるように、動物のお面を作る。

国語→お話作りのために、「〇が〇を〇した。」という文の作り方を指導して、グループで話合う。

7 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

ねらい1	リズムによって、踊って遊ぶ (リズム遊び)
ねらい2	動物が出会ういろいろなできごとを、踊って遊ぶ (表現遊び)

(2) 学習の道すじ

- ・コーディネーション運動を毎時間取り入れ、心と体を解放し、主運動に繋げる。
- ・リズム遊びを長時間取り入れ、全体で曲のリズムによって活動を行う。
- ・表現遊びでは「めあて①」を十分に行ってから、「めあて②」に進む。毎時間の最後は、ミニ発表を行い、見せ合って楽しむ。

めあて①	： いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう
めあて②	： すきな動物になって お話をつくって踊ろう

8 時間配分

時間	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦(本時)	⑧	⑨	
3	オリエンテーション	あいさつ	コーディネーション運動 ・ベアストレッチ ・1分間縄跳び ・かた足じゃんけん ・新聞紙あそび ・キャケリの楽しみ							
10	学習の道	めあて①	リズム遊び →友達といっしょに楽しく踊ろう～							
15	めあて		めあての確認 表現遊び めあて① いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう。							
20	約束やきまり	めあて②	表現遊び めあて② 好きな動物になってお話をつくって踊ろう					ジャングル探検にはかけよう		
25	ベアストレッチ		イメージバスケット作り							
30	グルーピング									
35										
40	学習の振り返り・まとめ		まとめ (ミニ発表)・学習の振り返り・次時の活動の確認						学習のまとめ	

9 評価規準と学習活動の評価基礎

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
領域ごと(表現・リズム)の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・だれとでも仲良く、いろいろな表現リズム遊びに楽しんで取り組もうとする。 ・きまりを守り、運動する場所や用具の安全に気をつけて運動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びやリズム遊びの基本的な動き方を知り、楽しく踊るための動きを選んで、友達の良い動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現リズム遊びを楽しんで行うための、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができる。
安全指導の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とぶつからないように場の安全に気をつける。 ・活動場所や用具の安全を確認する。 ・自己の健康状態を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方が適切か判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面で配慮した動きで運動できる。
リズム遊び 評価基準	<p>1年</p> <p>①リズムによって、友だちと気持ちを合わせて、楽しんで踊ろうとする。</p> 	<p>①曲のリズムに合ったのり方(動き方)をしている。</p> <p>②走ったりスキップをしたりなど、リズムに合った動きを取り入れたり、工夫したりしている。 (スキップをしたり手をたたき合ったりなどの動きを取り入れたりして工夫している。)</p> 	<p>①全身ではなく動きを中心とした(走ったり)同じリズム感でスキップしたりして、リズムにのることができる。</p>
表現遊び	<p>1年</p> <p>①いろいろな動物の動きを思い浮かべて、楽しく表現遊びをしようとする。</p> <p>②友達の動きの良いところを見つけてようとする。</p>	<p>①いろいろな動物の神態や様子を思い浮かべている。</p> <p>②動物をまねたり、なりきったりして動き方を工夫している。</p> <p>③好きな動物を選び、その動物にふさわしいお話を作っている。</p>	<p>①いろいろな動物の特徴を、簡単なポーズと動きで表すことができる。</p> <p>②動物にふさわしいお話を作って、友達と一緒に動くことができる。</p>

1.0 学習における具体的評価基準と評価計画

活動における 具体的な評価場面 ○安全確保の場面 【関心・意欲・態度】	学習における具体的評価基準				評価方法 行動観察 学習カード	2 時	3 時	4 時	5 時	6 時	7 時	8 時	9 時
	A 基準 (十分満足できる)	B 基準 (おおむね満足できる)	評価基準	学習カード									
【関心・意欲・態度①】	1 年	グループの他の友達との動きも取り入れ、積極的に語り、仲間にも応げようとする。	リズムに合わせて、仲間と気持ちを合わせて進んで踊ろうとする。	リズムに合わせて仲間と気持ちを合わせて進んで踊ろうとする。	行動観察 学習カード								
	2 年	多様な動きを組み合わせて、身体表現を行い、発動の場を広げている。	多様な動きを組み合わせて、多様な動きを組み合わせて、工夫している。	多様な動きを組み合わせて、多様な動きを組み合わせて、工夫している。	行動観察 学習カード								
【関心・意欲・態度②】	1 年	動物の準備を由と間違させながら、楽しく表現遊びをしようとする。	動物の準備を由と間違させながら、楽しく表現遊びをしようとする。	動物の準備を由と間違させながら、楽しく表現遊びをしようとする。	行動観察 学習カード								
	2 年	友達や工夫した動きを見つけて、グループの活動の際に活かそうとする。	友達や工夫した動きを見つけて、グループの活動の際に活かそうとする。	友達や工夫した動きを見つけて、グループの活動の際に活かそうとする。	行動観察 学習カード								
【思考・判断①】	1 年	体をどのよう動かせば表現したい動きがよく伝わるかを、考えている。	体をどのよう動かせば表現したい動きがよく伝わるかを、考えている。	体をどのよう動かせば表現したい動きがよく伝わるかを、考えている。	行動観察 学習カード								
	2 年	友達と関わり合って、表現したい動物の動き方を組み合わせて、練習している。	友達と関わり合って、表現したい動物の動き方を組み合わせて、練習している。	友達と関わり合って、表現したい動物の動き方を組み合わせて、練習している。	行動観察 学習カード								
【思考・判断②】	1 年	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	行動観察 学習カード								
	2 年	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	グループの友達と表現したい動物を選び、表現の段を考えている。	行動観察 学習カード								
【技能①】	1 年	動物の準備が分かるように、体を大きく動かしてポーズと動きで表現することができる。	動物の準備が分かるように、体を大きく動かしてポーズと動きで表現することができる。	動物の準備が分かるように、体を大きく動かしてポーズと動きで表現することができる。	行動観察 学習カード								
	2 年	表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	行動観察 学習カード								
【技能②】	1 年	友達と起状のあるように簡単なお話を仕掛けて練習することができる。	友達と起状のあるように簡単なお話を仕掛けて練習することができる。	友達と起状のあるように簡単なお話を仕掛けて練習することができる。	行動観察 学習カード								
	2 年	表現に合わせて、グループの友達と表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	表現に合わせて、グループの友達と表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	表現に合わせて、グループの友達と表現したい動物の動きを仲間のおもちゃで即興的に工夫して踊ることができる。	行動観察 学習カード								

評価基準	2年	①動物の生活や行動を思い浮かべて、楽しく表現遊びをしようとする。 ②友達との動きのよいところを見つけ、認め合おうとする。	①動物の生活や行動を思い浮かべている。 ②動物をまねたり、動物になりきったりして動き方や続け方を工夫している。 ③友達と一緒に好きな動物を選んで簡単なお話をつくっている。	①いろいろな動物になりきって、特徴のある動きで印象的に踊ることができる。 ②友達と、起伏のあるように簡単なお話を作って、続けて踊ることができる。
------	----	---	---	---

1.1 単元の学習活動と評価計画

過程	学習活動	評価方法と場面	教師の支援
はじめ	<p>1 学習の見通しをもつ。 ジャングルたんけん（ジャングルに行くと動物にへんしん）の学習の内容や進め方を知り、学習に興味を持つ。 ・ジャングルたんけんの学習内容や進め方を知る。 ・安全についての約束やきまりを話し合う。</p> <p>・コーディネーション運動をする。 …ベアストレッチ…片足じゃんけん 1分間縄跳び …西原組あそび…まじりの塩もみ… ※毎時間行う</p> <p>・仲間と動物になって、変身ゲームをして遊ぶ。</p>	<p>・行動観察</p> <p>・行動観察</p>	<p>○児童達が進んで取り組めるように、学習の資料を準備する。</p> <p>○友達とのふれあいを通して、自らの体の調子に気づき、心と体をリラックスして運動遊びができるようにする。</p>
	<p>1 準備体操・コーディネーション運動をする。 2 リズム遊びをする。 3 イメージバスケットづくりを行う。 …（ぞう、うさぎ、ぞう、まじり）</p> <p>○写真やビデオを見て、それぞれの動物の特徴を知り、動きのイメージを膨らませる。（生活科）</p>	<p>・行動観察</p> <p>・児童発言</p> <p>・児童発言</p>	<p>○心と体をリラックスして運動遊びができるようにする。</p> <p>○リズムに乗って踊るように、2つのグループに入ってかけ声を出し、軽やかな動きを飛ばす雰囲気作りをする。</p>
なか	<p>1 準備運動・コーディネーション運動をする。（10分）</p> <p>2 リズム遊びをする。（5分）</p> <p>めあて① いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう</p> <p>3 動物のイメージを引き出し、動物になって全体で動く。（15分）</p> <p>例）ぞう、きりん、かじき、とり いぬ、かまきり</p> <p>めあて② すきな動物になってお話を作ってみよう</p> <p>4 2つのグループに分かれ、曲に合わせて動物の動きをする。（15分）</p> <p>6 ミニ発表・学習のまとめをする。（10分）</p> <p>・お互いに動きを見合う。 ・真似したいところを発表する。</p>	<p>・行動観察</p> <p>・行動観察</p> <p>・児童発言 （学習カード）</p>	<p>○心と体をリラックスして運動遊びができるようにする。</p> <p>○多くの動きが引き出せるように、グループ内の児童同士の動きを真似させながら進めていく。</p> <p>○曲に合わせて、その動物らしい動きを考えて、体育館を自由に動くようにする。</p> <p>○4つ足の生き物でも立って踊ると動きがダイナミックになることに気づかせる。</p> <p>○互いに見合っ、より多くの動きに気づくようにグループを作る。</p> <p>○教師も一緒にグループに入り、道具も活用して積極的に動きが炸れるようにする。</p> <p>○お互いの動きが発見できるように、真似したい動きを意識して見るようにする。</p>
	<p>1 準備運動・コーディネーション運動をする。（10分）</p> <p>2 リズム遊びをする。（5分）</p> <p>めあて① いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう</p> <p>3 前時までに表現してきた動物になって4つのグループで動く。（5分）</p> <p>めあて② すきな動物になってお話を作って踊ろう</p> <p>4 グループに分かれ、変化のある曲に合わせてすきな動物になって、お話を作る。（15分）</p> <p>・前時までの動物の様子を全体で確認する。 ・今日のめあてをグループの代表が必要とする。 ・体育館全体をジャングルに見立てて、道具も活用しながら、話合う動きを作っていく。</p> <p>始めの場面（元気な曲） Aの場面（激しい曲） 終わりの場面（元気・おどやかな曲）</p> <p>5 ミニ発表・学習のまとめをする。（10分）</p> <p>・お互いに動きを見合う。 ・真似したいところを発表する。</p>	<p>・行動観察</p> <p>・行動観察</p> <p>・児童発言</p> <p>・児童発言 （学習カード）</p>	<p>○心と体をリラックスして運動遊びができるようにする。</p> <p>○多くの動きが引き出せるように、グループ内の児童同士の動きの良さを伝える。</p> <p>○動物の特徴をとらえて、楽しく表現遊びができるように雰囲気作りをする。</p> <p>○曲に合わせて、表現したい動物の動きをのせてとして持てるように、イメージバスケットを振り回るようにさせる。</p> <p>○場面に合わせて、動物の動きや使う道具が把握できるように、ホワイトボードを活用する。</p> <p>○どの動きを真似したいかという視点で見られるようにさせる。</p>

まとめ	③ 1 コーディネーション運動を行う。 2 リズム遊びをする。 3 グループ発表をする。(ジャングルの聲)	○学習のまとめとして、変身したい動物になりきって楽しく踊らるようになる。
-----	--	--------------------------------------

1.2 本時の学習活動と教師の支援・評価 (7/9)

(1) 学習のねらい

- ねらい1 リズムに合わせて、跳って遊ぶ。(リズム遊び)
ねらい2 動物が出会い、いろいろな動きを、跳って遊ぶ。(表現遊び)

めあて① いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう
めあて② すきな動物になってお話を作って踊ろう

(2) 授業概説

- ① コーディネーション運動の多様な動きを行うことで、心と体がほぐれ、意欲的に表現リズム遊びが行えるであろう。
② 活動の場を設定することで、活動に対するイメージを膨らますことができ、変身する動物の特徴にあった体の動きが工夫されるであろう。

(3) 準備

じわらじわら、マット、4ボール、フワフワ、登りか、長縄、動物のお面、オロイトボイ、(ジャングルの)掲示

(4) 展開

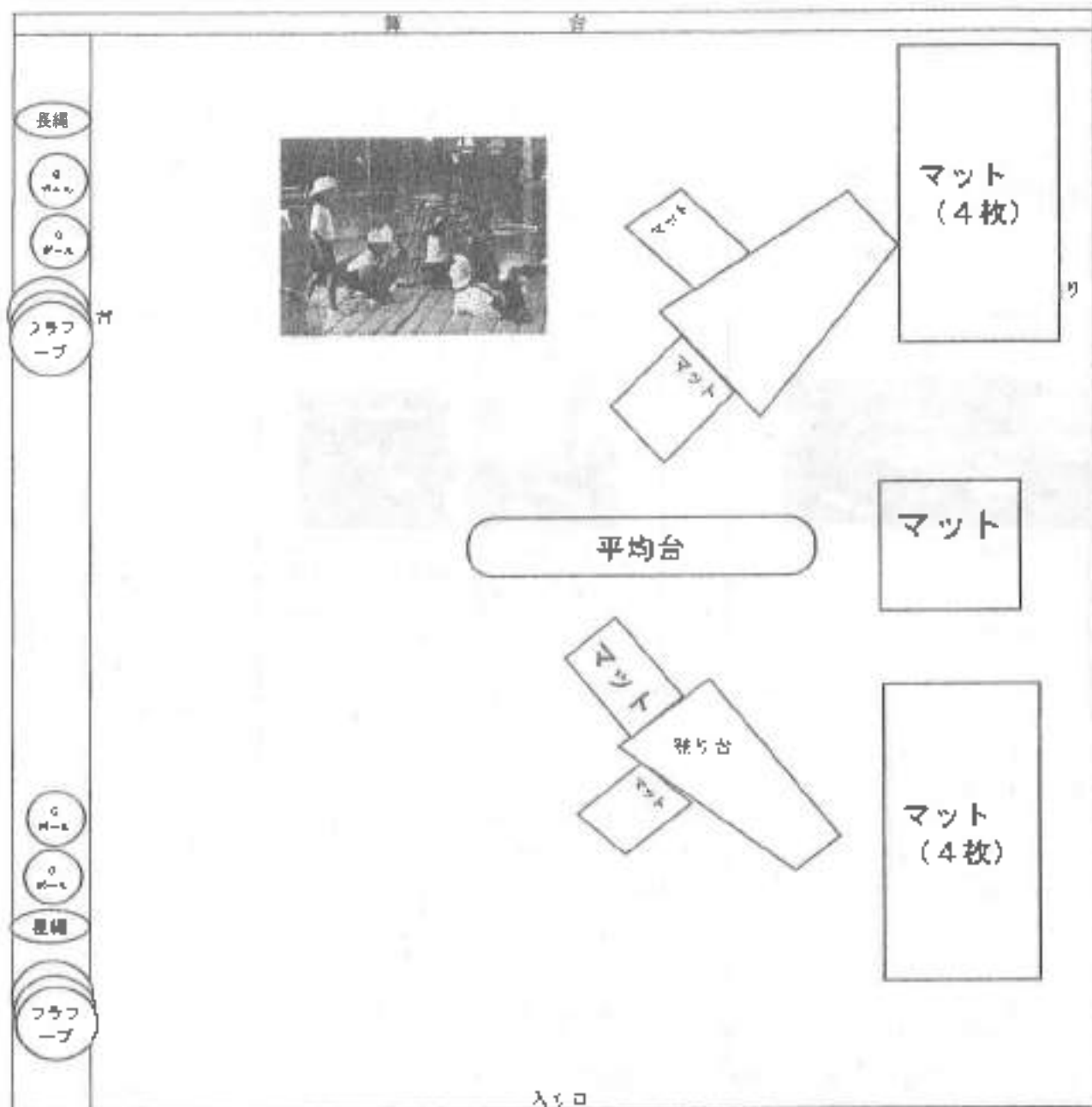
	学習のねらいと活動	役割	○教師の支援 ★留意点	評価	備考
はじめ 10分	1 準備運動をする。 2 本時の学習確認をする。 3 コーディネーション運動をする。 - ペアストレッチ - 片足じゃんけん - 1分間縄跳び - 新聞紙あそび - きらうりの塩もみ	T1 T2 T1 T2	○道具の安全確認をする。 ○本時の流れを確認する。 ★楽しく学習がスタートできるように、ペアと椅子を合わせたり、全身を使って遊ぶ事を取り入れる。 ★外で表現することの抵抗感を和らげるために、経験したことのある動きで遊びながら表現遊びへ入るようにする。 ○仲良く触れ合いができるように、声をかける。	○学習のめあてを守り安全に気をつけながら活動しようとする。 【安全(調・意・態)】	BGM
なか ① 5分	4 リズム遊びをする。 ・2つのグループに分かれ、アップテンポの曲に合わせて、全身を使って自由踊る。 ・お互いに見せ合い、みんなで楽しく踊る。 ターン スキップ 緩むねり 足上げなど	T1・T2 T1・T2 T1	○リズムに乗って踊れるように、きつめのグループに入ってかた声を出し、恥ずかしさを吹き飛ばし尊重気持をする。 ○恥ずかしがって動きの小さい児童がいたら、仲の良い友達や教師と一緒に踊ってみるようさせる。 ○お互いのゲームの良い動きを取り入れながら動きを盛りだくさんで、みんなで踊る。	○まったりスキップしたりなど、リズムに合った動きを取り入れる。工夫したりしているか。 【リ・意・興②】	由
なか ② 5分	5 めあて①を確認する。 めあて① いろいろな動物に変身して楽しく遊ぼう ・5名×4グループで活動場所に広がる。 ・今まで変身した動物になって曲に合わせて動く。 例) さく うさぎ	T1・T2 T1 T1	○一人一人の動きを見ながら、全身を使って動かすように促す。 ★途中に場面を変化する音楽を入れて、様々な動きを体験することができるようにする。(例)「さく」「うさぎ」等) ○「さく」「うさぎ」の場面を取り入れ、動きが緑色まつける。	○経験した動物の動きや椅子を思い浮かべて楽しく表現遊びをしようとする。 【表・調・意・態②】	可
なか ③ 15分	6 めあて②を確認する。 ・好きな動物のお面をかぶる。 めあて② 好きな動物になってお話を作って踊ろう 7 音楽を聞いて2場面目のイメージをつかみ、グループでの活動を行う。 ・今日のお話をグループの代表が発表する。 ・4つのグループに分かれて、好きな動物でジャングルの探検するときの話を作る。 ・音楽を聞きながら、どのような動きをするかグループ内で踊る。	T1 T1・T2 T1・T2	○前時の各グループのお話を振り返ることで、今日の活動に入りやすくする。 ○道具の安全確認をする。 ○前時までの活動の様子を全体で確認する。 ○グループのめあてを基に各人の動きや場面や道具をどのように使うか、話し合いがスムーズにできるように支援する。 ★イメージバスケットに出てきた動物の動きをヒントに、動きが工夫できるようにする。 ○仲間と協力しながら、いろいろな動きを作り、楽しく踊ることができるようにする。	○変身したい動物を選び、動物の特徴に合ったお話を作っている。 【表・意・調①】 ○動物の特徴を簡単なポーズや動きで表すことができる。 【表・技能①】	由 担任 下

ま た 10 分	8 ミニ発表会をする。 ・各グループでお互いの踊りを見合う。 ・真似したい所を発表させる。	T 1 T 2 T 1	○相手の気持ちになって見るように支援する。 ○活動をVTRに撮り、次時の活動に生かす。 ○本時の活動を振り返って、工夫できた所をみんなで話め合う。	
	9 今日の学習の振り返りをする。 ・感想を発表させる。 ・学習カードの記入は各教次で行う。	T 2	○活動の良さが見られた児童に児童を促す。	
	10 次時の予告をする。	T 1	○次時の活動の説明をする。	

(5) 評価

- ① 経験した動物の動きや様子を思い浮かべて楽しく表現遊びができたか。 【表現遊び：関・意・態①】
- ② 表現したい動物を選び、動物の特徴に合ったお話を作ることができたか。 【表現遊び：思・判③】
- ③ 動物の特徴を簡単なポーズと動きで表すことができたか。 【表現遊び：技能①】

1.3 場の設定



1・2年の授業の様子

*コーディネーション
2人でなかよく



*新聞紙遊び
いろいろな動き



*きゅうりの塩もみ



*リズム遊び



*話し合い



*好きな動物になってお話をつくろう



*お話をきいての楽しみ



*ジャングルへ探検



授業研究会（1、2年表現リズム遊び6月9日（水）実施）

【1】授業者の反省

- 1、2年生ペアで調子を合わせながら、全身を使って遊ぶことができた。
- 異学年でリズムに乗って踊ったり話し合いができたのでよかった。
- 場の設定や音楽を工夫することにより、児童がなりきって表現していた。
- 身体を動かすことが好きな児童が多く、表現リズムにつなげやすかった。
- 2つのグループに分けることでさらに児童の意欲を引き出すことができた。
- 実際に動物をビデオや写真などで見せることで、表現がしやすくなった。

【2】研究協議（各視点から）

①児童の活動について

- 場の工夫や道具の準備がしっかりされていたので、児童が楽しく活動できていた。
- いろんな動物になりきっていたので素晴らしい。
- 2年生が1年生を教えるなど、グループ活動ができていた。
- 各グループの発言も活発でよかった。
- 場面ごとに音楽がかわっても児童がきちんと切り替えができていた。
- お話づくりでも、リーダーを中心にきちんと進められていた。

②教師の支援について

- T1T2の連携が取れていたのでスムーズに授業がながれた。
- ホワイトボードを活用し、目的意識をはっきりさせていたので児童の活動がスムーズだった。
- コーディネートでT1が新聞紙を使ったので児童の活動がのりのりだった。

③評価方法について

- ミニ発表会をすることで各グループの評価ができ、さらにマネしたいところを発表させることで、児童にも互いの評価をする場を設定していた。
- 学習カードを用意したが、授業内に書かせる時間がとれなかった。

④指導方法の工夫改善について

- コーディネーションの入りがスムーズで、新聞紙の提示などイメージしやすい工夫がされていた。
- 音楽も児童の表現にあったリズムやテンポの曲を選んでいたので、なりきって楽しく表現活動できていた。

⑤その他

- 低学年のリズム表現ダンスをもっと定着させたい。
- 低学年にあった音楽を選んだりするのに少し難しかったところもあった。

【3】指導助言①八重山教育事務所 指導主事 大浜 譲

I 本時の授業について

1 指導案から

○T1 T2の役わりがしっかり明記されていたので、連携がとれ授業がスムーズに流れていた。

○研究主題や研究仮説へせまるための手立てが具体的で、教師の意図が各場面ごとにしっかり明記されている。

○他教科の関連がしっかり明記されている。

○単元の時間配分が一見して分かりやすい。

○場の設定がジャングルのようなのでよかった。

●単元の学習活動と評価計画では過程のことは学校として統一した方がよい。

2 授業から

○教師と子どもが一緒になって取り組むことが重要である。

○教師が積極的に関わっていくことが大切である。

○TTのあり方が良かった。(T1、T2役わりがしっかりしていた。)

○多様な活動の場を用意し、グループ同士の話し合いを持ち、活動へのイメージが膨らむような授業展開になっていた。

○教師の児童への声かけが非常に良かった。

●話し合いの場面の工夫が必要だった。

●一連の動きを教師側がしっかり見せる、イメージさせる。

●安全面に気をつける。(台から飛んだ児童の後にすぐ飛ぶ児童がいた。)

【4】成果と今後の課題

(成果)

○場の工夫をすることで、異学年でも協力していろんな活動ができた。

○各グループとも仲良くし、話し合いからダンスまでうまくできた。

○コーディネーション運動を楽しくすることができた。

○適切な音楽を選曲をすることにより、表現意欲を高めることができた。

(課題)

●自由にさせるなかにも規則性を持たせる指導工夫。

●表現リズムの質を高める手立て。

体育科学習指導案

平成22年 5月 25日(火)5校時
 与那国小学校体育館
 与那国小学校 3年 男子 4名 女子 8名
 4年 男子 6名 女子 4名
 指導者 T1宮良善起 T2東内原初紀

1 単元名 マット運動

2 単元設定の理由

全国的に児童の体力低下が叫ばれる中、本学級においても、運動能力の高い児童、そうでない児童の二極化が進み、今年度実施した体力テストの結果からもその様子をうかがうことができる。

このような中、運動のもつ楽しさに触れ、かつ、自己の能力を伸ばすことのできる単元を設定することで、誰もが運動のもつ楽しさ、仲間とのかかわりの中で感じる喜びを味わい、生涯スポーツの架け橋となる授業を展開したいと考える。

そこで、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したり、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりすることで、楽しさや喜びを味わうことのできる器械運動系、マット運動(克服型)の種目を取り上げたい。

本学級の児童は、低学年の時からマットを使った運動遊びを経験し、体育学習の持つ「遊び」の部分にも十分触れることができたと考ええる。

本単元では、マット運動の特性を踏まえ、場の工夫やコーディネーション運動を取り入れる。そして、運動の持つ楽しさやおもしろさを追求させることで体育科の目標である「運動に親しむ資質や能力が、高まることを工夫し、本単元を進めていきたい。

また、本単元終盤に計画された、シンクロマットでは、個人が培ってきた能力を出し合い、グループごとに演技を創作する活動も計画されている。話し合い、実践、反省のサイクルを繰り返す中で、集団で活動する楽しさにも十分ふれさせる授業展開をしていきたい。

3 マット運動の特性

(1) 一般的特性

マットの上でいろいろな回り方を工夫して回ることが楽しい運動である。得意な回り方で上手に回ったり、新しい回り方に挑戦したりして楽しめる運動である。

(2) 児童から見た特性

これまでのマット運動の経験から、前転、後転などはほとんどの児童ができるようになっており、できる回り方に変化をつけたり、続けて回ったりして楽しむことができる。また、できそうな回り方、特にとび前転や前方倒立回転などダイナミックな回り方に挑戦し、できるようになりたいと感じている児童が多い。

<自己とのかかわり>

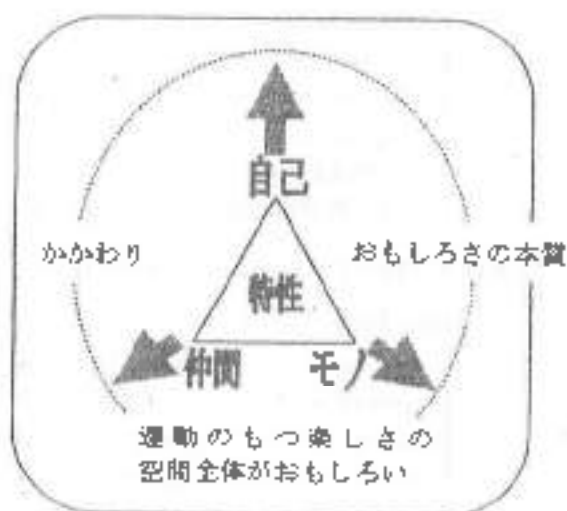
- ・できなかった技ができるようになると楽しい。
- ・自分の体の動きに気付くと楽しい。
- ・めあてを立て、その課題解決に至る過程が楽しい。

<仲間とのかかわり>

- ・練習を工夫し、教え合って学習できると楽しい。
- ・仲間からアドバイスをもらえると楽しい。
- ・みんなに自分の技を見せると楽しい。
- ・みんなと安全面に気をつけながら、活動ができると楽しい。

<モノとのかかわり>

- ・自分にあつた場の設定を見つけると楽しい。
- ・自分で場を工夫し、回転感覚や逆さ感覚を体感すると楽しい。
- ・自分の動きを、VTR でチェックできると楽しい。
- ・安全面に気をつけながら、活動ができると楽しい。



※子どもにとっての「おもしろさ」の概念

(3) 運動の特性と「自己・仲間・モノのかかわり」について

「楽しむ」には、仲間にはたらきかける楽しさと、モノにはたらきかける楽しさ、そして自己にはたらきかける楽しさという3つの楽しさがある。

仲間にはたらきかける楽しさとは、仲間との相互交流(学び合い・話し合い)を通して、自己と仲間に対する認識、及び集団の認識を深めることができることである。

モノにはたらきかける楽しさとは、マットの上で転がったり、跳ねたりなど、マット(場・空間)を媒体としながらマット運動の技能が高まっていく喜びから生まれる楽しさのことでもある。また、用具を使用する際、大切に扱うことも忘れてはならない。

自己にはたらきかける楽しさとは、運動を通して味わう上記の楽しさの中から、自己のめあてを立てさせ、その個々のめあての達成によって生まれてくる楽しさを言う。

4 児童の実態

(1) 3年

- ・明るく元気で活動意欲にあふれている。
- ・休み時間も外遊びをする児童が多い。しかし、室内で遊んでいる子は、常に室内で遊んでいるという状況である。
- ・男女の仲が非常に良く、他教科でも友達同士教え合う事が多い。
- ・身体的な事情等により、「前転」や「後転」が巧まできない児童もいて、技能的な個人差は大きい。
- ・本単元は技の習得の過程で、友達に補助してもらったり、励ましてもらったりすることがあり、友達との関わりを深められる学習であるため、このクラスに非常に適している。

(2) 4年

- ・明るく活発な児童が多い。
- ・スポーツ少年団の活動にかかわっていない児童、男子1名
- ・体を動かすことが好きな児童が多い反面、運動が苦手で、体育学習に積極的でない児童もいる。
- ・男女間の仲はいいが、一緒に活動すると、壁ができてしまう。
- ・他教科では、積極的に自分の意見や考えを発表できる児童が男子2名、女子1名、男子中心の学級のため、女子の活躍する場面が少なく感じる。

本単元を通し、自分の考えをしっかりと取り組む姿勢や、人のかかわりから、お互いの良さに気付き、協力して取り組むことのすばらしさを感じながら、課題を解決する方を身につけてほしい。

(3) アンケート結果・考察

① マット運動は好きですか

①とても好き(6) ②好き(15) ③嫌い(0) ④とても嫌い(0)

それはどうしてですか

- ・たのしいから・楽しくて寝られないから
- ・運動がすまだから・いっぱい動いて汗もいっぱい出てくという気持ちになるから
- ・転ぶことが好きだから
- ・できなかった技ができるようになったうれし・はじめてできることうれしいできた時が楽しいから
- ・いろいろな遊びができるから・いろいろな技が身につけて挑戦できるから、・マット運動の方が楽しい技もたくさんあるから
- ・後転や前転得意だから・しゅから
- ・それぞれに技と好きな技があるけど、好きな技が多いため

② めあてを持って学習することができますか。

①できる(10)

- ・めあてを持ったあとで頑張れるから・めあてを持って学習したらたくさんできる
- ・めあてを持って学習したらとっても楽しくできたから・いっぱいできるから
- ・めあてをひとつひとつ持って学習すると、できた時うれしい気持ちになる
- ・きめためあてを最後までやり通すから
- ・すいんで学習できるから
- ・めあてを持ったら、目標に向か頑張れるから
- ・めあてを自分で決めて、頑張りたいから

② だいたいできる(11)

- ・めあてを守ることもあるけど、たまにはできないことがあるからめあてを持ってたらがんばれる
- ・できる日もあればできない日もあるから
- ・めあてを持ってたほうが色々なことをやってみようからめあてを持ってた方が楽しくてやりやすいです
- ・めあてがある目標達成したときがうれしい

③ できない(0)

なし

③ マット運動はどんなときに楽しいですか。

- ・できない運動がめあてにしてできるようになったとき・めあてが初めて成功するとき・出来たものが出来たようになった時・できなかった技ができた時・技が出来た時・初めて出来るようになったのが楽しい
- ・いろんな技が組み合わさってできた時
- ・気分がいい・ほいみんなで大一生懸命やる時
- ・おもしろくやるのをペンギン・しゃくとり虫・カエルをやる時
- ・運動が楽しい・倒立前橋したとき・みんな技に挑戦できた時

④ マット運動はどんなときに楽しくないですか。

- ・出来ない時・続けて失敗した時・おぼろげな時・べたべたした時・おこられたとき
- ・ケガをした人がいても、その人が出来なくなるので、みんなも楽しくなくなるから

⑤ 今までにマット運動でどんな運動をしてきましたか。

- ・海馬・跳び前橋・倒立前橋・倒立前橋・三点倒立・後転・手くぐるノリ転・台上前橋・組み合わせた技
- ・ペンギン・カエル・ウサギ・動物歩き・カエル・しゃくとり虫・ウサギとび・アザラシ歩き・ま歩き・ゆりかご

⑥ マット運動で〇〇したい、〇〇になりたいということはありませんか。

- ・三点倒立が上手になりたい・壁につかなくて三点倒立がしたい・逆立ちをしてみたい
- ・倒立前橋マスターしたい・台上前橋・逆立ちで歩きたい・ゆりかごがしたい・アザラシ
- ・カエルとび・ウサギの技をなくしたい

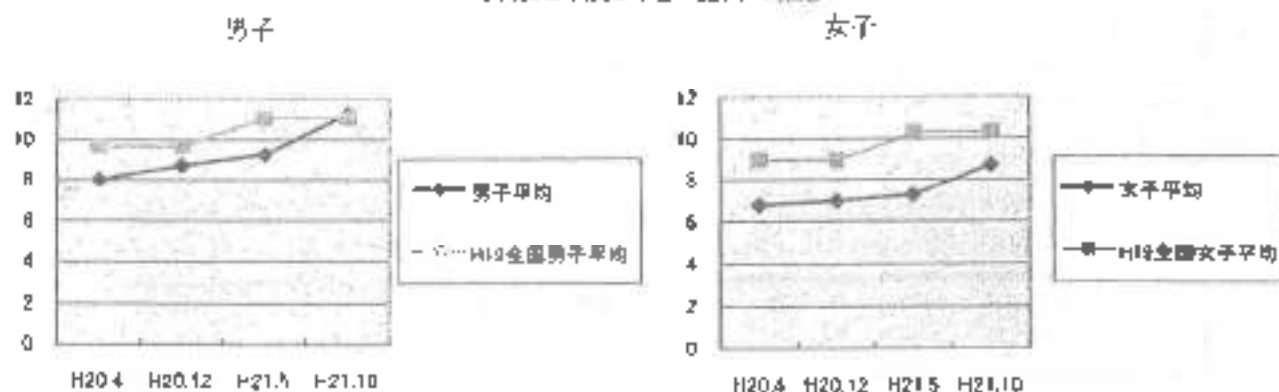
〈 考 察 〉

体を動かすことの大好きな3・4年生はマット運動アンケートの「① マット運動は好きですか」の項目に対し、とても好き6名、好き15名と、マット運動に対して良いイメージを持っていることがわかった。また、「② めあてを持って学習することができますか」に対し、ほぼ全員が自分のめあてを持って学習に取り組んでいることより、低学年から、しっかりめあて学習にとりくんでいる様子が見えがえる。しかし、なかには、「たまにはできないこともある」と答えている児童も2人おり、授業を進めるにあたり、一人一人がしっかりと毎時のめあてが立てられるよう支援していきたいと考えている。「③ マット運動はどんなときに楽しいですか」に対しては、多くの子が、「めあてが達成された時」「できない技ができるようになった時」と答えており、これまで、克服型種目の楽しさにも十分ふれていることが見える。また、「ペンギン・しゃくとり虫・カエル」をしている時にも楽しいと感じ、「⑤ 今までにマット運動でどんな運動をしてきましたか」の「ウサギ・アザラシ歩き・ま歩き・ゆりかご」等のコーディネーション運動に取り組んでいる際にも、運動の楽しさを感じている児童がいることもわかった。

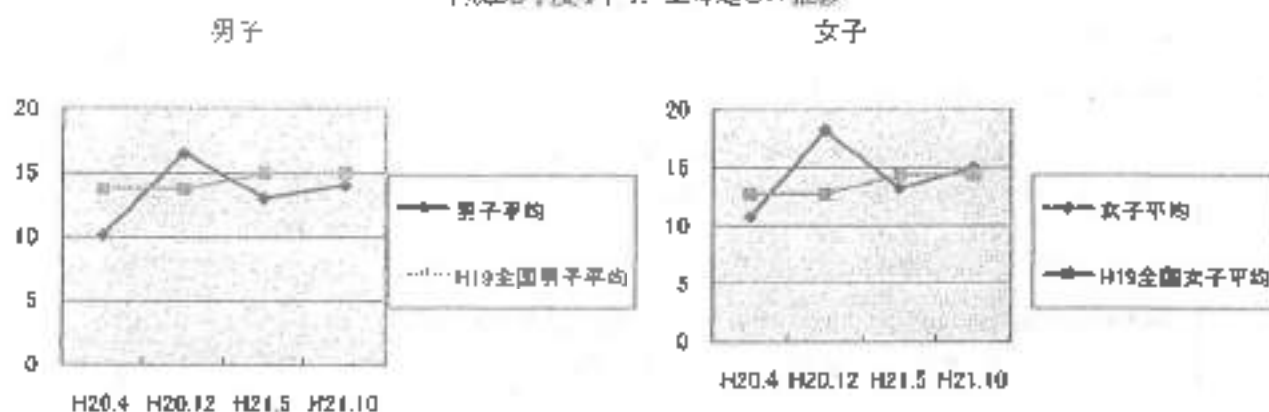
本単元では、導入時のコーディネーション運動や場の設定を工夫していくなかで、より多くの児童が自分にあった課題を見つけ、その課題解決に向け、取り組む過程をしっかり支援していきたい。

(4) 体力テストから見た児童の実態

平成22年度3年生 握力の推移



平成22年度4年生 上体起しの推移



過去2年間の研究期間に行われた体力テストの結果をH19年度の体力テストの全国平均と比較してみると、3年生では女子の握力、4年生では男子の上体起しと50m走が課題であることがわかった。このなかでも「握力」と「上体起し」は本研究授業の単元「マット運動」にも深く関わる部分である。そこで授業の毎時間初めにコーディネーション運動の時間を設け、楽しみながら体を動かしていく中で体力の向上を図っていく。

5 研究主題との関わり

(1) 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
 ～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとらえて～

(2) 研究仮説

- ①児童一人一人にめあてをもたせそれを達成させていくことで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- ②場の設定を工夫し楽しみながら運動することで、自ら進んで運動に親む児童を育成することができるであろう。
- ③児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ変化のある反復の中で楽しみながら考えさせることで、児童の技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。

(3) 主題へのせまり方

本研究では主題を達成するための3つのキーワードを「めあての持たせ方」「場の設定」「コーディネーション運動」とし、上記の仮説を設定した。本授業では毎時間の初めにコーディネーション運動に取り組み楽しみながら体力的課題を克服したり、主運動に必要な運動感覚を養ったりしていく。4時以降では「めあて1」と「めあて2」を組み合わせたスパイラル型の学習となるが児童一人一人の体力に合っためあてを設定できるよう注意し、達成感を味わわせ主体性を引き出して生きたい。児童一人一人に合っためあてを持たせるために重要になってくるのが場の設定である。児童のめあてを楽しみながら達成できる場を設定し子ども達が運動に進んで親むことができれば、本研究主題であるたくましい体と心をつくる児童の育成につながるのではないかと考える。

(4) 研究仮説にせまるための手立て

- ①一人一人にめあてを持たせそれを達成させていくことで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
ア2～3時ではステージ型の学習でしっかりと技を習得する時間を確保し、4時以降では児童一人一人が自分のめあてを設定し自主的に学習に関わっていくようにする。
イ4時以降では「めあて1」と「めあて2」をたてさせ個別型の学習をすることで、技を組み合わせることで連続してできるようにしたり、できそうな技に挑戦したりできるようにする。
- ②場の設定を工夫し、運動の楽しさや技ができる喜び味合わせることで、自ら進んで運動に親しみたくましい体と心をつくる児童を育成することができるであろう。
ア児童の興味・関心、技能、体力、理解力に合った運動の場を設定し、自分の課題に適した練習を選択できるようにする。
イ場は、児童の実態、興味・関心の変化に合わせて設定していく。
- ③児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえて反復することで、楽しみながら技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。
ア児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、課題克服に必要な運動の資料を児童に提示して、自分の体力の課題を意識して運動に取り組めるようにする。
イ変化のある反復を工夫し楽しみながら考える活動を通して、運動技能を向上させるためのレディネスを形成することができるようにする。
ウじぶんのめあてを達成するために必要な運動を選択できるようにする。

8 本単元における指導の留意点

(1) 自己のめあての設定

自分の能力にあつためあてを立てさせるようにさせたい。また、同じ課題に取り組む仲間と共に、学習できる環境を作っていきたい。

(2) 集団行動の徹底

本学級では、集団行動を基盤とした体育学習の展開を行ってきた。集合・整列等を短時間でを行うことにより、活動時間の確保、集団の員であることの自覚をさせている。また、楽しい活動のためには、事故やけが起きないように緊張感を持たせ望ませたい。

- ①休憩時間からの用具の準備及び、準備運動
- ②ランニング、準備運動のグループ行動
- ③集合・解散はかけ足
- ④学習の流れの把握



(3) デジタル機器の活用

児童は、技のつまづきを仲間や教師から客観的に伝えてもらふことはできる。しかし、実態には、そのイメージ化には時間がかかる。そこで、児童のつまづいているシーンを動画や写真として残し、その場でフィードバックする。つまづきこいち早く気づき、課題解決につながる指導につなげていきたい。

(4) 他教科とのかかわり シンクロマットの取り組み(7・8時)

シンクロマットの成功に向け練習し、演技の完成度を味わうことで運動の楽しさを感じ取る特性を持つ活動であることから、話し合いの時間がとても重要な位置をしめる。しかし、本教科の中だけで行ってしまうと運動量の減少につながるため、休み時間、昼休み、放課後等の時間を有効的に活用させたい。



7 学習のわらいと道すじ

(1) 学習のわらい

☆できる回り方で続けて回ったり、できそうな回り方に挑戦したりして楽しむ。

わらい1 ～個人の課題解決、ひとつひとつの技へ向き合う～

- ・ひとつの技ができるようにする
- ・いくつかの技を組みわせたり、連続してできるようにする

わらい2 ～集団での課題解決、技の組み合わせ～

- ・できるようになった技を仲間と協力して組み合わせ、グループ演技をつくる

(2) 学習の道すじ(時間配分)

毎時間「めあて1」を十分に行ってから「めあて2」に進む。

めあて1

できる回り方で続けて回ったり、組み合わせで回ったりする。

めあて2

できそうな回り方に、やりやすいマットや場所でも挑戦する。

8 時間配分

学習活動と内容 『心多(1)と(2)にシンクマット!』								
	①	②	③	④	⑤	⑥本時	⑦	⑧
0	Oオプショナル ・シヨ ・VIR鑑賞	準備運動・コーディネーション運動・めあての確認						
		わらい1					わらい2	
45	O学習の流れ確認 Oできる技の確認	・前転 ・とび前転 ・開脚前転 ・後転 ・開脚後転 ・側方側立回転 の技に挑戦する	めあて1		新しいめあて1		手探探検 シンクマット	手探探検 シンクマット
			めあて2		新しいめあて2			
学習の流れ通り・学習のまとめ・次の活動の確認・集合・挨拶・用具のチェック・学習ハートの提出								

D 器械運動の評価基準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
器械運動の楽しさを体験する	器械運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、お互いに協力して運動したり、機械器具の安全な使い方や安全に運動したりしようとする。	自分の力にあった課題の解決を目指して、練習の仕方を見つけている。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた技能を身につけている。
仲間と協力して運動する	①マット運動の楽しさや喜びを求めて進んで運動しようとする。 ②お互いに学び合ったり、協力しながら、めあての解決に向かおうとする。 ③学習の約束を守り、安全に気をつけながら運動しようとする	①自分の力に合っためあてを設定している。 ②自分の力に合った方法をえらんでいる。 ③マット運動の構成を工夫している。	①自分の力に合った技を選び、できぶよく技を完成させることができる。 ②新しい技を身につけることができる。 ③自分の力に合った技や、できるようになった新しい技を組み合わせ、演技することができる。
自分の力に合った課題を挑戦し、安全に運動する	〈1・2時間目〉 ・今できる技の確認に向かって進んで取り組み、マット運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・グループの友達と協力して動きを合わせたり、励まし合って練習をしたりしようとする。 ・マットの安全な使い方や安全に運動するための約束を守ろうとする。 〈3～7時間目〉 ①課題の解決に向かって進んで取り組み、マット運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ②友達と協力してグループの演技を考えたり、友達と励まし合って練習をしたりしようとする。 ③マットの安全な使い方や安全に運動するための約束を守ろうとする。	〈1・2時間目〉 ・今できる技が分かる。 ・学習のねらいや道筋を理解し、学習の進め方について大方の見通しをもっている。 〈3～7時間目〉 (めあて1) ①自分に合った技を選んで練習している。 ②自分に適した練習の場や練習の仕方を選んで練習している。 ③技のポイントや自分の課題について考え、自分のめあてが持っている。 (めあて2) ①今できる技やできそうな技を組み合わせ、工夫した演技の展開を考えている。 ②グループの課題を考え、グループのめあてが持っている	(1・2時間目) ・今持っている力の技が安定した動作でできる。 (3～7時間目) (めあて1) ①自分の力に合った技に取り組み、安定した動作でできる。 ②自分の力に合った練習の場で新しい技に挑戦してできるようになる。 (めあて2) ・安定した動作でグループの演技ができる。

1.0 学習における具体的評価尺度と評価計画

観点	単元の評価規程	学習活動における具体的評価規程				評価方法	2	3	4	5	6	7	8
		A基準 (十分満足できる)	B基準 (おおむね満足できる)	努力を要するレベルの平立									
関心・意欲・態度	<p>①ネット家庭の楽しさや喜びを求めて進んで参加しようとする。</p> <p>②おもしろい事があったり、協力し合いながら、初めての解決に件かおうとする。</p> <p>③学習の励みを守り、安全に気をつけてながら運動しようとする。</p>	仲間と学びあいまじまじと、補助などの力を求めようとする。	仲間と学びあいまじまじと、補助などの力を求めようとする。	仲間と協力し合いながら学習させる。	学習や片付けで自分の役割を果たし、約束を守って学習を進めようとする。	学習や片付けで自分の役割を果たし、約束を守って学習を進めようとする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		自分の力で学習資料や学習記録をもとに具体的なためてを設定している。	自分の力で学習資料や学習記録をもとに具体的なためてを設定している。	自分の力にあつたためてを定めてさせる。	自分の力にあつたためてを定めてさせる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
思考・判断	<p>①自分の力にあつたためてを設定している。</p> <p>②初めての解決方法を見つけている。</p> <p>③ソフトウェアの構成を工夫している。</p>	より多くの試みを行って、よりよい結果を得ようとする。	より多くの試みを行って、よりよい結果を得ようとする。	できることを試み、資料やVTRを活用させる。	できることを試み、資料やVTRを活用させる。	学習資料やVTRを参考に、自分の役割を見つけている。	学習資料やVTRを参考に、自分の役割を見つけている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		ソフトウェアの構成を工夫している。	ソフトウェアの構成を工夫している。	新しい試みが1つ以上できるようにする。	新しい試みにチャレンジさせる。	ソフトウェアの構成を工夫している。	ソフトウェアの構成を工夫している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
技能	<p>①自分の力にあつたためてを設定し、よく試みを行って、よりよい結果を得ようとする。</p> <p>②新しい試みを行って、よりよい結果を得ようとする。</p>	新しい試みが1つ以上できるようにする。	新しい試みが1つ以上できるようにする。	新しい試みにチャレンジさせる。	新しい試みにチャレンジさせる。	ソフトウェアの構成を工夫している。	ソフトウェアの構成を工夫している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		ソフトウェアの構成を工夫している。	ソフトウェアの構成を工夫している。	できることを試み、資料やVTRを活用させる。	できることを試み、資料やVTRを活用させる。	ソフトウェアの構成を工夫している。	ソフトウェアの構成を工夫している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

11 単元の学習活動と評価の計画

	時間	学習活動	評価方法と場由	教師の支援
ねらい ①②③④⑤⑥	①	アリスンアーシング ・字音のわらひや読み方を学ぶ。 ・安全についての約束やマナーについての確認 をする。 ・練習のマンツーマンにおけるできる技を確認する。	行動観察 学習カード	○児童達が進んで取り組めるように学習の資料を準備 する。 ○学習していく技の種類とも前を教える。
	②	・コーディネーション運動 ・前後とひ前転、開脚前転、仰で、三点直立に 挑戦する。	行動観察 学習カード	○能力が同じの児童同士で活動できるようにする。 ○つまずいている児童にはVTRで自分の欠点に気づ かせる。 ○資料やビデオを活用して、技の習得に必要なポイント に気づかせる。 ○安全に気をつけて学習させる。
	③	・コーディネーション運動 ・後転、開脚後転、両方向直立と転倒に挑戦する。	行動観察 学習カード	○能力が同じの児童同士で活動できるようにする。 ○つまずいている児童にはVTRで自分の欠点に気づ かせる。 ○資料やビデオを活用して、技の習得に必要なポイント に気づかせる。 ○安全に気をつけて学習させる。
	④	・コンビネーション運動 ①めあて1 できる回り方で続けて回ったり、組み合 わせて回ったりする。 ②めあて2 できそうな回り方に、やりやすいマットや場 所で挑戦する。	行動観察 学習カード	○能力が同じの児童同士で活動できるようにする。 ○コーディネーション運動時にめあて2で取り組む技 につながる運動を取り入れさせる。 ○つまずいている児童にはVTRで自分の欠点に気づ かせる。 ○安全に気をつけて学習させる。
	⑤	・コーディネーション運動 ①めあて1 できる回り方で続けて回ったり、組み合 わせて回ったりする。 ②めあて2 できそうな回り方に、やりやすいマットや 場所で挑戦する。	行動観察 学習カード	○能力が同じの児童同士で活動できるようにする。 ○コーディネーション運動時にめあて2で取り組む技 につながる運動を取り入れさせる。 ○つまずいている児童にはVTRで自分の欠点に気づ かせる。 ○安全に気をつけて学習させる。
	⑥ (本時)	・コーディネーション運動 ①めあて1 できる回り方で続けて回ったり、組み合 わせて回ったりする。 ②めあて2 できそうな回り方に、やりやすいマットや 場所で挑戦する。	行動観察 発表 学習カード	○能力が同じの児童同士で活動できるようにする。 ○コーディネーション運動時にめあて2で取り組む技 につながる運動を取り入れさせる。 ○安全に気をつけて学習させる。 ○つまずいている児童にはVTRで自分の欠点に気づ かせる。 ○習得した技を組み合わせて繰り返してできるように練 習させる。
ねらい ⑦⑧	⑦	・コーディネーション運動 ・グループごとに、シンクроматを発表に向けて 練習する。	行動観察 児童発表 学習カード	○今できる技やできそうな技を3～5種類の合わせて グループ演技ができるよう練習させる。 ○VTRで各グループの演技のできばえをチェックし る。
	⑧	・コーディネーション運動 ・グループごとに、シンクроматを発表する。	行動観察 児童発表 学習カード	○グループで創作したシンクроматを次のびと発 演できるようにさせる。

12 本時の学習活動と教師の支援・評価 (6/8)

(1) 学習のねらい

- ねらい1 今できる技を上手になしたり、できそうな技に挑戦したりして楽しむ。
 めあて1 できる回り方で続けて回ったり、組み合わせて回ったりする。
 めあて2 できそうな回り方に、やりやすいマットや場所で挑戦する。

(2) 授業仮説


- ・コーディネーション運動で基礎感覚づくりに取り組みることにより、マット運動の動きがスムーズに習得できるであろう。
- ・場の設定を工夫することにより、マット運動特有の感覚(逆さ感覚、回転感覚、腕支持感覚、体重移動感覚、バランス感覚)を容易に体験することができ、さらに技の習得へとつながるであろう。

(3) 準備

マット、ふみきり板、セーフティーマット、液晶テレビ(1)、デジカメ(2)、CD ラジカセ、学習資料、学習カード、掲示板

(4) 展開

	学習のねらいと活動	役割	○教師の支援	◆評価
開始	マット設置 用具の準備 1. ランニング 2. 準備運動をする。	T2 T1	○マットの準備をさせる。 ○ランニング・準備運動は授業開始前に終われるようにさせる。	
	3. コーディネーション運動をする。(4分) ・動物歩き ・かえるとび ・ウサギとび 等	T2 T1	○主運動に必要な基本的な動きを意識させる。 ○仲間と調子を合わせたり、リズムよくできるように声かけをする。 ○支援が必要な児童と共に運動をおこなう。	◆学習の約束を守り、安全に支えをつけながら運動しようとする。 【関・意・態①】
はじめる	4. 本時の学習確認をする。	T1	○本時の流れを確認する。	
	めあて1：できる回り方で続けて回ったり、組み合わせて回ったりする。			
なかの(1)まで	5. 「めあて1」の解決に取り組む。 【活動例】 前転—跳び前転—側立前転 前転—側立前転—開脚前転 ・安全を確認し、合図をしたがら順番よく取り組む。 ・同にめあての仲間と学び合ったり見合ったりして協力する。	T2 T1 T1	○児童の活動をVTRにおさめる。 ○安全を確認してから合図を送り順番を守って活動させる。 ○上手くできている児童を紹介する。	◆自分の力に合った技を選び、できればよく技を完成させることができる。【技能①】 
	めあて2：できそうな回り方に、やりやすいマットや場所で挑戦する。			
なかの(2)まで	6. 「めあて2」の解決に取り組む。 ・学習進度表にネームカードをはる。 ・自分の課題にあった場を選び、課題解決に取り組む。 【活動例】 坂マットで前転 麓マットで後転 メモリマットで飛び前転 ・同にめあての仲間と学び合ったり見合ったりして協力する。	T2 T1 T2 T1	○学習進度表で児童の活動を把握する。 ○つまづいている児童に技のポイントを確かめさせる。 ○VTRで自分の演技に気付かせる。 ○よい動きをしている児童を見つけ、紹介する。	◆めあての解決方法を見つけられる。【思・判②】 ◆新しい技を身につけることができる。【技能②】 ◆お互いに学び合ったり、協力し合いながら、めあての解決に向かおうとする。 【関・意・態②】

ねらい(ゴール) 7. 学習のため ・できるようになった技を発表する。 ・学習カードに各自反省を書き込む。 (時間がない場合は場内の会を利用する。) 8. 次の予告	T1	○本時の活動を振り返らせる。	
	T2	○めあてを達成したり、新しい技ができるようになったりした児童に発表を促す。	
	T3	○発案技の紹介をする。	
	T4	○次時のリンクはマットの説明をする。	

13 評価軸

- ・お互いに学び合ったり、協力しながら、めあての解決に向かおうとする。【関・意・態度】
- ・めあての解決方法を試みている。【思・判断】
- ・自分の力に合った技を選び、できればよく技を完成させることができる。【技能】

14 場の設定

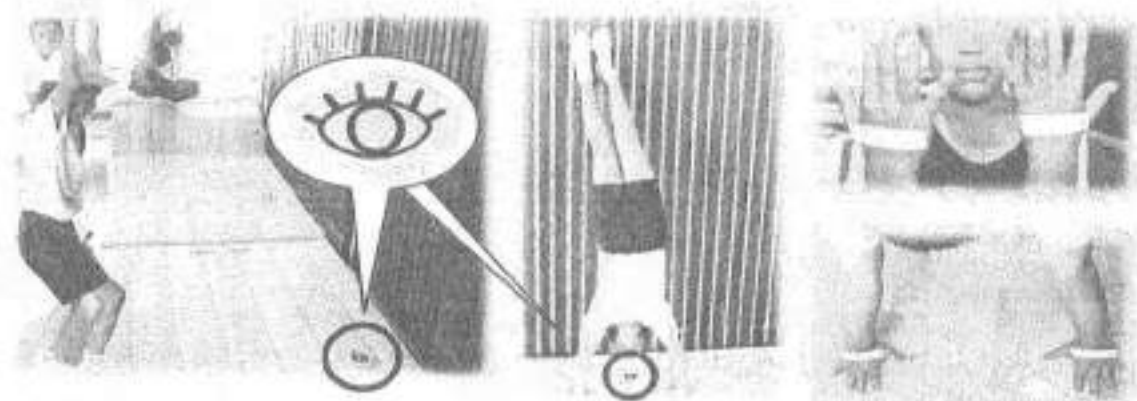


めあて1のマットを放射線状に配置することにより、教師が児童の活動を見やすくなりました。

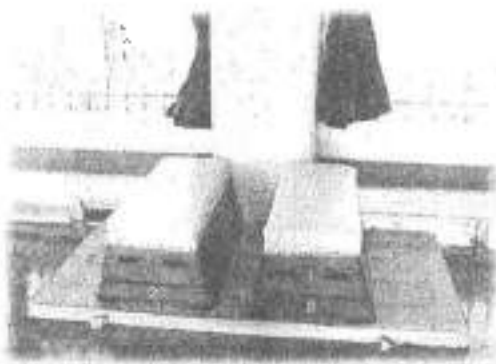


めあて2で挑戦する技に自分のカードを張り付けることにより、教師が把握しやすくなりました。

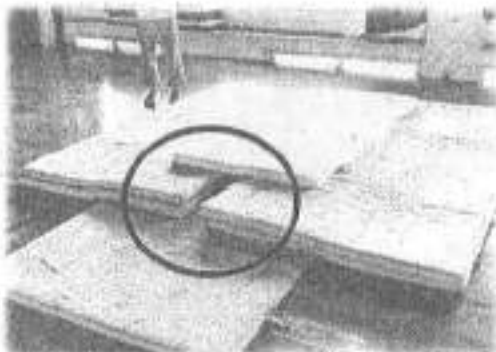
【マットの工夫】



倒立したときに、手の先をしっかりとみるために、視線マークをおきました。手にもテープも貼りました。



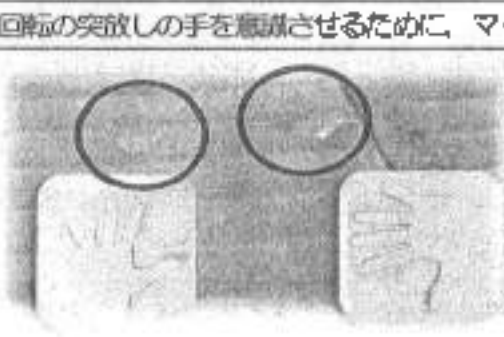
跳び箱を使い三点倒立の練習。両手で体を支えるので首への負担がすくないです。バランス感覚を身につけたら次は自分たちで練習です。



後転系の脚に難しい、首ゆがみが楽にできるように、マットに溝をつくりました。

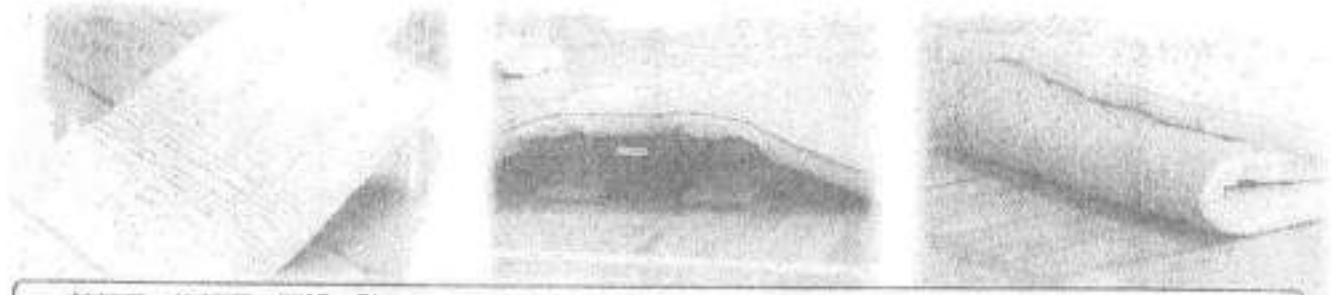


はじめは、丸めたマットを置いただけでしたが、跳びこせない子がいたため、段ボールに変えてみました。
回転力をつけさせるために、色つきマットをしいてみると、週くまで跳ぼうと意識する子がうえました。



側方倒立回転の突放しの手を転倒させるために、マットに手形をおきました。

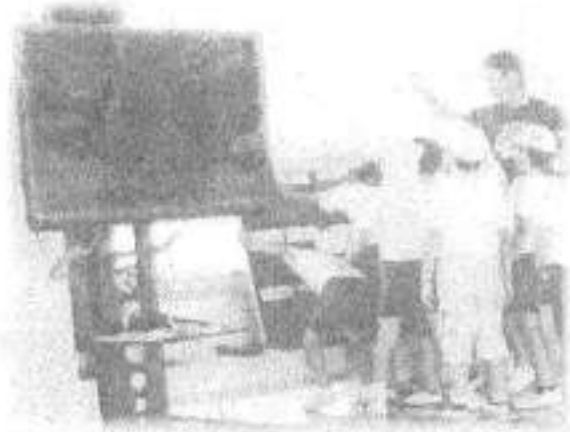
川渡りをするマット



前転系・後転系の回転に勢いをつけるための工夫。ロイター板やマットを重ねて板を作りました。



開脚前転をする際に、マットを重ねて段差をつくり、開脚しやすくしてみました。



今年度各学校に支給された、大型テレビを体育館に設置しました。大型テレビとデジタルカメラ（付属のコードで）をつなぎ、クリップ動画で撮影した子ども達のつまづきを、その場で見せました。自分のつまづきに気付いた子ども達は、マットにもどり、仲間と教え合いながら技のチェックをしていました。また、よくできた子の演技を撮影し、授業の最後に見せたり、授業後、教室で見せたりするなど、効果的に活用することができました。

【活動の様子】



壁をつかって倒立の練習



教え合いながら練習しました



開脚後転にもチャレンジ



マットが二枚あれば痛くないです



連続演技に挑戦中



男の子には負けません



二人同時に三点倒立



勢いよく後転して足を開く



シンクロマットの作戦会議中



あのグループのいい所を真似よう!



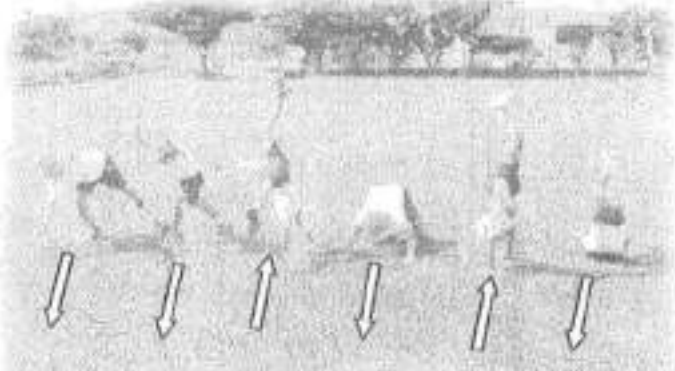
かっこよく背倒立



前転で、みんないっせいに右回り



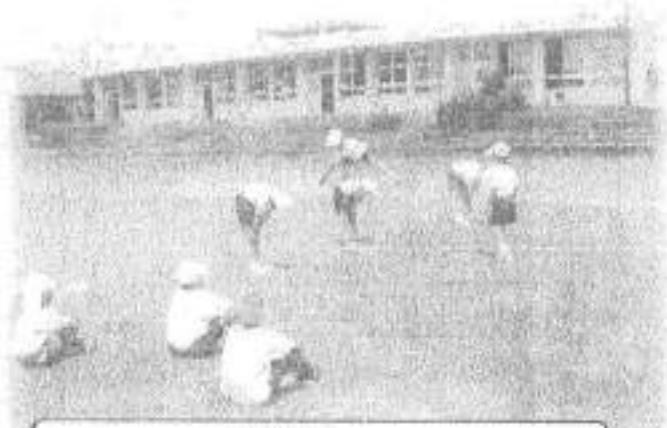
中央に向かって、せーの!



いっせいに交差しています



馬とびも取り入れました



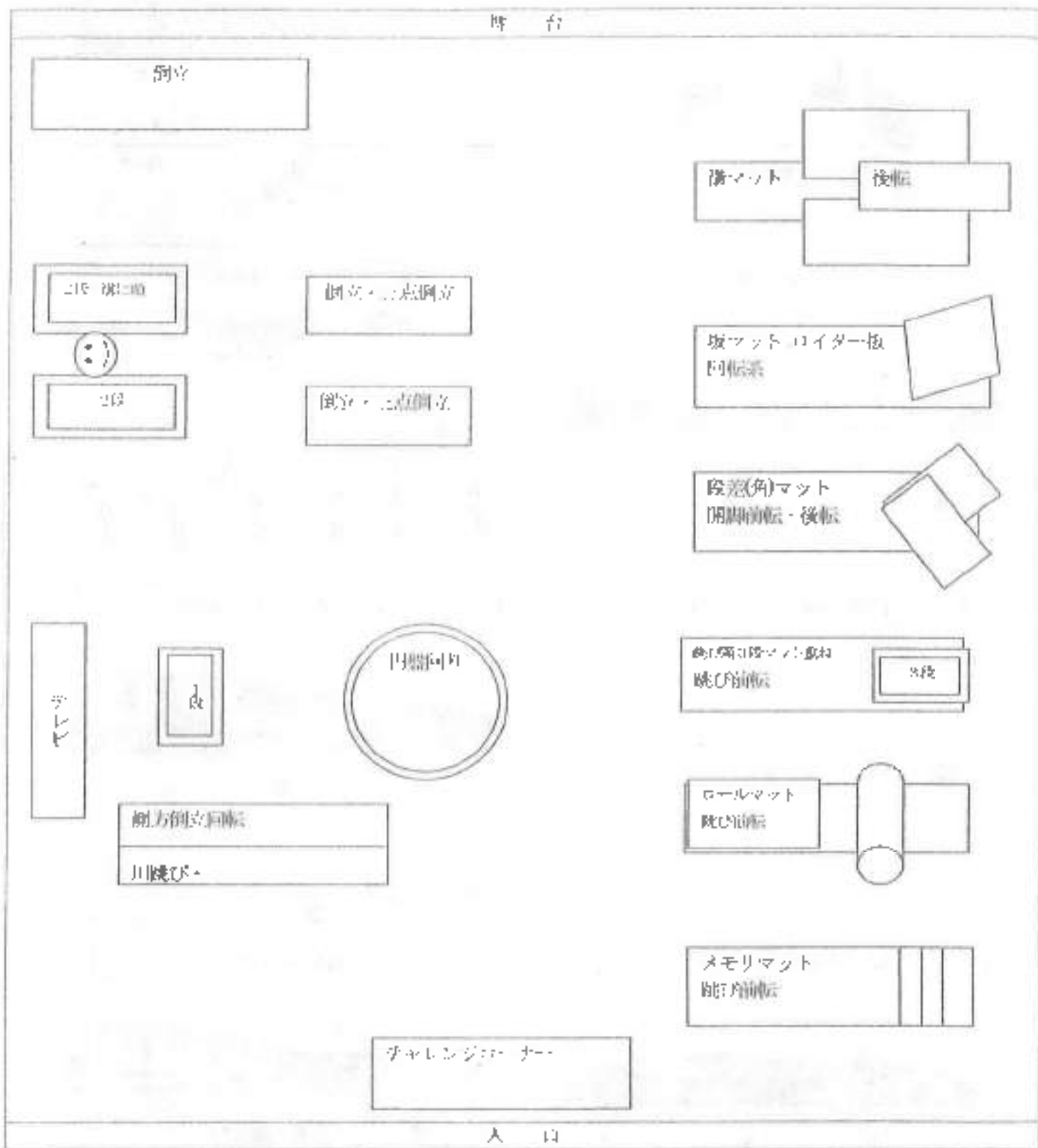
3回連続馬とびです



側方倒立前転でまわってみました



発表会で、ポーズもバッチリ!



1.5. 児童の感想

4年

僕は、3年生の時ににはできなかった技ができるようになりました。その技は、とび前転です。できた理由は、一生懸命練習したからです。もう一つの理由は、マットの置き方です。先生の考えたマットの置き方で練習すると上手にできました。そして、研究授業でとび前転が成功した時にはとてもうれしかったです。

4年

研究授業で、マット運動をしました。マット運動では、いつも、上手にできなかったことが、研究授業で上手にできたので、とてもうれしかったです。それに、とう立ちもいつもより長くできたのでよかったです。

また、シンクロマットをやって、最初は技やポーズをきめるので、たちどまってしまいました。けれど、みんなと協力していろいろアイディアを出し合って、それをほくがまとめました。そして、発表の時間がきました。その時僕は、きんちょうしていました。けれど、最後まで、ちゃんとできたのでよかったです。

4年

研究授業で、とび前転ができたことがとてもうれしかったです。前転で、手を使わずに立つことができました。また、シンクロマットでは、前転を3回連続できるようになりました。とてもうれしいです。

4年

マット運動では、できなかった倒立や後転ができるようになりました。そして、合わせ技ができたり、グループで教え合うことができてたりしました。研究授業では、きんちょうもしたけど、ひとつひとつの技ができあがったりしました。マット運動はにがただったけど練習してとてもうまくなりました。

また、シンクロマットでは、僕がリーダーとなりチームをまとめることができました。そして、みんなと息を合わせて発表しました。楽しかったです。

4年

最初はできなかった側方倒立前転も、ゴムを使って練習すると、だんだん上手になってきて、きれいにできました。きれいにできなかった後転もロイター板を使ってやると、うまく転がることができました。

4年

最初は前転くらいしかできなかったけど、練習をしているうちに、後転、側方倒立前転、開脚前転といろいろできるようになりました。しかし、倒立の力はむずかしいです。挑戦しても1回くらいしかできませんでしたが、でも、少しずつできるようになってきました。

また、シンクロマットでは、みんなと息を合わせられるようにがんばりました。それと、きれいに技をできるようにがんばりました。

3年

ほくは、はじめて三点倒立ができるようになりました。体育の時間にたくさん練習して、やっとできるようになりました。たくさん転んだり、体をうったりしたけれど、できるようになったときはとってもうれしかったです。

倒立も足をしっかりあげる事ができまし、手のひさも修行の場で練習してきれいにできるようになりました。

とて始程では、通くにとぶことはすこしてきたけど、高くとぶことができなかったのて、また修行の場で練習して成功させたいです。

はじめてのシンクロマットでは、みんなと息を合わせて演技するのがむずかしかったです。ほくたちのグループは動きを5パターン考えて、何回も練習しました。大きな声でかり声をかけながらやると、息がぴっぴり合っていました。上手に演技ができたのでよかったです。

3年

マット運動で一番がんばったことは倒立です。どんなふうがんばったかというと、まず、倒立修行の場でかへに足をぶつける練習をしました。それが合格したら、次は手を見る練習をがんばりました。かんへきにはできなかったけど、少しできるようになってうれしかったです。二年生の時のマット運動とくらへてレベルが高かったりと、いろいろな修行の場でたくさん技にチャレンジできたので楽しかったです。

3年

マットの授業では、最初にやったコーディネーション運動でくまさんや、カエルさんやウサギさんしゃくとりむしなどいろいろやってとても楽しかったです。二年生のころはマット運動にあまり慣れていなくて、技があまりできなかったけど、三年生ではたくさん技ができるようになってとってもうれしかったです。

私は、先生からのアドバイスや修行の場でいろいろ練習をして、授業が終わるころには三点倒立ができるようになりました。

シンクロマットではグループをつくってやりました。私たちのグループはリーダーを中心に話し合いをたくさんしました。真ん中に前転で集まったり、マットのまわりを丸く回ったり、たくさんパターンを考えました。みんな回る逆さがちがうので、起きあがるタイミングを合わすのが大変でした。私ちはやく回れるようがんばりました。

コーディネーション運動

★前転系

ゆりかご

- ①ひざをかかえ、 ②後ろへコロシ、 ③大きくゆれて、 ④前へゆれる、 ⑤ひざをかかえて止まる。



くまさん

- ①手をあげて「はしるまて! の合図でスタート!」 ②ひざを伸ばして、両手を着いて前へ進む。 ★両手に体重をしっかりおける。 ③(3秒間静止)



アザラシさん

- ①右手を前に、左手を次に前へと出し、両足を引きずる。 ②次々と手を前へ出し、前進する。 ③(3秒間静止)



ウサギさん

①手をあげてスタート。 ②しゃがむ。 ③手を高く持ち、両足を上げて、開く。 ④足を伸ばす。 ⑤両足を付けて、しゃがむ。 ⑥両足を付けて、しゃがむ。 ⑦両足を付けて、しゃがむ。 ⑧両足を付けて、しゃがむ。 ⑨両足を付けて、しゃがむ。 ⑩両足を付けて、しゃがむ。



ウサギの足打ち

①手をあげてスタート。 ②しゃがむ。 ③手を高く持ち、両足を上げて、開く。 ④足を伸ばす。 ⑤両足を付けて、しゃがむ。 ⑥両足を付けて、しゃがむ。 ⑦両足を付けて、しゃがむ。 ⑧両足を付けて、しゃがむ。 ⑨両足を付けて、しゃがむ。 ⑩両足を付けて、しゃがむ。



シャクトリムシさん

①手をあげてスタート。 ②両手を前へ背いて体を伸ばす。(ポン) ③両足の引きつけ1回目。(ドン)

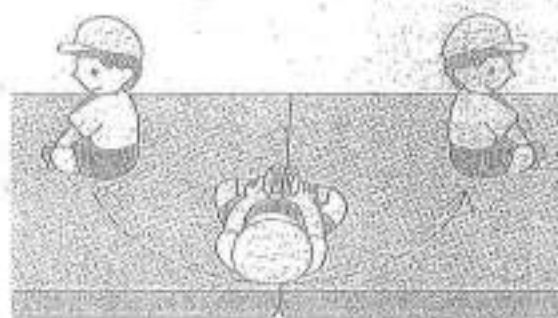


④両足の引きつけ2回目。(ドン) ⑤両足の引きつけ3回目。(ドン) ⑥体を伸ばす。(ポン)



ゴロリン遊び

背中を上手にのりつけて
回ろうね。



★後転系

- ゆりかご
- くまさん

- 大きなゆりかご
- アザラシさん

- ウサギの足打ち
- ゴロリン遊び

アンテナ



★側転系

- ウサギの足打ち

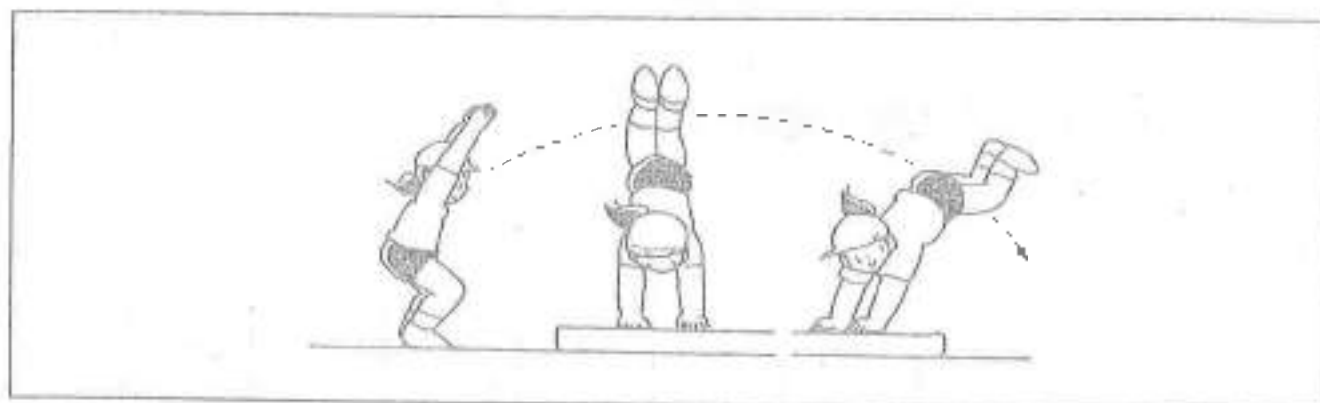
手押し車ジャンケン



小さな川とび



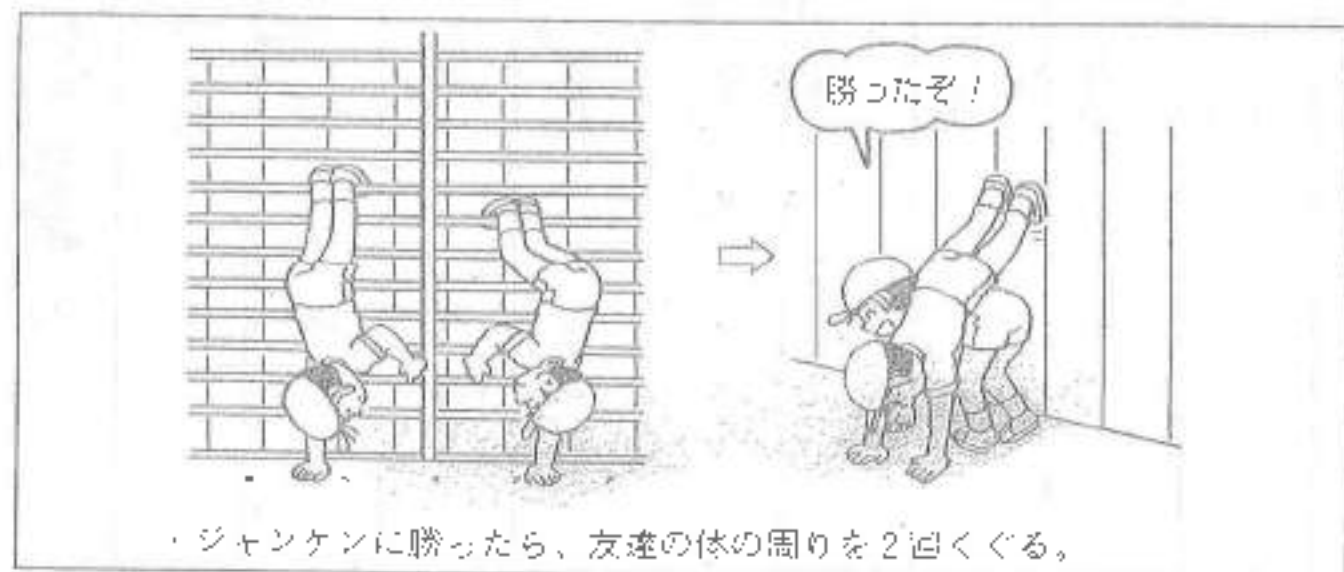
大きな川とび



★倒立系

○手押し車ジャンケン

よじのぼり逆立ちジャンケン



・ジャンケンに勝ったら、友達の体の周りを2回くぐる。

スピードかべ逆立ち



- ・1グループから1名が出て同時に「かべ逆立ち」をする。
- ・20秒間に、片足が同時に壁につくかを数える。(1回壁につく=1点)
- ・合計点をグループ(クラス)の順位とする。

*できない子はお手伝いで

マット運動 学習カード ②③

月 日 ()

●めあて1：自分のできる技を確認しよう!

コーディネーション運動

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
カエルの 尻うち 10回	カエ儿型 立 10秒	手押し車 10秒	プランジ 10秒	かへ倒立 10秒	ゆりかご おろすく 10回	(しゃがん で)翻転 10回	V字 バランス 10秒	片足水平 立ち 10秒	10秒 ダワー	
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
くまさん	アサラシ	しゃくと い虫	ウサギ	手おし車 じゃんけ ん	スピード 懸垂立ち	よじのぼり 壁立ちじゃ んけん	川を渡る	コロリン 遊び		

マット運動 学習カード ④⑤⑥

月 日 ()

●めあて1： できる回り方で続けて回ったり、組み合わせて回ったりする。

組み合わせる技

はじめ	つなぎ	なか	つなぎ	おわり

●めあて2： できそうな回り方には、やりやすいマットや場所で挑戦する。

自分のめあて：

挑戦する技

- ・小さな前転・大きな前転・とび前転・かいきやく前転・後転・開きやく後転・三点倒立・倒立
- ・前方倒立回転・倒立・側方倒立前転・その他 ()

練習する場所

技のポイント・気をつけること

●学習を振り返って(よくできた◎ できた○ もう少し△)

1	進んで練習に取り組みましたか。	
2	技と技を組み合わせられましたか。	
3	友達と教え合うことができましたか。	

ひとことコーナー

ソウ小運動 学習カード ④⑤⑥

5月25日 ()

めあて1: できる回り方で続けて回つた人、組み合わせせて回つた人にする。

組み合わせる技

1-2人組、3-4人組、5-6人組、7-8人組

はじめ	つぎ	なか	つぎ	おわり
1人	2人	3人	4人	5人

めあて2: できるような回り方には、やりやすいソウ小や場所を練習する。

めあて3: できるような回り方には、やりやすいソウ小や場所を練習する。

実践する技

小さな距離・大きな距離、とび制、かいたやく制、後転・側転やく距離、三点制立・側立、前方独立制、側立・側方独立制、その他 ()

練習する場所

ソウ小の回り方について、いろいろな場所を練習する。

技のポイント・気をつけること

手を握り、足を踏む。手を握り、足を踏む。手を握り、足を踏む。

学習を5分間つづけて、できるまで繰り返す。

1	足んで練習に取り組みましたか。	◎
2	技と技を組み合わせてみましたか。	◎
3	友達と教え合うことができたか。	◎

ソウ小の回り方について、いろいろな場所を練習する。

ソウ小運動 学習カード ④⑤⑥

5月25日 ()

めあて1: できる回り方で続けて回つた人、組み合わせせて回つた人にする。

組み合わせる技

1-2人組、3-4人組、5-6人組、7-8人組

はじめ	つぎ	なか	つぎ	おわり
1人	2人	3人	4人	5人

めあて2: できるような回り方には、やりやすいソウ小や場所を練習する。

めあて3: できるような回り方には、やりやすいソウ小や場所を練習する。

実践する技

小さな距離・大きな距離、とび制、かいたやく制、後転・側転やく距離、三点制立・側立、前方独立制、側立・側方独立制、その他 ()

練習する場所

ソウ小の回り方について、いろいろな場所を練習する。

技のポイント・気をつけること

手を握り、足を踏む。手を握り、足を踏む。手を握り、足を踏む。





学習を5分間つづけて、できるまで繰り返す。

1	足んで練習に取り組みましたか。	◎
2	技と技を組み合わせてみましたか。	◎
3	友達と教え合うことができたか。	◎

ソウ小の回り方について、いろいろな場所を練習する。

●めあて2：技のポイントを確認しよう!

技	必ずがしがつたところを○でかこむ	履つけ技のポイント
前転	<p>へかにけり、よどつく</p> <p>まのめまをつける</p> <p>助走をすばやくおとす</p>	
開脚前転	<p>こしを高くして手をつく</p> <p>すばやく足を開く</p> <p>手のひらとかかかとを同時につく</p> <p>手でひたすら</p>	
立ち前転	<p>高く高くへおどす</p> <p>こしを高くして、足の手に</p> <p>ひざをすばやく丸める</p> <p>ひざをしっかりとつく</p>	
後転	<p>手のひらを上に叩く</p> <p>ひざを丸める</p> <p>ひざを丸める</p> <p>両手でマットをつきはなす</p>	
開脚後転	<p>ひざをのし、大きく開く</p> <p>手で強くつきはなす</p>	
側方倒立回転	<p>手を上に上げる</p> <p>こしを上げる</p> <p>ひざをのし、大きく開く</p> <p>ひざに足をつきはなす</p>	

倒立前転	 <p>足を大きく のり上げる。</p> <p>せびきを孔め 定にむねを 引こつける。</p>	
前方倒立取組	 <p>両手を 上げる。</p> <p>足もと 手につく。</p> <p>ひざを曲げない。</p> <p>体を大きく開き、 両手を伸ばす。</p>	
口倒立		
頭倒立		

●学習をふり返って(よくできた◎ できた○もう少し△)

1	進んで練習に取り組みましたか。	
2	自分ができる技を知りことができましたか。	
3	友達と教え合うことができましたか。	

ひとことコーナー

1学年	3学年	1・2学年
<p>ア マット運動</p> <p>・ 四角すく足の跳</p> <p>朝転、跳転よりわらの片足を 斜転など</p> <p>朝転並立 など</p> <p>・ 壁立も只跳り跳し跳立てし跳びく、と その発展型(四方跳立並立など)</p>	<p>3学年</p> <p>ア 基本の運動</p> <p>イ マットを使っていろいろなことが出来るようになる。</p> <p>・ いろいろなことが出来るようになる。</p> <p>・ 朝転並立(1人)</p>	<p>1・2学年</p> <p>A 基本の運動</p> <p>イ マットを使っていろいろなことが出来るようになる。</p> <p>・ いろいろな方向へいろいろなことが出来るようになる。</p> <p>・ マットで遊ぶ(かえる足打ち 壁寄り並立など)</p>
<p>・ 朝立すく足の跳</p> <p>・ 朝立すく足の跳</p>	<p>・ 朝立すく</p>	
<p>・ 跳の跳び方</p> <p>上に平した跳の中からはる跳を選び、それらにバ ランスやジャンプを加えて組み合わせる。</p>		
<p>イ 跳び運動</p> <p>・ 上がり跳の例</p> <p>・ 膝掛け跳り上がり、 逆上がりなど</p> <p>・ 支持運動跳の例</p> <p>・ つかえ込み跳(側方、後方)、 前方支伸跳、 支伸かけ跳など</p> <p>・ 下り跳の例</p> <p>・ 足から跳り降り、 石の跳り、跳み跳し下りなど</p> <p>・ 準備運動の例</p> <p>・ 跳びなどを用いた準備運動、準備運動の補助など</p>	<p>4 準備を使って跳つたり、上ったり、回ったりする。</p> <p>・ 膝掛け跳り上がり</p> <p>・ 逆上がり</p> <p>・ 前振り</p> <p>・ 片腕かき振り</p>	<p>ウ 跳びを使って跳つたり、回ったり、支伸して高び上がりたり、跳し降りたりする</p> <p>・ 反転跳り</p> <p>・ 支伸して跳り上がり・跳び下り</p>
		<p>・ ぶらさがり跳り</p> <p>ア 脚定跳びを跳つ(跳り下り、跳び降り、跳び下りなどの跳びをする。 ・ ジャンブルゴム、雲梯、うぐい、走り跳(跳びなど)での跳り下り、支伸跳り、跳び</p>
<p>ウ 跳び運動</p> <p>・ 支持跳び跳しの跳の例</p> <p>・ 朝立跳び、つかえ込み跳びなど</p> <p>・ 上り跳びなど</p>	<p>ウ 跳び跳を使ってまた跳び、や回ることが出来る。</p> <p>・ 支伸でまた跳び</p> <p>・ 支伸でのつかえ込み跳び跳し</p> <p>・ 跳び跳による跳ることが出来る</p>	<p>エ 跳び跳を使って支伸でまた跳り、また下りや跳び上がり、跳び下りなどを</p> <p>・ 支伸でまた跳り、また下り</p> <p>・ 支伸で跳び上がり・跳び下り</p> <p>・ 跳び跳び跳で支伸跳び跳し</p>
		<p>3 準備運動を使っていろいろな跳びをする。</p> <p>・ いろいろな跳び</p> <p>・ いろいろなポーズ</p>

授業研究会（3・4年 マット運動）

【1】 授業者の反省

(T1：4年担任 宮良善起)

- ・低学年の頃からめあて学習を続けてきている子ども達なので、めあて学習の進め方を知っていた。流れを子ども達が分かっていたため、指導がスムーズにできた。
- ・授業を進めていく中で、自分のめあてにあったコーディネーション運動を選ぶことができた。
- ・指導案を作成する段階で、授業の始めはステージ型、後半はスパイラル型にしてみた。始めに技のポイントを一斉指導できたため、後半、多くの子が、難易度の高い技にチャレンジしていた。
- ・VTRで、自分の演技を客観的に見ることができた。そのため、自分の演技をイメージでき、技の修正に役立てた。
- ・T1・T2の役割をもっと明確にするべきだった。できていない子への対応、安全管理、効果的な指導ができた。

(T2：3年担任 東内原初妃)

- ・自分に合っためあてを設定できるようになっている。
- ・めあて達成のためのコーディネーションを工夫して選択できる。
- ・最初に比べると準備や、集合等の動作が機敏になった。
- ・技のポイントを自分でも調べられるようになった。
- ・シンクロマットへつなげるため、自分の技だけでなく、仲間同士での教え合いを深めていけるとよい。

【2】 研究協議（各視点から）

①教師側から見た良さ

- ・教師が技のポイントを理解していた。
- ・めあての確認をしているか。→※ポイントをおさえているか（めあてカード）
- ・場の設定を多くすることで、できていない子への運動量の確保ができていた。
- ・デジタル教材を使い、子ども達に技の欠点を把握させていた。それによって、自分の欠点に気づき、技を修正できる子が増えた。
- ・指示が明確で分かりやすかった。
- ・授業最後に、発表の場が設定されており、達成具合を確認できていた。
- ・めあてが達成できた子の帽子が、白→赤に変わっており、一目で子ども達の達成状況が把握できた。
- ・技のポイントを師範しているのはよかった。

②教師側から見た課題

- ・T1・T2の役割分担として、達成できなかった児童への対応を明確にするべきだった。
- ・アップ〜体操〜コーディネーション運動の区切りが明確でなかった。→子ども達が、流れを把握していたため、アップ〜コーディネーション運動までを子ども達の自主性にまかせたため。
- ・マットの耳、ファイルや鉛筆の置場の確認し、安全確保すべきだったのではないかな。
- ・三点脚立の安全面をもう少しすること。
- ・学習カードに書かれためあてをどのくらい教師は把握しているか。

- ・できなかった子のめあてを、どのように手だてをしているか。
- ・場が空いているところがあるが、その活用をどうするか。

③子ども側から見た良さ

- ・準備が早く、メリハリができていた。
- ・子ども達が具体的にめあてを書けていた。
- ・各自コーディネーション運動を工夫して選択できていた。
- ・めあてが達成できた段階で帽子の色を変えることができる。
- ・音楽によって楽しく活動できていた。

④子ども側から見た課題

- ・同じことを繰り返している子もいた。
- ・めあて②ができた場合に、次のめあてに進むべきか、どうすべきか。
- ・チャレンジコーナーに教師はついた方がいいのか。→T1・T2の役割分担を明確に。

【3】指導助言 八重山教育事務所 指導主事 大濱 譲

1 本時の授業について

1 指導案からうかがえる点

- (1) 単元設定の理由より⇒「低学年の時からマットを使った運動遊びを経験し、体育学習の持つ「遊び」の部分にも十分に触れることができたと考える」

↓

- ◆類似の運動を豊かに経験していれば、初めて挑戦する「技」であっても、「できそうなきがする」ものであり、意欲的に挑戦する。
- ◆類似の運動を経験していない場合には、「できそうな気がしない」ものであり、恐怖心が先に立ってすくんでしまう。

↓

「できるかもしれない」「やってみよう」というきにさせることが教師のつとめ

- (2) 事前アンケート調査や新体力テストの結果、普及のスポーツ活動や運動経験の差などから児童の実態（課題等）をきちんと把握している。
- (3) 本単元と研究主題との関わりや、研究仮説にせまるための手だてが具体的に述べられており、単元年体の見通しができている。
- (4) 学習のねらいと通ずり、時間配分がとても分かりやすい。

- 1時 ⇒オリエンテーション
 2時～3時 ⇒習得する時間（ステージ型）
 4時～6時 ⇒活用する時間（スパイラル型）
 7時～8時 ⇒学習発表会（シンクロマット）

○「めあて学習」においてしてされているいくつかの問題点

- ①共通に学習させておきたい基礎的な経験や基本的な技を十分に学習させることができない（今までは運動の楽しさを重視していたため、教えるべき技能の中身を全面に出すことを押さえ、子どもの自発性を第一にしようとしてきたため。）

②能力と高いものとそうでないものの二極化がおきやすい。

③自己の能力にふさわしくない課題に取り組んだり、技の系統を無視した無謀な課題に取り組んだりするものが現れる。

④クラスに共通課題がないため、学習集団の協力関係が成り立ちにくい。

※子どもの自発的な学習を促進することを主としながら、指導性も十分に発揮される状態に持っていくこと。遠慮することなく、指導を入れること。

(5) 様々な工夫をこらした「場の設定」があり、児童がその場を活用してどのようなめあてを立て、その課題解決に向けて取り組んでいくのか期待できる。

(6) デジタル機器活用（児童のつまづいているシーンを動画や写真として残し、その場でフィードバックする）

○デジタル機器活用の利点

・よりよい動きを知ることによって（視覚的）、児童の学習動機の一歩となる。

・「前」「横」など、いろいろな方向から動きを見ることができるので、技に対してのイメージが持ちやすい。

・個人の課題に応じ、必要なときに「よりよい動き」を提示できる。

・静止画（副読本等）との併用により、効果がさらに期待できる。

・単元の学習期間中は、教室にもパソコン等を設置して児童がいつでも視聴できる環境をつくることで、学習前に挑戦する技のポイントの確認やイメージが明確になり学習意欲の向上が期待できる。

(7) 評価について

・異学年の合同授業をする際の評価については、別々にあった方がよい。

【4】成果と課題

〔成果〕

○多くの場を設定することにより、子ども達の力に合った練習場所を確保することができ、運動量の確保や技能の向上につながった。

○コーディネーション運動を取り入れることにより、スムーズに主運動に迫ることができた。

○写真や動画を見せ、技のポイントやつまづいている個所をフィードバックすることができた。

〔課題〕

●異学年合同体育の良さ T1・T2 の役割分担を明確にした授業展開。

●異学年で授業をする際の評価における表記方法及び、支援につながる評価の仕方。

●デジタルコンテンツの活用。（長休み時間や昼休み時間等、技のポイントを動画で見ることができ
る環境づくり）

③高学年部の実践

体 育 科 学 習 指 導 案

日 時 平成22年10月10日(日)
 場 所 与那国小学校運動場 (雨天時：体育館)
 対 象 5年1組 男子 8名・女子 5名
 6年1組 男子 5名 女子 6名
 授業者 仲 本 吏 佐
 平 良 賢 輔



1 単元名 二種競技 (ハードル・走り高跳び)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- ハードル走は、いくつかのハードルを調子よく、一定のリズムで素早く走り越す運動である。目標タイムやハードルの条件を設定することで、記録の伸びを確認しやすくなるので、各自に合った目標記録に挑戦ができる運動でもある。また、リズムカルな動作を繰り返すことにより、調整力を高められる運動である。
- 走り高跳びは、助走を有効に使って高さに挑戦して楽しむ運動である。また、個人やグループ間で跳んだ高さを競い合っ楽しむことのできる運動である。走り高跳びでは、走り幅跳びとは違い、リズムカルな助走が要求される。5歩や7歩での輪踏み高跳び、アクセント高跳びで走り高跳び競争をする中で、自然に各自に合った助走が身についてくる。さらに各自の力やめあてに応じた練習の場を工夫することによって楽しめる運動である。
- 二種競技は2種目の合計得点で他者との競争を楽しむ競技であり、不得意な種目では負けていても、得意な種目で点数を伸ばして勝つチャンスがある種目である。

(2) 子どもの立場から見た特性

ハードル走では、障害をとび越して走ることに興味を示す子どもが多い。また、ハードリングやインターバル走の技術が未熟なので、これが上手になれば記録が伸び、短距離走では勝てない相手に勝つこともあるので、楽しいと思っている子どももいる。

しかし、一方ではハードルに足がぶつかったり、足を引っかけて転んだりするのを恐れるために親しみにくい子どももいる。

走り高跳びでは子ども達の多くが、バーをとび越すことにおもしろさを感じている。また、友達とのとび比べに強い興味をもっている。自分の記録への挑戦欲求も強くなり、記録更新やめやす記録達成に興味を持ち始める子どもが多い。しかし、なかなか記録が伸びずに嫌いになってしまう子どももいる。

二種競技は個々の種目については、誰が能力が高い、といったことや不得意な種目などを自覚して、意欲的に取り組めない子どもも出始める。しかし、どちらか自分の得意な種目についての得点を倍にするなど、最終的な勝敗の決め方を工夫すれば、誰もが意欲的に取り組める機になる。

自己とのかかわり	仲間とのかかわり	モノとのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> ・自己のめやす記録を設定し、それに挑戦する。 ・めあてを立て、その課題解決に至る過程を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を工夫し、教え合う ・個人やグループで競争する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に課題にあった練習の場の工夫 ・安全面に気をつけながら、活動できる ・デジタル機器を活用した、振り返り

3 児童の実態

(1) 体育に関するアンケート 9月7日(火)実施

体育に関するアンケート結果

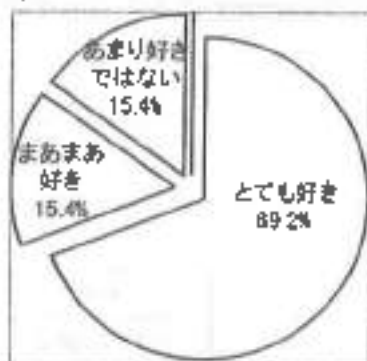
(5年 男子8名 女子5名 計13名)

(6年 男子5名 女子5名 計10名)

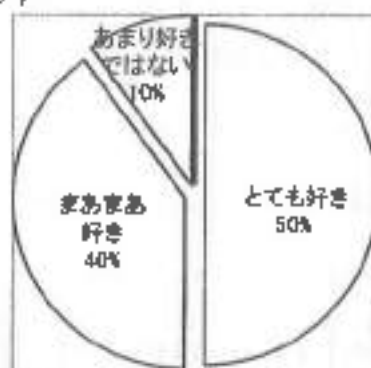
1 体育は好きですか。

	とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい
5年	9名 (69.2%)	2名 (15.4%)	2名 (15.4%)	0%
6年	5名 (50%)	4名 (40%)	1名 (10%)	0%

5年



6年



2 1で答えた理由をかいてください。

とても好き・まあまあ好きと答えた理由

- ・体を動かすことが好き (3名) ・とても楽しい (3名) ・スポーツが好き
- ・走ることは苦手だけど器械運動が好き ・走ることがおもしろい ・ボール運動があるから
- ・水泳など楽しい授業がある ・みんなでやるから楽しい ・体育が得意 ・好きな授業がある
- ・勝ったり負けたりするからおもしろい ・きらいでも好きでもないけど楽しい

あまり好きではないと答えた理由

- ・運動がきらい ・走ることがあまり好きじゃない

※ ほとんどの児童が体育を好きと答えている。「あまり好きではない」と答えた児童が3名いるが、運動が極端に苦手な児童はいない。

3 体育のどの種目が好きですか。(好きな種目に○をつけましょう。いくつでもいいです。)

種目	5年	6年
水泳	12名 (92.3%)	9名 (90%)
ボール運動	11名 (84.6%)	7名 (70%)
陸上運動	7名 (53.8%)	5名 (50%)
器械運動	3名 (23.0%)	2名 (20%)
持久走	3名 (23.0%)	2名 (20%)
ダンス	2名 (15.4%)	2名 (20%)
なわとび	1名 (7.7%)	2名 (20%)
体づくり運動	1名 (7.7%)	



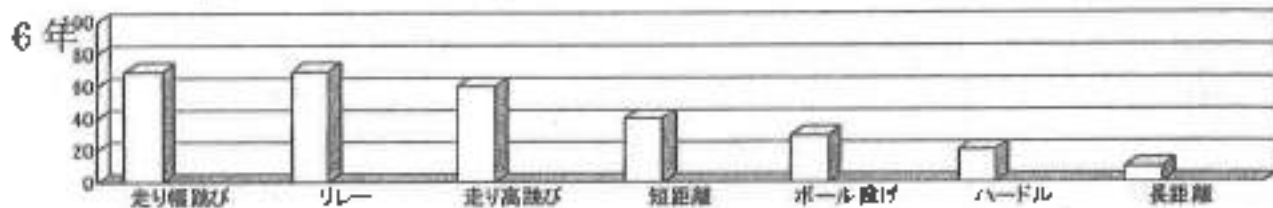
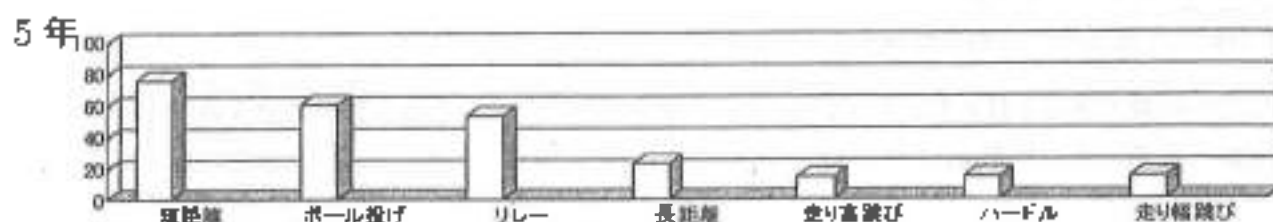
※ 上位の3種目について、水泳では泳力調査において5年生が75%、6年生が100%の達成率であり、好きな児童が多いことから結果にも表れているといえる。

本校には、野球部、バスケット部があり、休み時間などもボール運動を楽しむ児童が多いことからボール運動も人気の高い種目となっている。今回授業を行う陸上運動においては、陸上部へ所属している児童も多く、与那国島が陸上王国とよばれ、地域全体が陸上運動に関心が高いことから子どもたちへ影響していると考えられる。

4 陸上運動の中でどんな種目が好きですか。下の口から3つ選んで書きましょう。

種目	5年
短距離走(100m 200m)	10名(77.0%)
ボール投げ	8名(61.6%)
リレー	7名(53.8%)
長距離(1000m 持久走)	3名(23.0%)
走り高跳び	2名(15.4%)
ハードル	2名(15.4%)
走り幅跳び	2名(15.4%)

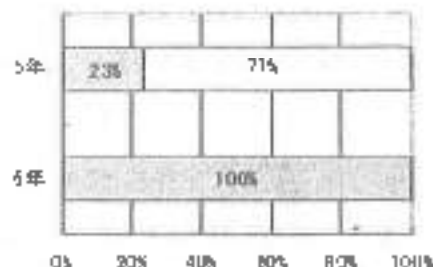
種目	6年
走り幅跳び	7名(70%)
リレー	7名(70%)
走り高跳び	6名(60%)
短距離走(100m 200m)	4名(40%)
ボール投げ	3名(30%)
ハードル	2名(20%)
長距離(1000m 持久走)	1名(10%)



※ 今回授業を行う2種競技のハードルと走り高跳びについて、ハードルは5,6年共に未経験だが、走り高跳びでは、6年生は去年経験していることもあり好きな種目の上位に入っている。上位の種目はどれも、子どもたちが経験したことのある種目であり、体験や経験をすることで興味・関心が高まることがアンケートからもわかる。

5 今までは「走り高跳び」をしたことがありますか。

	ある	ない
5年	3名 (23%)	10名 (77%)
6年	10名 (100%)	0名



ある
ない

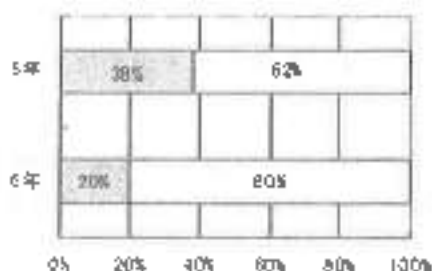
6 5で高跳びをやったことが「ある」と答えた人は、いつ、どんなことをしましたか。

- ・陸上の練習や体育の時間でやったことがある。
- ・5年生のときにやったことがある。
- ・体育ではさみ跳びをやった。

※ 6年生は去年の体育で走り高跳びを全員が経験している。5年生はほとんどが未経験だが、あると答えた数人は、陸上部の練習や大会などへの参加で経験したことがある児童。

7 今までは「ハードル走」をしたことがありますか。

	ある	ない
5年	5名 (38%)	8名 (62%)
6年	2名 (20%)	8名 (80%)



ある
ない

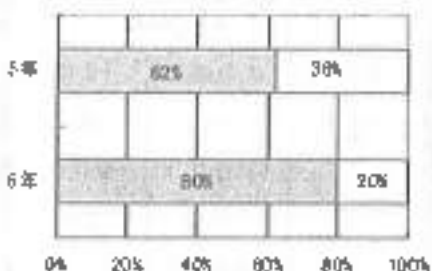
8 7で「ハードル走」をやったことが「ある」と答えた人は、いつ、どんなことをしましたか。

- ・陸上の練習でやったことがある。

※ 5、6年ともに体育の授業では未経験のため、したことがないと答えた児童が多い。陸上部の練習で経験したことがある児童が数名いる。

9 走って跳ぶ運動は好きですか。

	好き	きらい
5年	8名 (62%)	5名 (38%)
6年	8名 (80%)	2名 (20%)



好き
きらい

10 9で答えた理由を書いてください。

好きと答えた理由

- ・走ることも跳ぶことも好き (3名)
- ・気持ちいいから (2名)
- ・縄跳び高跳びが好き (2名)
- ・記録が伸びると楽しい (2名)
- ・走って跳ぶ瞬間がいい
- ・おもしろい
- ・速くに跳ぶことが好き
- ・跳ぶときのうれしさ
- ・跳んだときの風が気持ちいい

きらいと答えた理由

- ・跳んだりすることがちょっときらい (2名)
- ・足が痛くなるし、息切れしてきついから
- ・苦手だしあまり好きじゃない
- ・得意じゃないから
- ・うまく跳べない

※ 好きな理由としては、体で感じる気持ちよさや、記録が伸びる楽しさがあげられている。きらいな理由としては、うまくできないことで自信がなく楽しくないと感じている。

1.1 走って、より高く跳ぶコツは何だとおもいますか。

- ・おもいきり踏み切る (8名)
- ・足を高くあげてジャンプする (2名)
- ・おもいきり地面をける (2名)
- ・助走を速くする
- ・跳ぶ足をふんばる
- ・意識する
- ・タイミングよく跳ぶ
- ・立幅みたいに跳ぶ
- ・体重を前に出す

※ 速く走る・速くへ跳ぶコツを子どもたちは自分なりのイメージとして持っており、そのイメージを技能へとつなげることができる場合の工夫や指導を実践していく。

1.2 これから体育の授業でがんばりたいことを書いてください。

- ・もっと体力をつけたい (4名)
- ・ハードル走をがんばりたい (3名)
- ・高跳びをがんばる (3名)
- ・苦手なこともがんばる (2名)
- ・跳び箱 (2名)
- ・何でも一生懸命する
- ・陸上がんぱりたい
- ・幅跳びで3m 15以上跳びたい
- ・高跳びで1m 20を跳ぶ
- ・幅跳びで自己新記録をだす
- ・持久走をがんばる
- ・のびる子で3をとりたい
- ・できないことをできるようになりたい
- ・ミスもなくしておもいきりがんばる
- ・シャトルランやいろいろなことをがんばりたい

※ 得意な子も苦手な子も自分なりの目標や、気持ちを持っている。子どもたちの気持ちを大切に、個に応じた指導を実践することで技能を伸ばしていく。

(2) 体力テストにおける全国との比較

2種競技(ハードル走・走り高跳び)に必要なとされる主な運動能力として、**足力・跳躍力・柔軟性**がある。本校5、6年児童の体力テスト結果(H20～H22)から、50m走・立ち幅跳び・長座体前屈の記録の推移を県・全国と比較してみた。

5年(男子) ◎上回っている ○同じ ▼下回っている ※ () は県・全国と本校の差

	50m走(秒)			立ち幅跳び (cm)			長座体前屈 (cm)		
	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国
H20 (3年)	10.2	10.43 (◎0.23)	10.18 (▼0.02)	134.3	134.5 (▼0.2)	137.0 (▼2.7)	26.7	29.1 (▼2.4)	28.5 (▼1.8)
H21 (4年)	9.9	9.88 (▼0.02)	9.74 (▼0.16)	140.9	143.7 (▼2.8)	145.4 (▼4.5)	26.7	30.5 (▼3.8)	30.8 (▼4.1)
H22 (5年)	9.35	9.52 (◎0.17)	9.35 (○)	160.3	152.2 (◎8.1)	154.5 (◎5.8)	34.6	32.9 (◎1.7)	32.4 (◎2.2)

※ 50m走は、県を上回り、全国と同値であった。

立ち幅跳び・長座体前屈は、H20、H21を見ると県・全国平均を下回っているが、H22においては大きく上回っている。放課後に陸上練習をする児童が多く、その成果と考えられる。

5年(女子)

	50m走(秒)			立ち幅跳び(cm)			長座体前屈(cm)		
	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国
H20 (3年)	10.6	10.89 (◎0.29)	10.52 (▼0.08)	128.5	122.6 (◎5.9)	127.6 (◎0.9)	32.3	31.3 (◎1.0)	31.0 (◎1.3)
H21 (4年)	9.9	10.27 (◎0.37)	10.05 (◎0.15)	136.8	131.8 (◎5.0)	137.1 (▼0.3)	35.5	32.8 (◎2.7)	34.1 (◎1.4)
H22 (5年)	9.05	9.86 (◎0.81)	9.54 (◎0.49)	147.6	142.1 (◎5.5)	147.6 (○)	34.6	36.3 (▼1.7)	36.2 (▼1.6)

※ 5年女子においては、50m走で、県・全国を大きく上回っている。立ち幅跳びでも県を上回り、全国と同値であった。長座体前屈は、H20、H21ともに県・全国を上回っているが、今年度は県・全国を下回っている。女子は5年生になると身体の成長が著しく、体格、体力の発達が記録の伸びへとつながっていると考えられる。

6年(男子)

	50m走(秒)			立ち幅跳び(cm)			長座体前屈(cm)		
	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国
H20 (4年)	9.8	9.95 (◎0.15)	9.67 (▼0.13)	136.9	142.5 (▼5.6)	146.6 (▼9.7)	30.6	30.2 (◎0.4)	30.6 (○)
H21 (5年)	9.3	9.44 (◎0.11)	9.28 (◎0.02)	140.6	153.0 (▼12.4)	156.2 (▼15.6)	29.2	32.4 (◎2.7)	33.0 (▼3.8)
H22 (6年)	9.0	9.07 (◎0.07)	8.88 (▼0.12)	169.4	162.7 (◎6.7)	166.7 (◎2.7)	39.0	33.9 (◎5.1)	34.4 (◎4.6)

※ 6年生男子は、50m走・長座体前屈においては、過去の推移から見ても県・全国を上回っているが、H22の50m走で全国より下回った。立ち幅跳びは、今年度において県・全国を大きく上回っており、放課後の陸上練習の成果と考えられる。

6年(女子)

	50m走(秒)			立ち幅跳び(cm)			長座体前屈(cm)		
	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国	本校	沖縄	全国
H20 (4年)	9.8	10.3 (◎0.5)	9.98 (◎0.18)	144.0	133.7 (◎10.3)	138.2 (◎5.8)	37.0	33.1 (◎3.9)	34.1 (◎2.9)
H21 (5年)	9.7	9.78 (◎0.08)	9.61 (▼0.09)	150.8	143.6 (◎7.2)	146.2 (◎4.6)	34.4	36.0 (▼1.6)	36.0 (▼1.6)
H22 (6年)	9.91	9.49 (◎0.18)	9.23 (▼0.08)	146.8	150.3 (▼3.5)	155.1 (▼8.3)	40.0	37.4 (◎2.6)	39.1 (◎0.9)

※ 50m走・立ち幅跳びで、H20、H21は県・全国を上回っているが、H22の今年度において下回っている。長座体前屈はH20とH22で県・全国を上回っている。女子は全員バスケットボール部に所属しており、陸上運動よりもボール運動を好む児童が多い。

4 単元の日標

- (1) 「ハードル走」「走り高跳び」の技能を身につけたり、記録を高めたりすることができるようにする。 【技能】
- (2) 互いに協力して、安全に運動することができるようにする。 【態度】
- (3) 自分の力に合った課題を決め、課題の解決の工夫を工夫することができるようにする。 【思・判】

5 研究主題との関わり

(1) 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～ 一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとらえて ～

(2) 研究仮説

- ①児童一人一人にめあてをもたせ、それを達成させていくことで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- ②場の設定を工夫し、楽しみながら運動することで、自ら進んで運動に親しむ児童を育成することができるであろう。
- ③児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、変化のある反復の中で、楽しみながら考えることで、児童の技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。

(3) 主題へのせまり方

本研究では主題を達成するための3つのキーワードを「めあての持たせ方」「場の設定」「コーディネーション運動」とし、上記の仮説を設定した。

本単元の学習に当たっては、本校の校庭の芝生の柔らかさを生かし、児童が様々な運動を伸び伸びと気持ちよくできるように、いろいろな場で運動することを通して体力や技能の向上を目指していけるようにしたい。

コーディネーション運動では「体への気づき」「体の調整力」「仲間との交流」をねらいとした運動である。本単元ではハードル走・走り高跳びにつながるような動きを取り入れた運動を設定する。

単元の前半は今までの学習経験をもとに、基本のフォームを意識しながら簡単に跳べる高さを多く跳ぶことで、よりよい跳び方を身につけさせるとともに、着地に対する指導を十分に行い、安全に記録を伸ばしていくことができるようにする。また、ハードル走のインターバルの距離や高さ、走り高跳びのバーや助走路の工夫をすることにより、ハードルやバーの高さに対する恐怖心を和らげ安心して記録に挑戦することができるようにする。

単元後半では、自分の課題に合った練習の場を自ら選択することで、めあてを持って積極的に活動に取り組むことができるようにする。また、グループ内において個人対抗の競争をすることで、友だちとの関わりや競う楽しさを味わわせ、記録向上への意欲を持たせる。さらに、最後の2時間では、競争の工夫を工夫し、グループ対抗の競争を楽しめるようにする。

(4) 研究仮説にせまるための手立て

【手立て①】めあてをもたせる指導方法の工夫

- ア) 自己の50m走の記録及び身長より、ハードル走・走り高跳びの「めやす記録」を設定し、その達成度を得点化して個人又はグループ間で競争させることでめあての達成感を味わうことができるようにする。
- イ) 第2～3時日の学習では各種目の基本的な技能をしっかりと習得する時間を確保し、第6時日以降では児童一人一人が自分の「めやす記録」をめざして、自主的に学習に関わっていけるようにする。
- ウ) グループで対抗させることにより、グループ内での教え合いや励まし合いが増えるとともに、見るポイントを明確にし教え合いを活性化し質の高い跳躍ができるようにしたい。

【手立て②】場の設定の工夫

- ア) ハードル走では、インターバルの間隔を6m・6、5m・7mとしたり、ハードルをミニハードルや段ボール・ペットボトルなどを活用して高さを工夫し、自己の課題に合った場で練習に取り組む活動を行う。
- イ) 走り高跳びでは、バーをゴムや体に当たってもいたくない素材を工夫して活用したり、助走をリズムカルに行えるようリズム打ちや輪っか・ロイター板などを活用する。

【手立て③】コーディネーション運動の効果的活用

- ア) 児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、課題克服に必要な運動の資料を児童に提示して、自己の体力の課題を意識して運動に取り組めるようにする。
- イ) 変化のある反復運動を工夫し楽しみながら考える活動を通して、運動技能を向上させるためのレディネスを形成することができるようにする。

6 本単元における指導の留意点

(1) グループ作り（1グループ6人×4グループ）

- ・5、6年合計で個々の運動能力（50m走・立ち幅跳び等）を配慮し、等質でグループ作成する。
- ・5年は両種目とも未経験の児童が多いため、6年の児童が中心となるが、共に教え合い励まし合えるグループの雰囲気作りを心がける。

(2) めあての設定

- ・自己の能力に合った、めあてを立てさせるようにする。同じ課題に取り組む仲間と共に、学習できる環境を作る。
- ・ハードル走では50m走のタイムを、走り高跳びでは50m走及び自己の身長をもとにして、めやす記録の設定を行う。

(3) デジタル機器の活用

- ・児童は、技能のつまずきを仲間や教師から客観的に伝えてもらうことはできる。しかし、実際には、そのイメージ化には時間がかかる。そこで、児童のハードル走や走り高跳びのシーンを動画や写真を通して残し、その場でフィードバックする。つまずきにいち早く気づき、課題を解決できるようにする。

7 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

ハードル走と走り高跳びの二種競技をして楽しむ。

(2) 道すじ ①初めに、「めあて1」を十分に行ってから、「めあて2」に進む。

ねらい1：ハードル走と走り高跳びで競争する。

ねらい2：きまりを決めて、二種競技をする。

8 時間配分

	1	2	3	4	5	6	⑦(本時)	8	9	
準備	準備運動(駆け足縄跳び=運動場2周・ストレッチ)									
5分	オリエン テーション ・着目の進め方 ・ブル・ピング、役割分担 ・めやす記録の設定 ・コーディネーション運動の確認	あいさつ・学習のめあて・コーディネーション運動								
10分		ねらい1 「ハードル走」と「走り高跳び」で競争したり、記録に挑戦したりする。 ① 「ハードル走」「走り高跳び」の練習をする。 ・ハードル走(第2・3時) ・走り高跳び(第4・5時) ② 記録を計測する。 計測・スクリーン・記録の役割を分担して安全に行う。				ねらい2 きまりを決めて、二種競技をする。 ① 場を巡んで工夫した練習をする。 ② それぞれの場で記録を計測し、個人対個人の競争をする。 ③ 二種競技をする。 ・コーディネーションして2つの運動をする。 ④ 1人3回計測し、一番よい記録で得点を加え、グループの総得点で競争する。				
4分		学習のまとめ(学習の振り返りと記録の記入、発表、次時の学習について等…)								
4分										




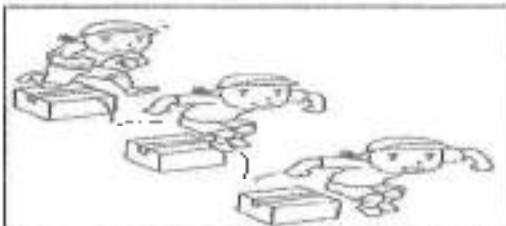
9 単元の評価規準

	作 業	関心・意欲・態度	思考・判断
陸上運動の基礎的な運動技能の習得	短距離走・リレー・ハードル走・走り高跳び・走り高跳びについて、競争したり、記録を有めたりするための技能を身に付けている。	陸上運動の楽しさや喜びを求め積極的に取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全の自覚を持って運動をしようとする。	自分の方にある課題の解決をめざして、練習の仕方を工夫している。
単元の学習目標	ハードル走 ○連続して走り出す技能を身に付け、競走したり記録に挑戦したりすることができる。	○自分の方合った課題をもって進んで活動に取り組もうとする。 ○競争の楽しさや記録挑戦の楽しさ、達成した喜びを伝えて味わおうとする。 ○ルールを守り、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。	○ルールや競走の仕方、作戦を決めている。 ○より楽しくなるようにハードルの種類・数・置く場所などを工夫している。 ○課題解決のために場を操作したり、練習の方法を工夫している。
	走り高跳び ○「高く跳ぶ」という走り高跳びの特性に応じた技能を身に付け、個人やグループで相手を並び競争したり、自分の目標記録に挑戦したりすることができる。	○友達と協力して、計測や記録などの役割を分担する。 ○運動する場や用具の安全を確認するとともに進んで準備を片付けを行う。	○ルールや競走の仕方、作戦を決めている。 ○自分の方合った目標記録や課題解決に向け練習方法を工夫している。

10 学習活動における具体的評価基準

		A基準：十分満足できる	B基準：おおむね満足できる	支援を要する児童への対応
技能	一、伸びる楽しさを感じさせる	①自分に合ったインターバルや歩のリズムで滑らかに調子よく走る事ができる。 ②自分にあった助走距離で、リズムカルに助走し、力強く踏みきって、できるだけ高く跳ぶことができる。	①ハードル走では、自分に合ったインターバルや歩のリズムで調子よく走ることができる。 ②走り高跳びでは、自分に合った助走距離で、力強く踏みきって、足を高く振り上げ体を高く跳びあげることができる。	①友達のハードル走を参考に、自分に合ったインターバルで、リズムよく走ることができるように支援する。 ②教師の支援を受け、自分に合った助走距離で、力強く踏みきって高く跳ぶことを意識させる
	二、楽しく運動へ参加させる	①自分の力に合った課題を持って進んで取り組み、競争の楽しさや目標記録に挑戦する喜びを味わうことができる。 ②遠方で記録や計測、用具の準備などの役割を分担し、互いに協力して運動に取り組みすることができる。 ③遠方で助走路や器具などの安全を確認することができる。	①自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、競争の楽しさや喜びを味わうことができる。 ②各種目の計測や記録などの役割を分担し、互いに協力して運動することができる。 ③助走路や器具などの安全を確認しようとする。	①自分に合った課題をもって取り組み、今日までの楽しさや目標記録に挑戦する楽しさや喜びを味わえるように支援する。 ②記録の計測、器具の準備などの役割を分担し、互いに協力して運動するように促す。 ③助走路や器具などの安全に気を配り、安全な運動を意欲させる。
	三、楽しむ楽しさを感じる	①常に公正な態度でのまわることができる。	①決まりを守り勝敗に対して公正な態度をとることができる。	①まわりを守り、勝敗に対して素直に認めるよう指導する。
三、判断	四、わかる楽しさを感じる	①いろいろな方法で、自分や友達の日課記録を立てることができる。 ②自分のめあてを決め、めあてに合った練習の場を選び、工夫して練習することができる。 ③自分に合ったインターバルと、助走距離を考え、より速く、より高く跳べるように工夫することができる。 ④友達の影響を聞き、前向きな意見やアドバイスを決め、二種競技を楽しむことができる。	①ハードル走と走り高跳びの、自分のめあてを決めることができる。 ②それぞれの種目について自分のめあてを決め、めあてに合った練習の場を選べる。 ③自分に合った、インターバルと助走距離をきめることができる。 ④みんなと話し合っさまりを決めて、二種競技を楽しむことができる。	①記録をもとにアドバイスを受けたがら、自分のめあてを決めさせる。 ②自分のめあてを決め、アドバイスを受けながら、めあてに合った練習の場を選ばせる。 ③自分に合ったインターバル、助走距離を考えさせ、高く走ったり、速くに着地できるように指導する。 ④みんなを決めたさまりの重要行を考え、楽しく競技をさせる。

11 単元の学習活動計画と教師の指導と支援（評価の観点）

	学習のねらい・活動	指導と支援	【 】評価																																				
オリエンテーション(45分)	<p>1 学習の進め方と過程を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>2 グループ分けと、役割を分担する。</p> <p>3 自分の「めやす記録」を作成する。</p> <p>4 自分の「めやす記録」を計算する。</p> <p>「めやす記録」の計算のしかた</p> <p>ハードル走のめやす記録表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男子</td> <td>1:30.0</td> <td>1:45.0</td> <td>1:55.0</td> <td>2:05.0</td> <td>2:15.0</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>1:45.0</td> <td>1:55.0</td> <td>2:05.0</td> <td>2:15.0</td> <td>2:25.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>走り高跳びのめやす記録表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>1.00</td> <td>0.80</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>1.20</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>1.40</td> <td>1.20</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>1.60</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>1.80</td> <td>1.60</td> </tr> </tbody> </table>	項目	1年	2年	3年	4年	5年	男子	1:30.0	1:45.0	1:55.0	2:05.0	2:15.0	女子	1:45.0	1:55.0	2:05.0	2:15.0	2:25.0	項目	男子	女子	1年	1.00	0.80	2年	1.20	1.00	3年	1.40	1.20	4年	1.60	1.40	5年	1.80	1.60	<p>・資料をもとに学習のねらいと進め方を理解させ、見通しをもたせる。</p> <p>・学習への意欲やめやすを記録し、一人一人が発表できる場を設定する。</p> <p>・競争のしかたや「めやす記録」の計算の仕方について、資料や説明を聞きながら理解する。</p> <p>・6人の男女異質グループをつくる。</p> <p>・リーダー、記録係、用具係などを決める。</p> <p>◎体は交代し合うよう指導する。 【開・意・態①】【思・知①】</p>	
項目	1年	2年	3年	4年	5年																																		
男子	1:30.0	1:45.0	1:55.0	2:05.0	2:15.0																																		
女子	1:45.0	1:55.0	2:05.0	2:15.0	2:25.0																																		
項目	男子	女子																																					
1年	1.00	0.80																																					
2年	1.20	1.00																																					
3年	1.40	1.20																																					
4年	1.60	1.40																																					
5年	1.80	1.60																																					
走る(10分×2回)	<p>1 あいさつ</p> <p>2 学習の確認</p> <p>3 着目感覚づくり(コーディネーション運動)</p> <p>①ケンステップ</p>  <p>②ミニハードル・レーニング</p>  <p>③人間ラダー</p>  <p>④ボックス跳び上がり</p> 	<p>・助走、踏みきり、空中フォーム、着地などにつながる感覚や基礎技能を高める運動をさせる。</p> <p>①ケンステップ</p> <p>・「1、2、3、パッ」のリズムで助走から踏みきりのタイミングを合わせる感覚を身につけさせる。</p> <p>②ミニハードル・レーニング</p> <p>・横跳びやケンケン跳びを組み合わせて、片足での踏み切りや振り上げる足の意識をする。</p> <p>③人間ラダー</p> <p>・走りながら足裏を使ってリズムカルにジャンプする感覚を身につけさせる。</p> <p>④ボックス跳び上がり</p> <p>・等間隔にあいた4つのボックスの上に、「1・2・3・トン」で跳び上がる。</p> <p>・足の振り上げを意識する。</p>																																					

ぬらい】：「ハードル走」と「走り高跳び」の競争をしたり、記録に挑戦したりする。

な
か
①
ハ
2
3
4
5
時
間
口
1:00
×
4
・
1:00
分

- 1 「ハードル走」と「走り高跳び」の自分の「めやす記録」を決める。
- 2 「めやす記録」を達成するために、どこを上干すにすればよいかを見つけ、自分のめやすとする。
- 3 学習の場をつくる
- 4 自分のめやすにあった場をみつけ練習する。
- 5 同じ場に来た仲間と競争したり、自分の「めやす記録」に挑戦したりする。

＜ハードル走の場と練習や競争の例＞

- ①コースは30mでハードル1台
- ②インターバルの長さを変化させる
例) 30m、60m、70m (児童の実態を考慮して設定する)
- ③ハードルの高さを怖がらないように工夫する。
例) ワイン・ミー・ハードル、段ボール・ペットボトルの等々
- ④練習内容
・振り上げ足について知る。
(踏み切り位置を遠くは、着地の位置を近くは、振り上げ足の高が見える)
・踏み足について知る。
(膝を傾向きに抜く・素早く抜く・踏み足の「歩目」を速くする。)
- ⑤競争の仕方例
・50m走の記録をめやすにして、めやす記録との差の得点で競争する
- ⑥タイム測定を2回行い、良いタイムを記録し得点にする。

＜走り高跳びの場と練習や競争の例＞

- ①高跳びセット(マット・バー・支柱)を3つ用意する。
- ②助走の場を工夫する。
例) 3歩・5歩・7歩助走
- ③バーを怖がらず、高く跳び上がる工夫する。
例) ロイター板の使用、ゴムひもや紙などを利用してバーの工夫をする。
- ④練習内容
助走・踏み切り・空中フォーム・踏み足
- ⑤競争の仕方例
・50m走の記録と身長から、自己の「めやす記録」を設定し、その記録との差の得点で競争する
- ⑥3回跳びを行い、一番良い記録を最大化する

- ・資料を参考にし、みんなで協力して場の設定を行う。
- ・グループで話し合いながら、毎時間のめやすを確認する。
- ・運動する場や用具の安全を確かめてから用意させる。【関心】
- ・時間を多く確保し、各種日に慣れるようにさせる。

＜ハードル走＞

- ・各種のインターバルのコースを注意し、自分にあった、インターバルをみつけ、練習できるようにする。
- ・ペイントボトルや鉄ボールなど身近にある道具を使って、怖がらず走り越すことができるようにする。
- ・「1・2・3・4」と声をかけ合ひながら練習させ、リズムを身につけさせる。
- ・リズムカルに走り越すことを重点におき、振り上げ足や踏み足の練習方法を学ぶ。
- ・「めやす記録」との差の点数化させる。

【関・関・関③④】 【思・判②】

＜きまりの例＞

- ①1分2回タイム測定し、一番よい記録で点数を出し比べる。
- ②記録は、役割分担をし、それぞれ公正に正確に計測する。

＜走り高跳び＞

- ・高く跳ぶことだけでなく、リズムカルな助走や正しい姿勢など、基本の技能を高めるための練習を行う。
- ・運動を補助する用具を準備し、児童が自由に使えるようにする。
- ・毎時間身につけたい技能を明確にし、具体的な支援をする。
- ・グループ内で跳躍を見合い、アドバイスや励ましをしようことができるようにする。

＜きまりの例＞

- ①入3回跳びし、一番よいものを記録とする。
- ②記録は、役割分担をし、それぞれ公正に正確に計測する。

<p>なか か ②(6・7時 本時・8・9時間 ①(10分×4 ②(10分)</p>	<p>めあて2：きまりを決めて、二種競技をする。 ○「ハードル走」「走り高跳び」の記録会をしよう。 (グループ内個人対抗戦) 6・7時間目 ○「二種競技」大会をしよう。(各グループ対抗戦) 8・9時間目</p>	
<p>まとめ(5分×8 ④(10分)</p>	<p>1 グループごとに各種目の「めやす記録」に挑戦する。(6・7時間目) ・どうしたらめやす記録を達成できるか、めあてをもつて練習する。 2 めやす記録が達成できたら、さらに距離を伸ばすように挑戦する。 3 グループ内で個人対抗の競争をする。 4 二種競技をする。(8・9時間目) ・グループ対抗で競争する。 ・競争のきまり、(とぶ回数や点数の出し方、踏みきり地点に踏みきり板を置くかどうか等)を決める。 ・記録をとる人、バーの設置やハードルの修正など役割を交代して行う。</p>	<p>・めやす記録がどのように達成されているか確認しながら、さらに記録の向上をめざして練習する。 ・デジタル機器(デジカメ等)を活用し、個々の課題を把握できる環境をつくり、自己の課題を克服できるようにする。 ・グループの仲間や他のグループと共に楽しめるルールで競争することを確認する。 ・競争を補助する用具を準備し、自由に用具を組み合わせて活用できるようにする。</p>
<p>まとめ(5分×8 ④(10分)</p>	<p>1 グループで次のことを話し合い、学習の反省を行う。 ①二種競技のどんなところが楽しかったか。 ②いっぱい競争したり、「めやす記録」に挑戦したりしたか。 ③みんなと協力して学習を進めたか。 ④めやす記録が達成できたか。 ⑤自分の記録はどれだけ伸びたか。 2 話し合ったことをもとに、学習カードの反省欄や記録を記入する。</p>	<p>・振り返りを発表し合い、次時の確認をし、意欲を持って毎時間取り組めるようにする。</p>

12 本時の学習と教師の指導と支援

(1) 本時のねらい

- ① 助走や踏みきりのリズムに気をつけて、「ハードル走」「走り高跳び」の練習をすることができる。
- ② 安全に気をつけて場の設定をし、意欲的に記録に挑戦することができる。

(2) 授業仮説

- ① コーディネーション運動の基礎感覚づくり運動を行うことで、「ハードル走」や「走り高跳び」の基本の動きがスムーズにできるであろう。
- ② 場の工夫（「ハードル走」：インターバルの距離やハードルの高さの工夫・「走り高跳び」：ロイター板、輪っか、バーの工夫等）をすることにより、インターバルの3歩定や高跳びの踏みきりを意識して、運動に取り組むことができるであろう。
- ③ 目標記録を設定し、その差で得点をつけ競争させることで、記録の向上のために努力したり、友だちと協力したりして二種競技の楽しさを味わうことができるであろう。

(3) 準備するもの

- ・ケンステップ用の輪
- ・ロイター板
- ・踏み台ボックス
- ・ミニハードル
- ・ゴム
- ・高とびセット（3）
- ・タンバリン
- ・段ボール
- ・1mものさし
- ・カラーコーン
- ・メートル表示
- ・ロープ
- ・フラノープ
- ・賞金掲示板
- ・学習カード
- ・デジタルカメラ
- ・デジタル時計
- ・大型テレビ

(4) 本時の展開（7/9時間目）

	学習のねらいと活動	教師の支援	評価と工夫
開 始 の 時	準備運動 (呼吸器体操・ストレッチ)	・足音、声、動きを中心に活動し、体を温めるようにし、運動への準備を整えさせる。 ・コーディネーション運動の場の設定確認をする。	
中 の 時	1. あひさつ（1：仲本） 2. 本時の学習の導入（1：仲本） 3. コーディネーション運動（71：実践） 実グループごとに1つずつ練習を各実践する ①ケンステップ ②ミニハードルジャンプ ③人間ラダー ④ボックス跳び入り	・準備運動、整頓した後を行う。 ・本時の学習の流れを確認する。 ・コーディネーション運動の場を設定する。 ・実践に必要な状況とともにコーディネーション運動を行う。 ・助走や踏みきり、着地のしかなどを指導する。 ・リズムよく走ったり、跳んだりする感覚をつかませる。 ・場の安全を確認し、楽しく仲間と活動させる。	・二種競技の楽しさを味わうために、自分の力に合った課題をもって仲間と関わりながら様々な運動に取り組まうとする。 (開・宣・報) 黒板

4. わたし達の課題 (TL: 抄本)

きまりを決めて、二種競技をする。

・前時の振り返りをし、前時の自己記録をもとに本時の自分めあてを学習カードに記入する。

5. 用具を準備する。

6. 各自のめあてに合わせて組の選択し用具の準備をし、各組別の練習とグループ内での競争をする。

(ハードル走) TL: 準備

○グループで練習を行う。

・インターバル・3歩で走り抜ける。

・踏み切り 深くかむ踏み切り

・空中フォーム・上体を倒し、振り上げ足はき足の形に足を上げる。

・着地: 膝さだめを早く導出し、一歩目を出す。

○グループ内で個人対抗の記録会(競争)をする。

・一人2回タイム測定をし、一番よい記録で得点とし、グループ内で競争する。

・走り高跳び 「1」抄本

○グループで練習を行う

・助走・体の力を抜いてリズムカール

・踏み切り: 振り上げ足と翼を高く引き上げる。上体を倒す。

・空中姿勢: 膝を足口前に高くまわすようにする。

・着地: 振り上げ足から安全に着地する。

○グループ内で個人対抗の記録会(競争)をする

・一人3回までチャレンジし、一番よい記録で得点を得し、グループ内で競争する。

・よくつる羽をあげ 児童が課題をしやすくさせる。

・学習カードに自分が本時が気をつけることを書かせることで、自分の課題をしっかり覚悟させる。

・課題が否定できない児童への声かけをおこなう。

・友達と協力して、簡単に高跳びができるように声かけする。

・つる羽には多数の児童が気まぐれのように声かけする。

・気まぐれな声かけを見あたり、気づかしたりできるように、持参児童の記録と声かけをおこなう。

(ハードル走)

・助走から踏み切りのリズム (1・2・3) をキ拍子で打ってあげる

・深く踏みきって空中にとび出し、空中フォームから着地への感じをつかませる。

・踏み切りの土まわり、踏み方を整え、着地のハードルの高さに慣れるように柔軟させる。

・デジタル記録で、快走やフォームの記録をする。

・走り高跳び

・ロイター紙を使用し、高く跳び上がる感じをつかませる。

・踏み切りのリズムがつかめない児童には、教師が補助をする事でイメージをつかみやすくさせる。

・助走から踏みきった時に高く飛びあがる時の姿勢に気を付けさせる。

・グループ内での記録の記録をまだらのとんでのんを記録し、良い点を見つけるよう声かけをする

・記録をしっかりと学習カードに記入するようさせる。

・デジタル記録で、快走やフォームの記録をする。

8. 学習のまとめをする。

・各グループで今日学習の反省点を発表とめる。

・各グループから代表が反省の発表を行う。

・各組のMVP賞を発表する。

9. あいさつ、片づけ

・自己評価、相互評価(今日のMVP)を取り入れ、良かった点があれば良かった点を認め合い、発表できるようにさせる。

・高く跳んだだけでなく、踏み切りの良くなった子や空中姿勢の良くなった子などに賞状を渡して時替する。

・運動する際の安全確認ができる

(問・答・紙)

学習カード

課題

・めあてを達成するための練習方法を述べている。

(思・考)

学習カード

課題

・リズムカールが助走から高く踏みきることが出来る。

(説明)

・ルールを守り競争を楽しむことができる (思・考)

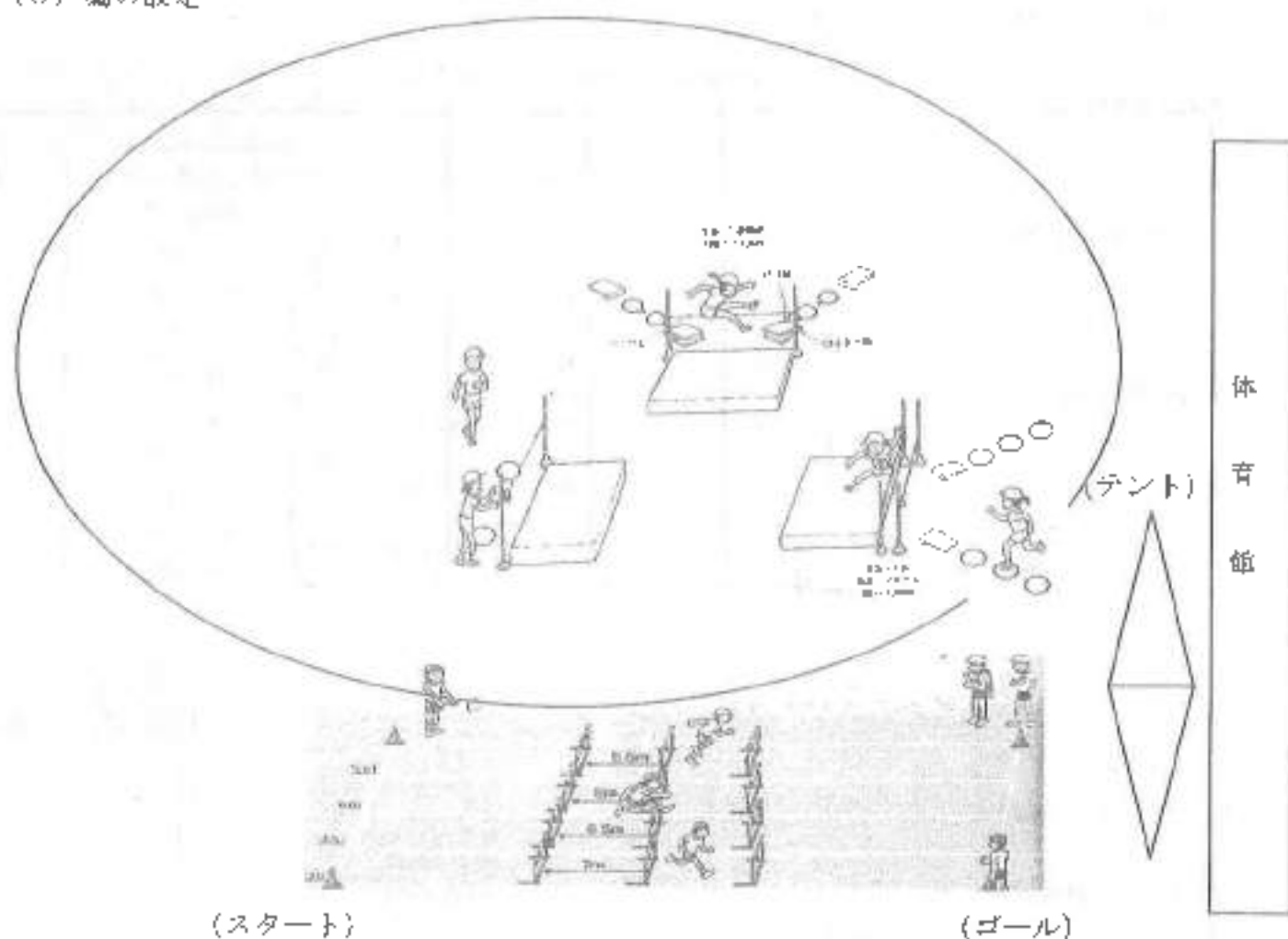
・き達めよい働きや態度を発表することができる。

(思・考)

(5) 評価

- ① リズミカルに助走し、力強く踏みきることができたか。(技能)
- ② 友だちと協力し、横を設定したり、「めやす記録」を達成できるよう意欲的に記録に挑戦することができたか。(関)
- ③ 助走や踏みきりに気をつけて、自分の課題にあった練習の場や方法を選択することができたか。(思・行)

(6) 場の設定



13 資料

① ワークシート



自分の目標記録

走り高跳び

○自分の身長と50m走の記録を直線で結び、走り高とびの線と交わったところが「めやす」となる目標記録です。

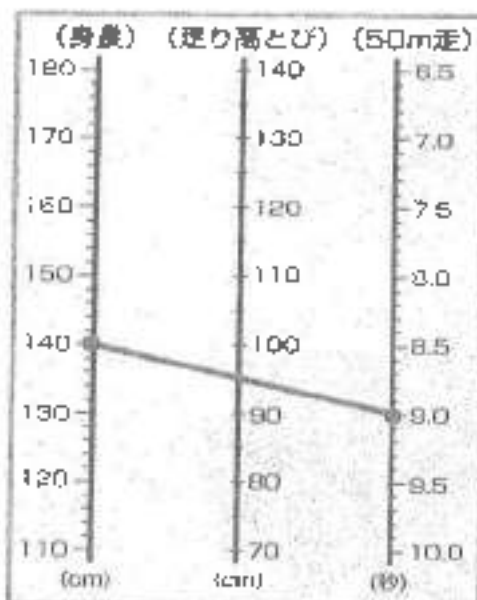
○自分の身長

 cm

○50mの記録

 秒

☆目標記録 (めやす)

 cm


実際にとんだ高さどめやすとの差を得点にしたもの

	めやすとの差 (cm)	得点
上回っている	20cm以上	10
	15~19	9
	10~14	8
	5~9	7
	0~4	6
下回っている	1~5	5
	6~10	4
	11~15	3
	16~20	2
	21cm以上	1

ハードル走

○50m走の記録との差で得点を出します。

○50mの記録

 秒

○最初の50mハードル走の記録

 秒

☆目標記録

 秒

～得点の出し方～

得点	10	9	8	7	6
50m走	1.0秒	1.0以上	1.2以上	1.4以上	1.6以上
との差	未満	1.2未満	1.4未満	1.6未満	1.8未満
得点	5	4	3	2	1
50m走	1.9以上	2.0以上	2.4以上	2.7以上	3.0以上
との差	2.0未満	2.4未満	2.7未満	3.0未満	



学習カード	2種競技	月 日	名前	年
-------	-------------	-----	----	---

☆種目

☆自分の目標

☆今日のめあてと気をつけるところ

☆練習の場

☆今日の記録

1回目	2回目	3回目
-----	-----	-----

☆学習のふりかえり ※◎よくできた ○できた △できなかった



競争したり記録に挑戦したりして、楽しく、力いっぱい運動できたか。		ハードル走で、インターバルをリズムカルに走ってとびこすことができたか。	
友達と見合ったり教え合ったりして、協力して仲良く運動できたか。		リズムカルな助走から強くふみきり、高くとびこすことができたか。	
めあてをもち、その解決のために合った場を選んで運動できたか。		ルールや競争の方法などをくふうすることができたか。	

☆今日の感想（がんばったこと、できるようになったこと、友達へのアドバイスなど）



②評価記録簿

グループ名		A					B					C					D									
個人名																										
月 日 校時	技能																									
	態度																									
	思考・判断																									
	その他																									
月 日 校時	技能																									
	態度																									
	思考・判断																									
	その他																									
月 日 校時	技能																									
	態度																									
	思考・判断																									
	その他																									
月 日 校時	技能																									
	態度																									
	思考・判断																									
	その他																									

I4 参考文献

- ・ 小学校学習指導要領
- ・ 小学校学習指導要領解説（体育編）
- ・ 新版 体育の学習 4・5・6 教師用指導書（公文書院）
- ・ 小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 体育（東洋館出版社）
- ・ 教育技術MOOK 心と身体をつむぐ体育 陸上運動（小学館）
- ・ すぐわかる、すぐできる 体育科授業のコツ34（小学館）
- ・ 子どもの体と心が弾む 体育科の授業と評価（6年）（教育出版）
- ・ 小学校体育科 基礎・基本と学習指導の実際
～計画・実践・評価のポイント～（東洋館出版社）
- ・ 小学校体育「めあて学習」の進め方 みんな仲よく楽しい体育（東洋館出版社）

2. 教科外における実践

(1) 「体育朝会」の実践

①わらい

異学年間で交流することによって、お互いに認め励まし合いながら、楽しく活動する。

②実施日 毎週 金曜日

③活動時間 8:20～8:40

④活動場所 体育館・運動場

⑤活動内容

なわとび検定（前跳びやチャレンジ跳び等）、人なわとび、鬼ごっこ、手つなぎ鬼、体ほぐし等

なわとび検定実施計画

1. わらい

自己の体力にあつためあてを設定し、H頃から、「なわとび」の技を高め、意欲的・継続的に体力の向上を図る。

2. 実施方法

①月一回（第4水曜日の体育朝会）で、「なわとび検定」を行う。

②毎週金曜日の体育朝会で、なわとびの練習を行う。

③「なわとび検定」では、各曜日ごとに担当教師を決めておく。児童は挑戦したい種目を決め、検定日には担当教師の前で技を検定してもらう。

④「なわとび検定」は6月30日（水）からスタートさせる。

⑤「なわとびマスター表」で自己の目標を決める。

3. 実施場所 運動場

4. なわとびマスター表

級	技	（一）おんねり 前（前）	後（後）	あやとび 前（前）	あやとび 後（後）	ハングとび 前（前）	ハングとび 後（後）	二重とび 前（前）	二重とび 後（後）	なかよしとび	自分で作った技
10		10	5	10	5	10	5	3	2	5	5
9		20	15	20	15	20	15	6	4	10	15
8		30	20	30	20	30	20	10	8	15	20
7		40	30	40	30	40	30	15	10	20	30
6		50	40	50	40	50	40	20	15	25	40
5		60	50	60	50	60	50	25	20	30	50
4		70	60	70	60	70	60	30	25	35	60
3		80	70	80	70	80	70	35	30	40	70
2		90	80	90	80	90	80	40	35	45	80
1		100	90	100	90	100	90	45	40	50	90
老人		150以上	100以上	120以上	100以上	120以上	100以上	80以上	45以上	60以上	100以上

5. 「なわとび検定」の担当

前とび	各担任の先生
後ろとび	2年担任
あやとび(前・後)	3年担任
こうさとび(前・後)	4年担任
二重とび(前・後)	6年担任
なかよしとび	5年担任
自分で作った技	教務
サポート	校長・教頭
児童観察	1年担任
救護	養護教諭

6. 「なわとび」検定の流れ

- 8:20 集合・あいさつ
- 8:23 準備運動(かけあし前跳び:3分)
- 8:26 集合・ストレッチ
- 8:30 前とび1分間チャレンジタイム
- 8:35 なわとび検定チャレンジタイム(前とび以外の検定タイムとする)
- 8:40 集合・達成状況確認

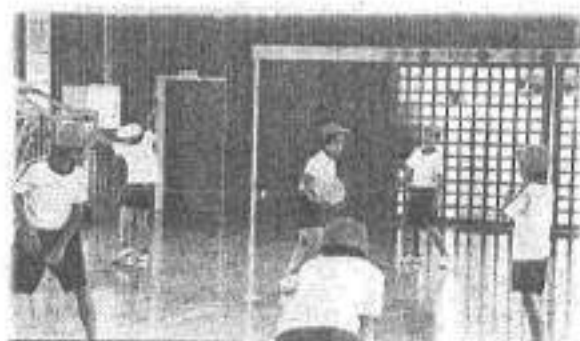
6. 活動の様子 体育朝会の様子 なわとび検定の様子 ソフトバレーボール練習の様子 運動会のゴールドジャンプ



なわとび1分間で運動場何周できるかな?



なわとび検定で2重とびにチャレンジ





ソフトバレーボールの練習



運動会でなわとびを披露しました

(2) 人材活用による実践

年月日	氏名	指導していただいた内容
H21年 5月29日	与那国中学校教諭 西川 賢 先生	<p>○体ほぐし運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽いストレッチ ・歩いて合った人と握手（ハイタッチ） ・その場でジャンプ（90度→450度） ・足じゃんけん ・A4の紙を使った活動 
H21年 9月 4日	田島 政之さん	<p>○体ほぐし運動（ストレッチ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タオルを使った肩甲骨のストレッチ
H21年11月24日 25日	県体育協会常任理事長 東新川 長詳さん	<p>○講演「すべては『人の心』が決める」</p>
H21年11月24日	共同調理場栄養士 糸数 やえ子さん	<p>○5年学活における食育「たくましい体を育もう」のゲストティーチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当の栄養バランスについてアドバイスをいただく。 
H22年 9月 9日	共同調理場栄養士 糸数 やえ子さん	<p>○1・2年道徳における食育「いただきますの意味を考える」のゲストティーチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立の工夫や調理することの大変さをお話ししていただく。
H22年 7月22日	与那国中学校校長 東迎 和芳 先生	<p>○講話「体育科教育について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心・技・体」について。 ・運動生理学の基本的な考え方。 ・コーチングの基本とコミュニケーションについて。

3. 各専門部の実践

(1) 資料調査部による取り組み

1 ねらい

諸調査を実施する事で体力向上に向けた取り組みの充実を図る。

2 方針

(1) 児童の運動能力調査やデータ分析によって実態を把握する。

(2) 調査結果から、課題に応じた対応策につながるよう分析・考察を行う。

3 活動内容

①新体力テストの考察

ねらい

○全児童の体力・運動能力を年に2回(5月,9月)測定し,自己の体力・運動能力を把握させ,よりバランスのとれた運動能力の育成に向け,運動や遊びの促進につなげていく。

○3年間の測定結果から,体育の学習を中心にバランスのよいたくましい体を育成する指導に生かす。

②体位・体格の実態

ねらい

○各学年ごとに男女の別の体位・体格を出すことにより,全国や県平均と比較し本校の児童の実態を把握し,指導に生かす。

○新体力テストの結果と関連づけ,体格・体位と体力との関係について考察する。

③児童の泳力

ねらい

○児童の泳力について資料をまとめ考察し,指導に生かす。

④食育の充実

ねらい

○食育をたくましい体と心を支える土台ととらえ,食事の大切さやバランスのとれた食事について理解できるようにする。

⑤コーディネーション運動の実際

ねらい

○本研究で取り組んできたコーディネーション運動についての資料をまとめ,今後の指導に生かせるようにする。

3. 各専門部の実践

①新体力テストの結果と考察

(1) 資料調査部の実践

新体力テスト結果と考察

平成22年度 新体力テストデータ分析結果(県・全国との比較)

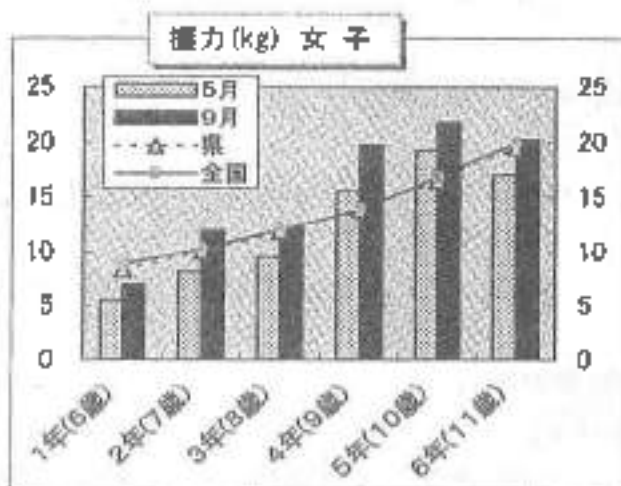
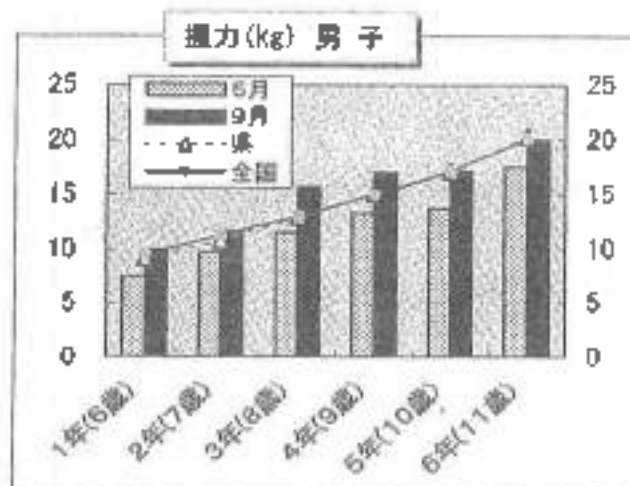
※県・国の平均は、平成20年度のデータ

1. 握力(kg)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	7.50	9.80	11.50	13.33	13.75	17.50
	9月	10.00	11.67	15.75	17.00	17.13	20.00
	県	9.13	10.81	12.95	15.10	17.14	20.38
	全国	9.56	11.28	13.06	14.99	17.15	20.13
	本年(0月)と 全国平均との差	0.44	0.39	2.69	2.10	-0.02	-0.13
全国との優劣関係		◎	◎	◎	◎	▼	▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	5.50	8.14	9.50	15.50	19.25	17.00
	9月	7.00	12.00	12.13	19.75	21.80	20.20
	県	8.35	10.03	11.88	13.88	18.53	19.54
	全国	8.25	10.31	12.02	13.96	16.81	19.97
	本年(0月)と 全国平均との差	-1.85	1.69	1.10	5.79	4.99	0.23
全国との優劣関係		▼	◎	◎	◎	◎	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察①：握力(筋力について)

・「2・3・4年の男女」と「1年男子」「5・6年女子」は、全国平均を上回っている。5・6年男子においては、全国との差は僅かである。



新体力テストの様子(長座体前屈)



(立ち幅跳び)



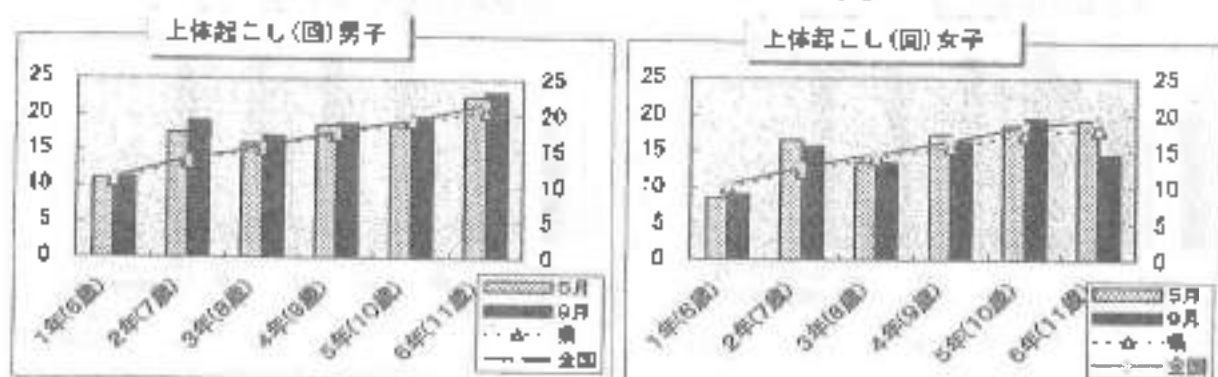
(ソフトボール投げ)

2. 上体起こし(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	11.00	17.40	16.00	18.50	18.38	22.50
	9月	11.20	19.17	17.00	18.83	19.75	23.20
	県	10.80	13.31	15.34	17.34	19.15	20.59
	全国	11.23	13.78	15.84	17.64	19.37	21.80
	本校(7月)と 全国平均との差	-0.03	5.39	1.36	1.18	0.38	1.60
全国との関係	▽	◎	◎	◎	◎	◎	

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	8.50	16.67	13.38	17.25	18.50	19.33
	9月	9.00	15.71	13.38	16.33	19.60	14.40
	県	10.03	12.22	14.08	15.64	17.36	18.06
	全国	10.43	12.73	14.80	16.43	18.42	19.22
	本校(7月)と 全国平均との差	-1.43	2.98	1.22	-0.10	1.18	-4.82
全国との関係	▽	◎	▽	▽	◎	▽	

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察②：上体起こし(筋力・筋持久力について)

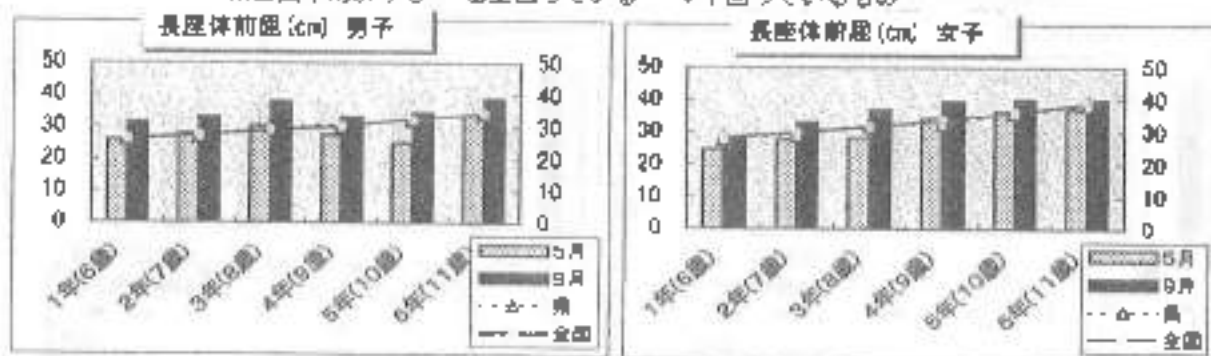
・「2・5年の男女」と「3・4・6年男子」は、全国平均を上回っている。

3. 長座体前屈(cm)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	26.00	28.00	30.25	27.67	25.25	34.00
	9月	31.20	33.33	38.00	33.33	34.63	39.00
	県	26.68	27.37	30.10	30.56	32.45	34.39
	全国	28.38	27.45	29.06	30.28	32.47	34.48
	本校(7月)と 全国平均との差	4.82	5.88	8.94	3.05	2.16	4.51
全国との関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	25.00	28.00	28.38	34.50	36.75	37.33
	9月	28.50	32.86	37.13	39.67	40.20	40.00
	県	28.29	29.28	32.28	32.85	36.02	38.61
	全国	28.51	29.66	31.68	33.80	36.26	38.11
	本校(7月)と 全国平均との差	-0.01	2.90	5.47	6.77	3.94	0.88
全国との関係	▽	◎	◎	◎	◎	◎	

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察③：長座体前屈(柔軟性について)

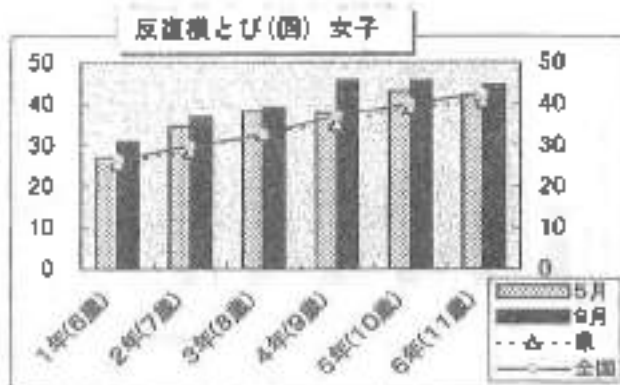
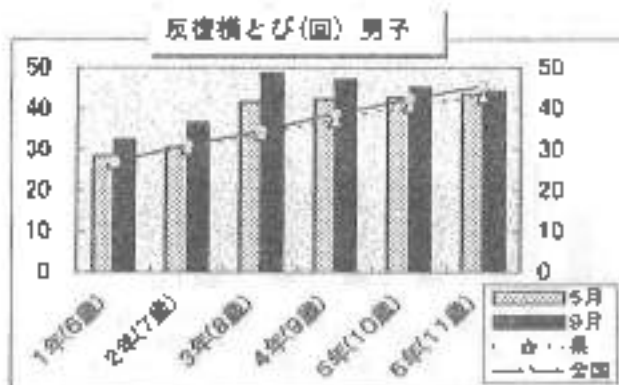
・1年女子以外は、全国平均を上回っている。1年女子の全国平均との差は僅かである。

4. 反復横とび(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	28.50	30.40	41.75	42.33	42.75	43.50
	9月	32.60	36.67	48.75	47.17	45.13	44.20
	県	27.23	30.45	34.11	37.11	40.85	43.11
	全国	26.98	31.26	34.59	38.78	42.43	45.43
	平成(19年)と 全国平均との差	5.62	5.41	14.16	8.39	2.73	-1.23
全国との順位推移		◎	◎	◎	◎	◎	▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	27.00	34.57	38.25	37.75	43.00	42.17
	9月	31.00	36.86	39.25	45.67	45.60	44.40
	県	25.89	28.78	33.12	35.27	39.19	40.88
	全国	26.49	29.83	32.80	37.08	40.17	42.40
	平成(19年)と 全国平均との差	4.51	7.03	6.45	8.81	5.43	2.00
全国との順位推移		◎	◎	◎	◎	◎	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察③：反復横とび(敏捷性について)

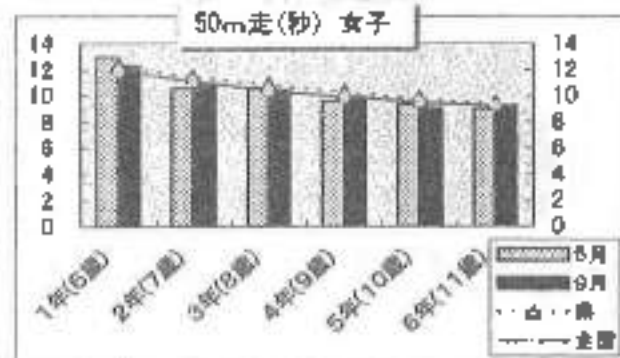
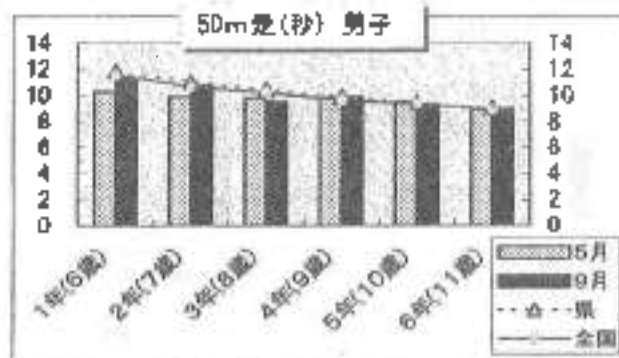
・6年男子以外は、全国平均を上回っている。

5. 50m走(秒)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	10.28	9.90	9.79	9.83	9.53	8.85
	9月	11.27	10.71	9.51	9.89	9.35	9.00
	県	11.86	11.04	10.44	9.88	9.44	9.04
	全国	11.57	10.65	10.19	9.65	9.35	8.88
	平成(19年)と 全国平均との差	-0.30	0.05	-0.68	0.24	0.00	0.12
全国との順位推移		◎	▼	◎	▼		▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	12.98	10.56	10.60	9.81	9.43	8.95
	9月	12.34	10.72	10.40	9.34	9.05	8.31
	県	12.33	11.48	10.83	10.27	9.76	9.42
	全国	11.89	11.08	10.38	9.93	9.54	9.23
	平成(19年)と 全国平均との差	0.45	-0.38	0.02	0.01	-0.49	0.06
全国との順位推移		▼	◎	▼	▼	◎	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察③：50m走(スピード及び走能力について)

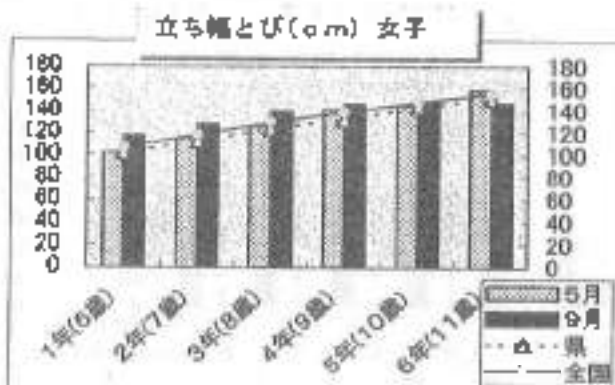
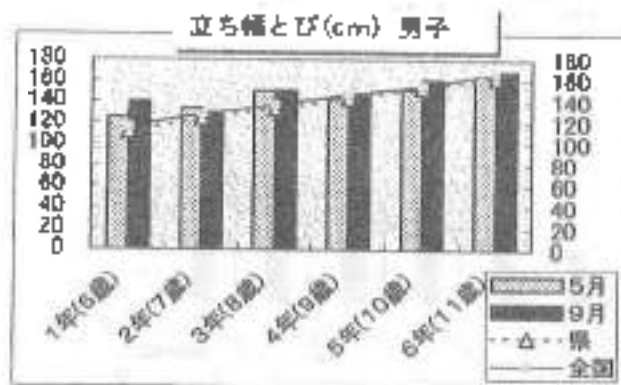
・「1・3年男子」と「2・5年女子」は、全国平均を上回っている。5年男子は全国との差が見られない。県平均で比較すると、4年男子以外は全て本校が上回っている。

6. 立ち幅とび(cm)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	124.75	133.80	150.25	142.87	151.63	164.25
	9月	139.80	129.83	150.75	147.33	160.38	169.40
	県	111.70	123.82	133.48	143.70	153.02	162.69
	全国	115.56	127.87	137.44	147.12	154.54	166.79
	本校(5月)と 全国平均との差	24.24	2.18	13.31	0.21	5.84	2.61
本校との関係		◎	◎	◎	◎	◎	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	101.75	115.00	125.75	141.75	144.75	158.00
	9月	117.25	127.57	139.38	146.33	147.80	140.80
	県	102.01	112.26	124.09	131.80	143.64	150.84
	全国	108.58	118.18	129.13	138.73	147.61	155.15
	本校(9月)と 全国平均との差	10.89	8.41	10.25	7.60	-0.01	-8.35
本校との関係		◎	◎	◎	◎	▼	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察⑥：立ち幅とび(瞬発力及び跳躍力について)

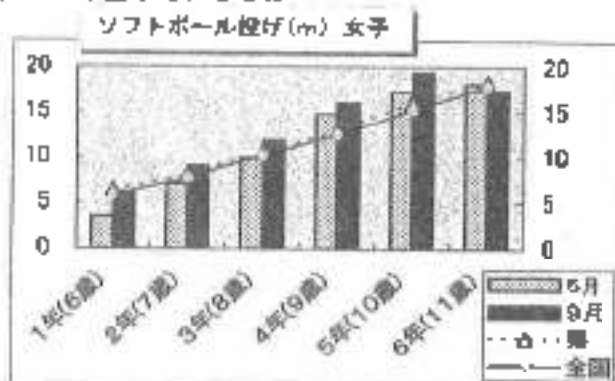
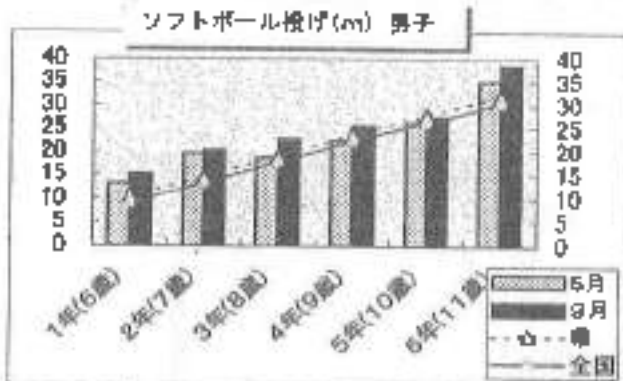
・「全学年の男子」と「1・2・3・4年の女子」は、全国平均を上回っている。

7. ソフトボール投げ(m)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	13.25	19.60	18.75	22.33	26.38	35.25
	9月	15.20	20.33	22.75	25.50	27.50	38.40
	県	10.56	14.46	18.97	23.70	27.88	31.93
	全国	8.03	13.25	17.66	22.33	26.20	30.37
	本校(5月)と 全国平均との差	6.17	7.08	5.08	3.17	1.30	8.03
本校との関係		◎	◎	◎	◎	◎	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	3.50	7.14	10.00	14.75	17.25	18.17
	9月	6.25	9.00	11.88	16.00	19.40	17.40
	県	6.52	8.12	10.56	13.00	16.03	18.29
	全国	5.91	7.73	10.22	12.50	15.24	17.87
	本校(9月)と 全国平均との差	0.34	1.27	1.66	3.50	4.16	-0.47
本校との関係		◎	◎	◎	◎	◎	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察⑦：ソフトボール投げ(瞬発力・投能力及び巧緻性について)

・本校は6年女子を除いて、全国平均を上回っている。沖縄県は全国よりも良い記録であり、本校は県平均よりもさらに上回っている学年が多い。

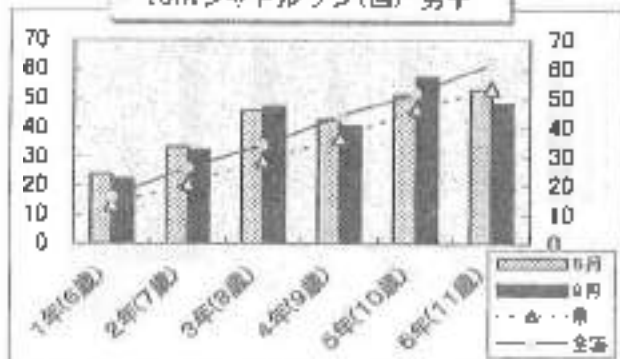
8. 20mシャトルラン(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	24.00	33.40	45.75	42.83	51.25	53.00
	9月	22.40	32.33	42.25	40.67	57.13	48.40
	県	13.84	20.96	29.07	36.50	46.61	53.60
	全国	16.28	26.29	34.10	44.07	51.83	61.06
	※区(9月)と 全国平均との差	8.12	6.04	13.15	-3.40	5.30	-13.58
※県との差(標準差)		⊙	⊙	⊙	▽	⊙	▽

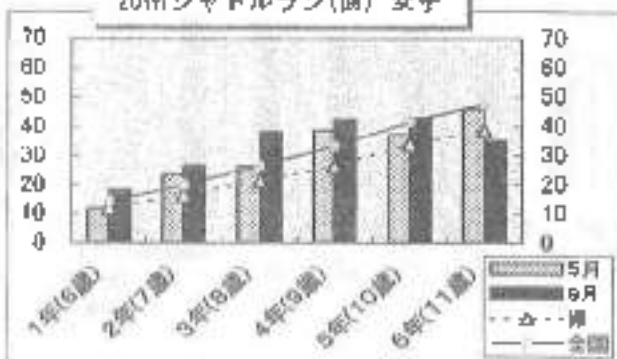
		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	11.75	23.57	26.50	38.75	37.25	45.83
	9月	18.50	26.86	38.25	42.33	42.80	35.20
	県	12.19	18.70	21.68	26.63	34.08	39.04
	全国	14.50	20.01	26.88	33.26	41.57	47.66
	※区(9月)と 全国平均との差	4.00	6.85	11.57	9.07	1.23	-12.46
※県との差(標準差)		⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	▽

※全国平均よりも ⊙上回っている ▽下回っているもの

20mシャトルラン(回) 男子



20mシャトルラン(回) 女子



考察⑧：20mシャトルラン(全身持久力について)

・「1・2・3・5年の男女」と「4年女子」は、全国平均を上回っている。

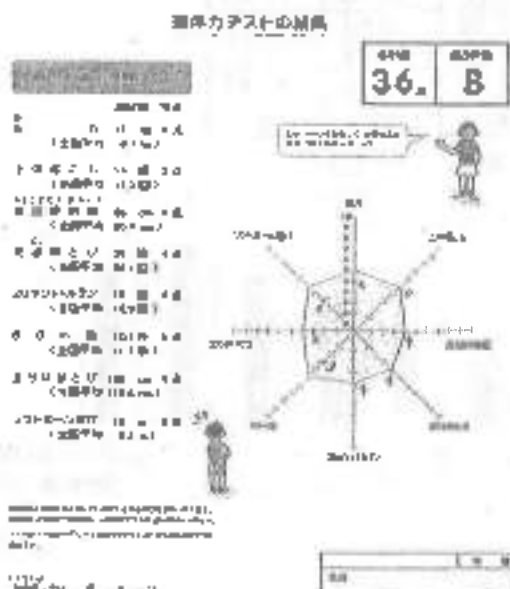
【5月と9月の新体力テストを実施して】

- ・新体力テストの結果をグラフに表した個裁をもとに、児童に振り返りカードに記入させ、次の測定までに努力した目標を記録付けさせた。
- ・5月では、全体的に全学年平均をこえる種目が少ないが、9月では上回る種目が多く見られた。過去3ヶ年の体力の向上を区る取り組みに加えて、今年度、朝の活動前のジョギングが記録の伸びにつながっていると考えられる。

2020年06月29日(月) 14:00

10/10

新体力テスト 振り返りカード



振り返りカード

5月と9月の新体力テストの結果を比較して、自分の体力向上の目標を設定し、努力したことを記録しよう。

5月と9月の新体力テストの結果を比較して、自分の体力向上の目標を設定し、努力したことを記録しよう。

振り返りカード (1学年用)

新体力テスト 3ヶ年の推移

この表は、過去3年間の新体力テスト(年2回実施の2回目)を比較したものである。3年間の研究の成果を読み取るために、3年から6年の壁化に注目して考察していく。

		◎全国を上回る (全国は下回る) ▼県も全国も下回る ▲前年度と比べて全国に下回る数値が揃まっている																										
		① 握力			② 上体起こし			③ 長座体前屈			④ 反復横とび			⑤ 50m走			⑥ 立ち幅とび			⑦ ソフトボール投げ			⑧ トランシュー					
		1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月	1年次 (H20) 12月	2年次 (H21) 10月	3年次 (H22) 9月			
男子	1年(H22入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2年(H21入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3年(H20入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4年(H19入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5年(H18入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6年(H17入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	1年(H22入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2年(H21入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3年(H20入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4年(H19入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5年(H18入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6年(H17入学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【考察】

- ・ 研究三年次にあたる今年度は、3年生以上で4項目以上の全国平均(または県平均)を上回る記録となっている。特に、3年男子と4・5年の女子においては全ての項目が上回っている。
- ・ それぞれの学年の持っている力が違うので、一概には言えないが、項目ごと比べてみると課題となっていた①握力②上体起こしは、過去2年間に比べると力をつけてきたと言えるのではないだろうか。
- ・ ③長座体前屈 ④反復横とびは過去3年間、全学年を通して優りなく良い記録となっている。本校の良い特徴である。
- ・ 「50m走」では、全国平均に届かない学年もあるが、5学年男子の伸びが見られ、4年男子においては、全国との差が縮まってきていることで、体力の低下に歯止めがかかっていると考えられる。
- ・ 「20mシャトルラン」では、6年の落ち込みが見られるが、5年男女・3年女子の伸びが見られる。昨年度から放課後の陸上練習に積極的に参加している児童が多いことの結果ではないかと考える。

研究の実際

各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

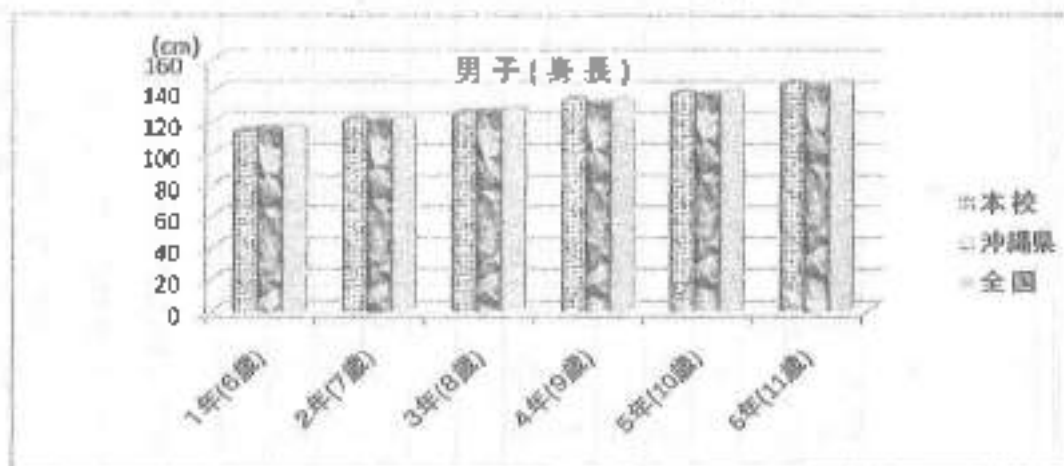
② 体位・体格の実態

体位・体格の実態

① 本校の児童の体位と全国、沖縄県(H21年度)との比較(平均値)

身長 (cm)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	113.6	122.1	125.5	134.1	138.6	144.7
沖縄県	115.7	121.3	126.9	132.1	137.6	143.8
全国	116.7	122.6	128.3	133.6	138.9	145.1
全国との差	-3.1	-0.5	-2.8	0.5	-0.3	-0.4
※全国平均より	▼	▼	▼	◎	▼	▼

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている

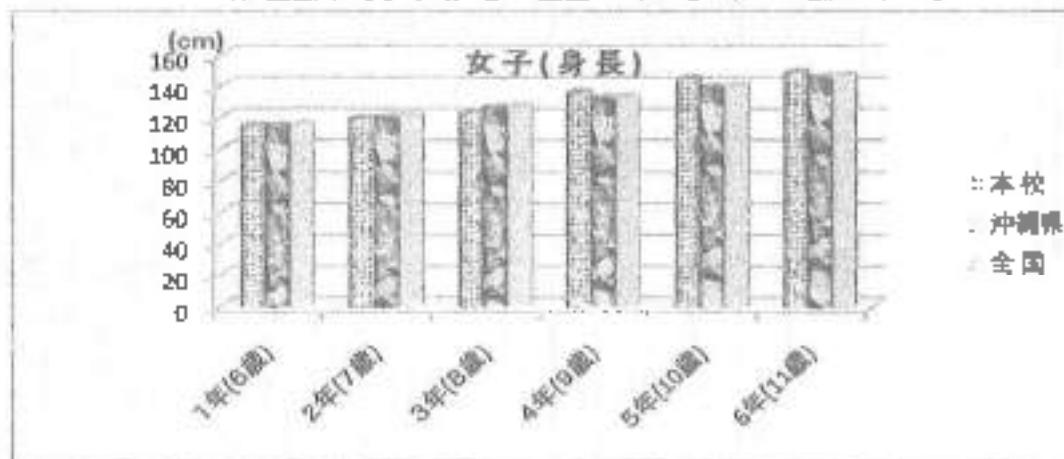


(考察)

- ・ 4年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- ・ 4年男子以外は、全国平均を下回っている。

身長 (cm)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	114.7	119.7	123.5	135.9	145.3	149.1
沖縄県	115	120.8	126.7	133	139.8	146.3
全国	115.8	121.7	127.5	133.5	140.3	146.9
全国との差	-1.1	-2	-4	2.4	5	2.2
※全国平均より	▼	▼	▼	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている



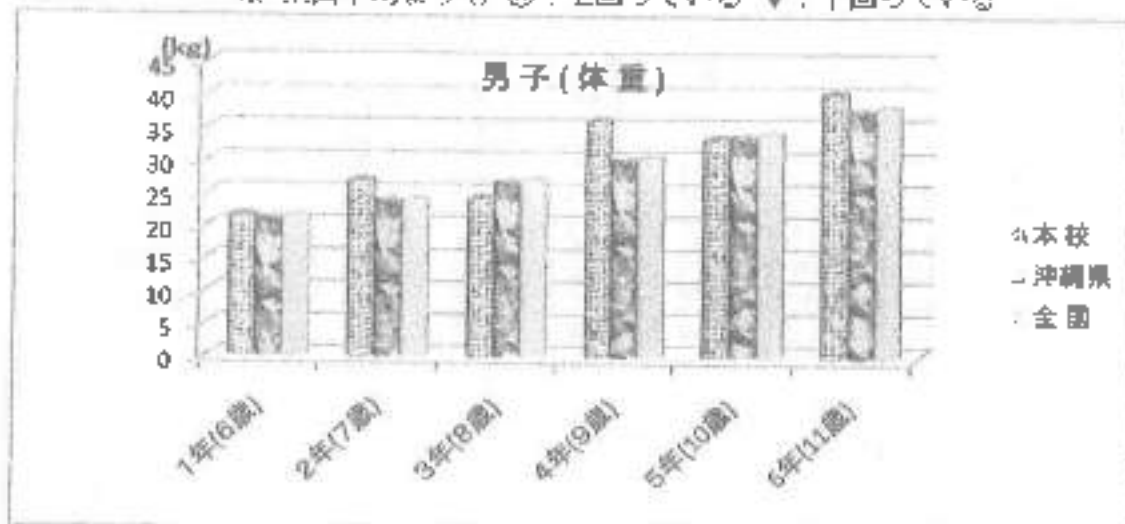
(考察)

- ・ 4～6年の女子が、全国平均を上回っている。
- ・ 5年女子が全国平均よりも大きく上回っている。

② 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H27年度)との比較(平均値)

体重 (kg)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	21.6	27	24.2	36.3	33.5	40.5
沖縄県	21.2	23.9	26.9	30.1	33.8	38
全国	21.5	24.1	27.2	30.6	34.2	39.4
全国との差	0.1	2.9	-3	5.7	-0.7	2.1
全国との差の符号	◎	◎	▼	◎	▼	◎

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている

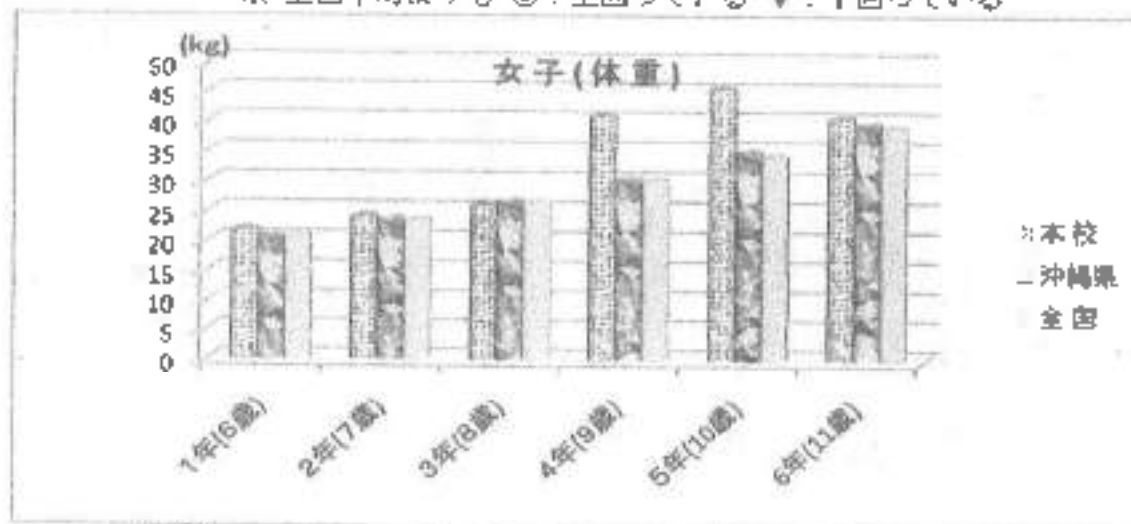


(考察)

- ・ 1・2・3・6年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- ・ 4年男子は、全国平均よりも大きく上回っている。

体重 (kg)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	21.7	24	26.1	41	45.7	40.6
沖縄県	20.8	23.5	26.7	30.2	34.7	39.6
全国	21	23.5	26.5	30	34.1	39
全国との差	0.7	0.5	-0.4	11	11.6	1.6
全国との差の符号	◎	◎	▼	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている



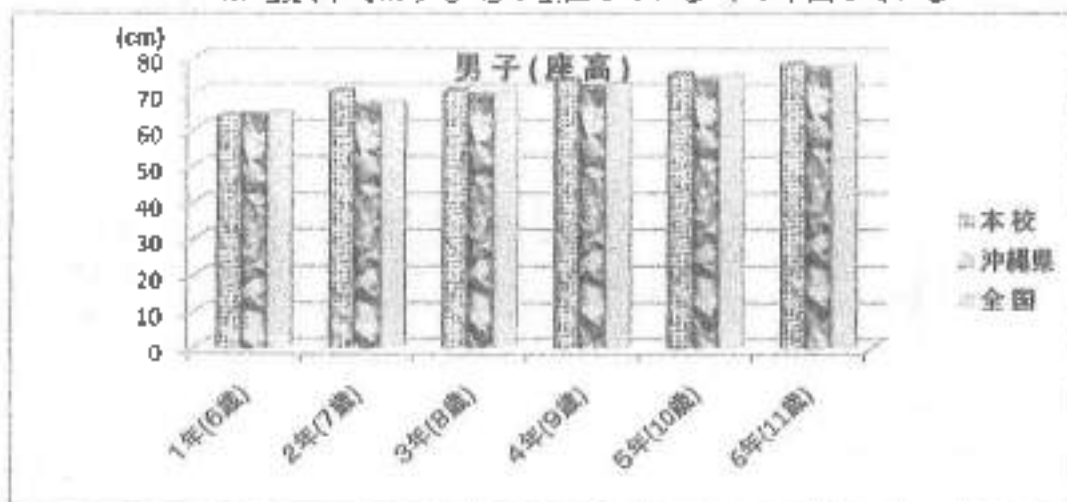
(考察)

- ・ 3年女子以外の学年が、全国平均を上回っている。
- ・ 4・5年女子が全国平均よりも大きく上回っている。

③ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H21年度)との比較(平均値)

座高 (cm)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	63.9	70.7	70.7	73.9	75.4	78.2
沖縄県	64.5	67.1	69.7	71.9	74.2	77
全国	64.9	67.7	70.3	72.7	75	77.6
全国との差	-1	3	0.4	1.2	0.4	0.6
全国との差の表示	▼	◎	◎	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている

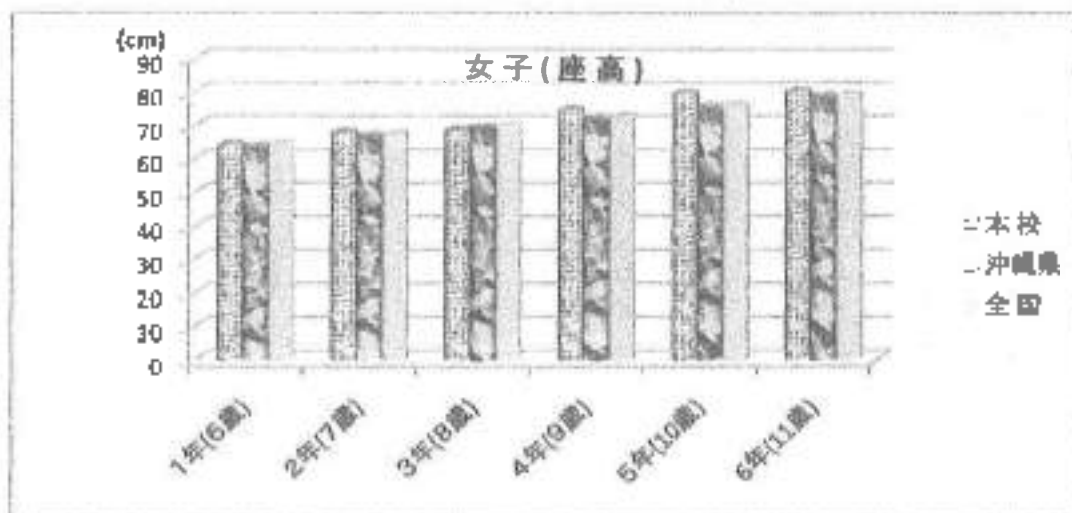


(考察)

- ・ 2～6年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- ・ 1年男子は、全国平均、県平均を下回っている。

座高 (cm)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	64.3	67.8	68.5	74.7	79.6	80.4
沖縄県	64.2	66.9	69.7	72.4	75.7	79
全国	64.5	67.3	70	72.7	75.9	79.3
全国との差	-0.2	0.5	-1.5	2	3.7	1.1
全国との差の表示	▼	◎	▼	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎：上回っている ▼：下回っている

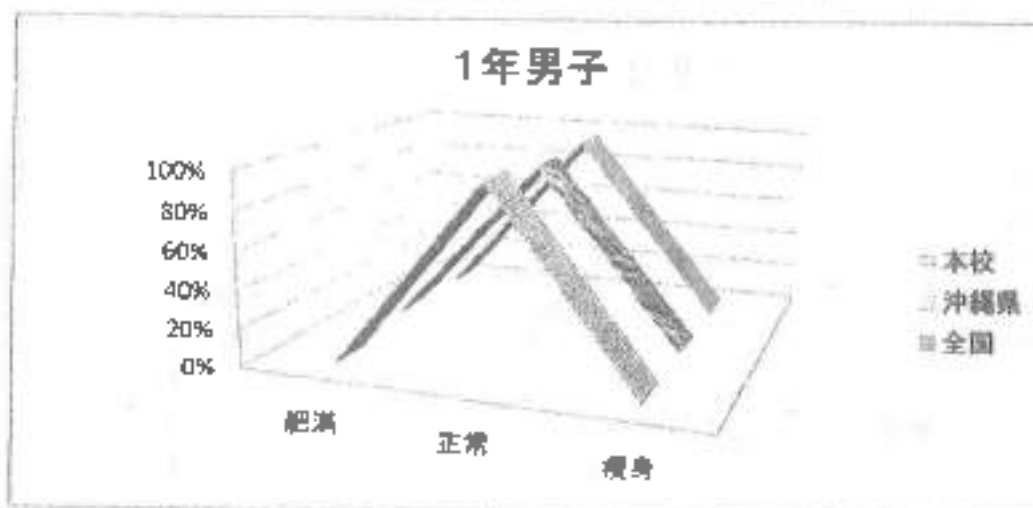


(考察)

- ・ 2・4・5・6年の女子が、全国平均を上回っている。
- ・ 5年の女子が全国平均よりも大きく上回っている。

④ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(平成21年度)との比較(平均値)

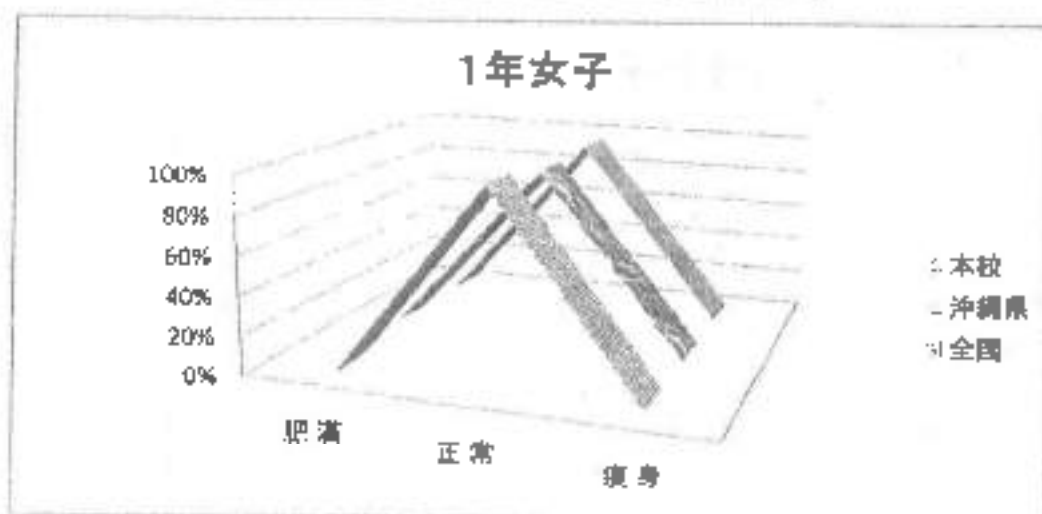
1年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	4(100%)	0(0%)
沖縄県	5.9%	93.6%	0.5%
全国	4.6%	95%	0.4%



(考察)

・ 本校では、全員が正常値であった。

1年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	4(100%)	0(0%)
沖縄県	6.0%	93%	0.6%
全国	4.2%	95.2%	0.6%

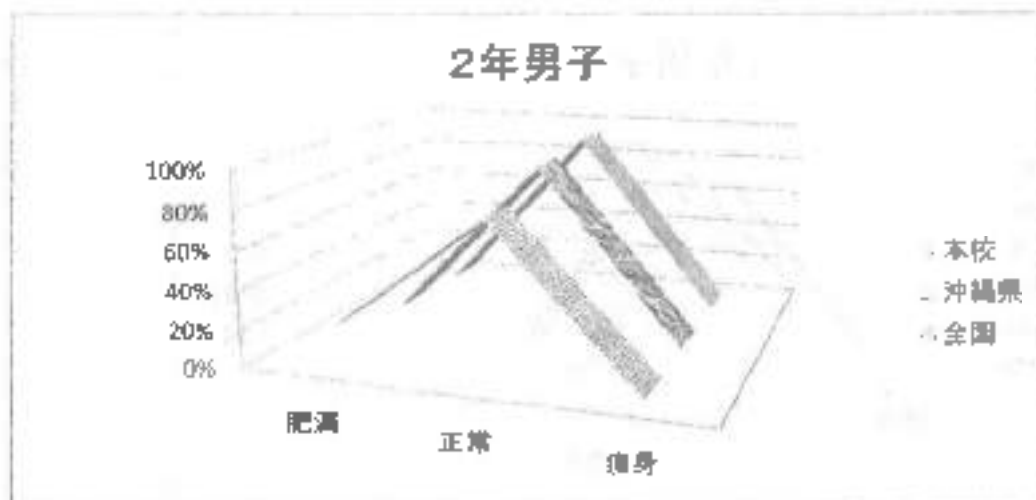


(考察)

・ 本校では、全員が正常値であった。

⑤ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(II 2 1年度)との比較(平均値)

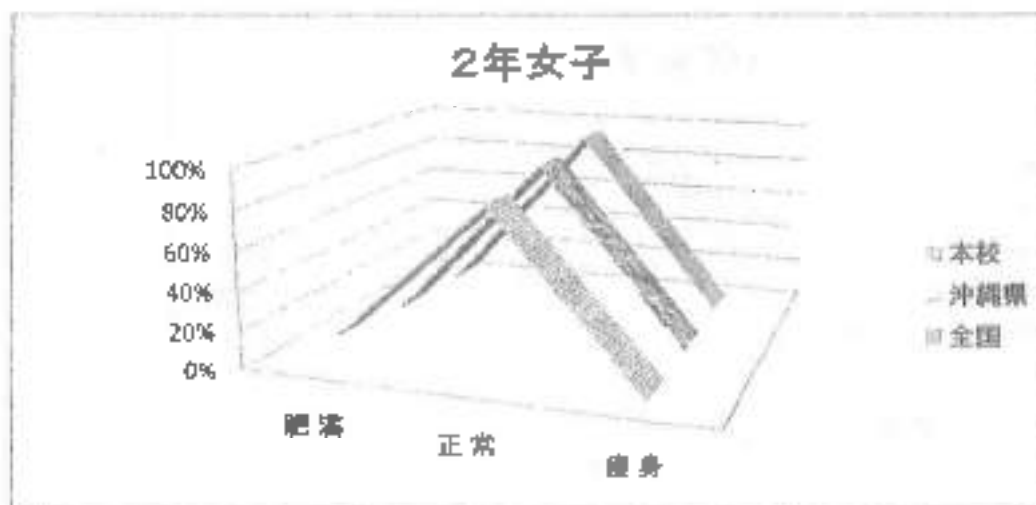
2年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(20%)	4(80%)	0(0%)
沖縄県	8.6%	91.0%	0.4%
全国	5.6%	94.0%	0.4%



〈考察〉

・ 本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

2年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(14%)	6(86%)	0(0%)
沖縄県	8.1%	91.4%	0.5%
全国	5.4%	94.3%	0.3%

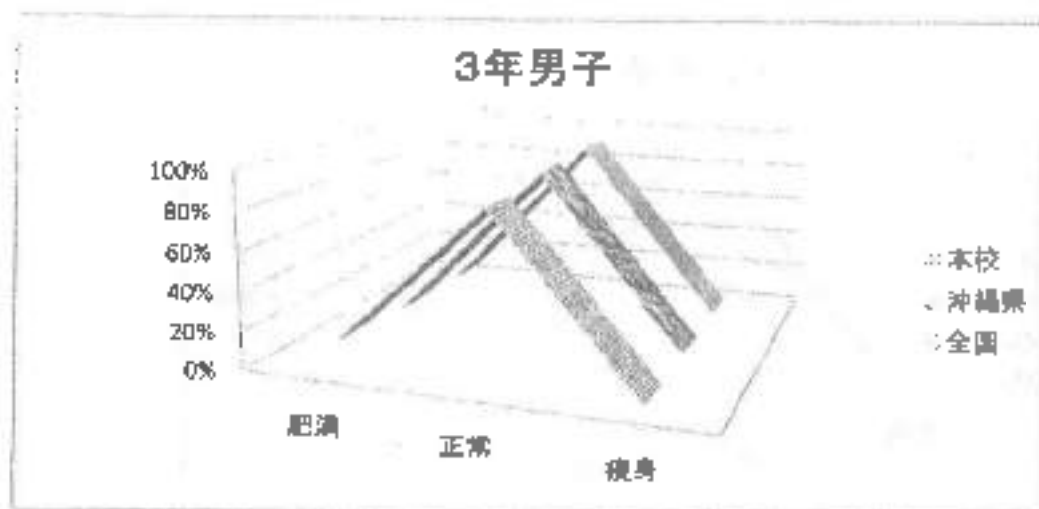


〈考察〉

・ 本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

⑤ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H21年度)との比較(平均値)

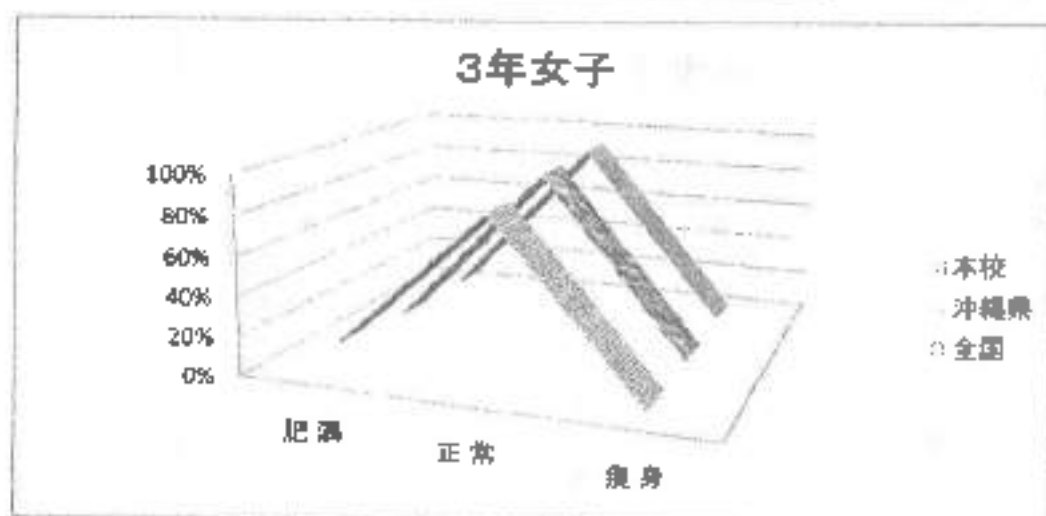
3年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	4(100%)	0(0%)
沖縄県	9.0%	90.0%	1.0%
全国	7.5%	91.4%	1.1%



〈考察〉

・ 本校では、全員が正常値であった。

3年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(14%)	6(86%)	0(0%)
沖縄県	8.8%	90.8%	0.4%
全国	7.1%	91.7%	1.2%

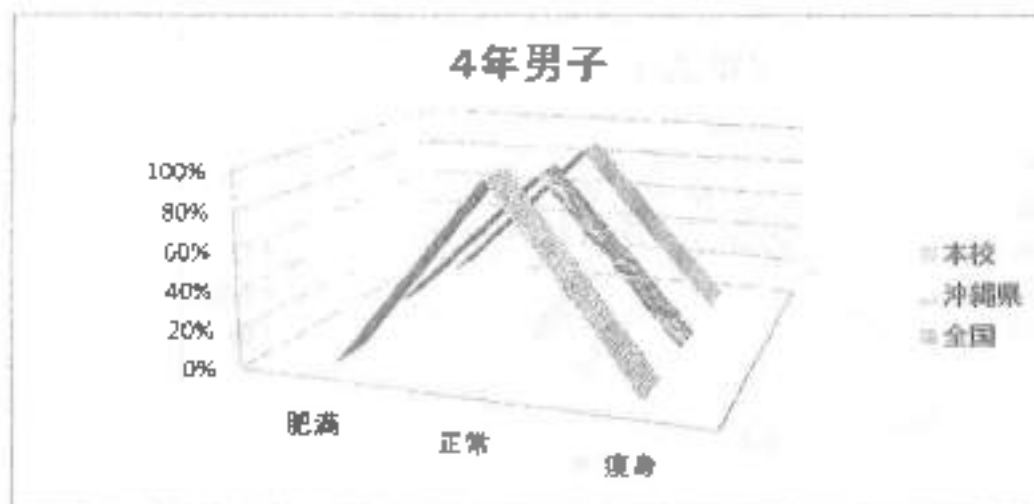


〈考察〉

・ 本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

⑦ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(日21年度)との比較(平均値)

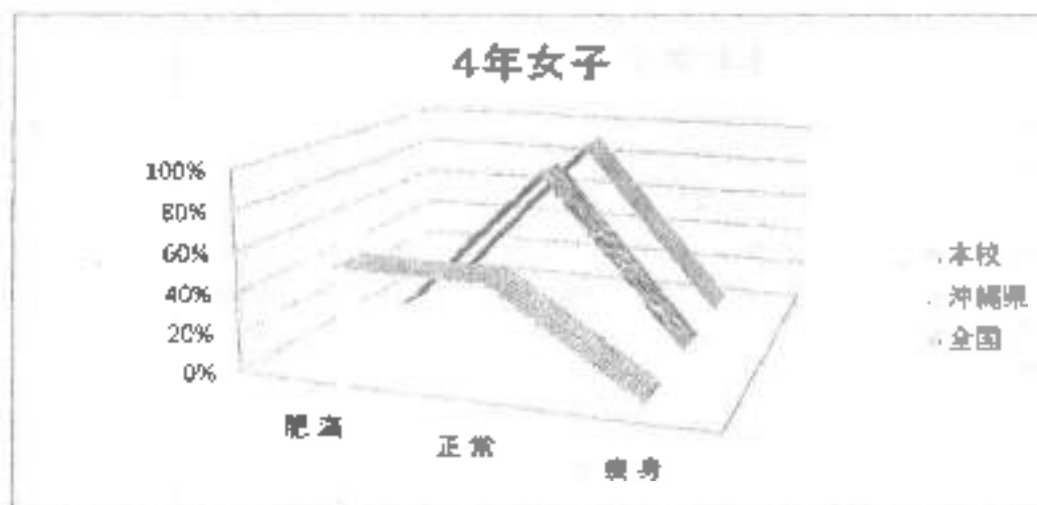
4年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	33.3%	4(66.7%)	0(0%)
沖縄県	11.0%	88.2%	0.8%
全国	9.6%	88.7%	1.7%



(考察)

・本校では、2名肥満(軽度肥満1名・中等度肥満1名)がみられた。

4年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	2(50%)	2(50%)	0(0%)
沖縄県	9.9%	88.5%	1.6%
全国	7.6%	90.6%	1.8%

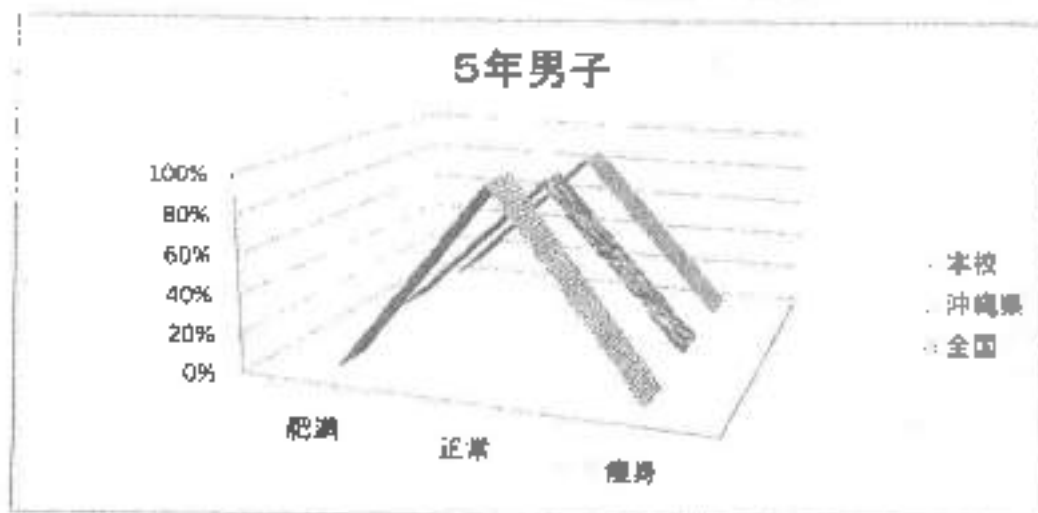


(考察)

・本校では、2名肥満(軽度肥満1名・高度肥満1名)がみられた。

⑧ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H21年度)との比較(平均値)

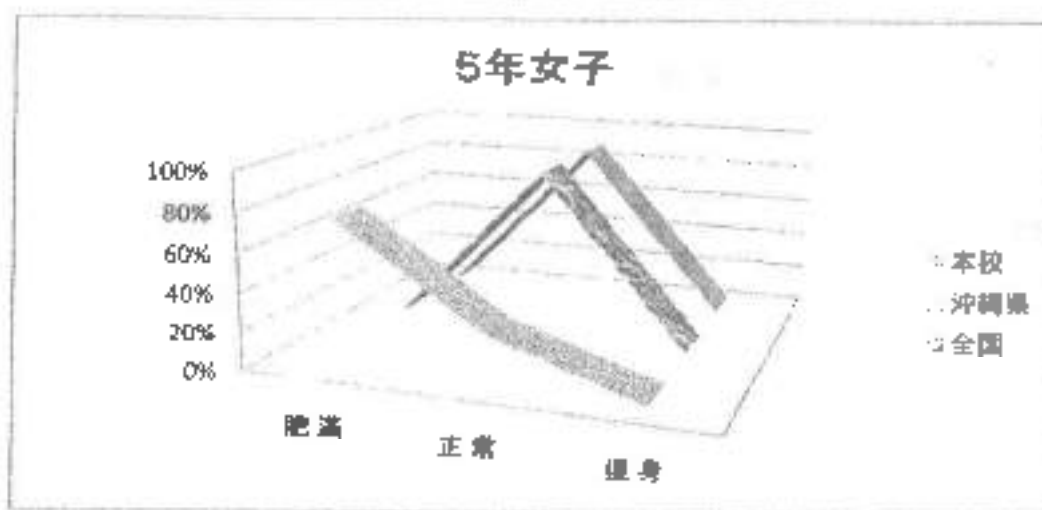
5年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	8(100%)	0(0%)
沖縄県	11.3%	86.5%	2.2%
全国	10.8%	86.8%	2.4%



〈考察〉

・ 本校では、全員が正常値であった。

5年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	3(75%)	1(25%)	0(17%)
沖縄県	8.4%	89.6%	2.0%
全国	8.3%	88.9%	2.8%

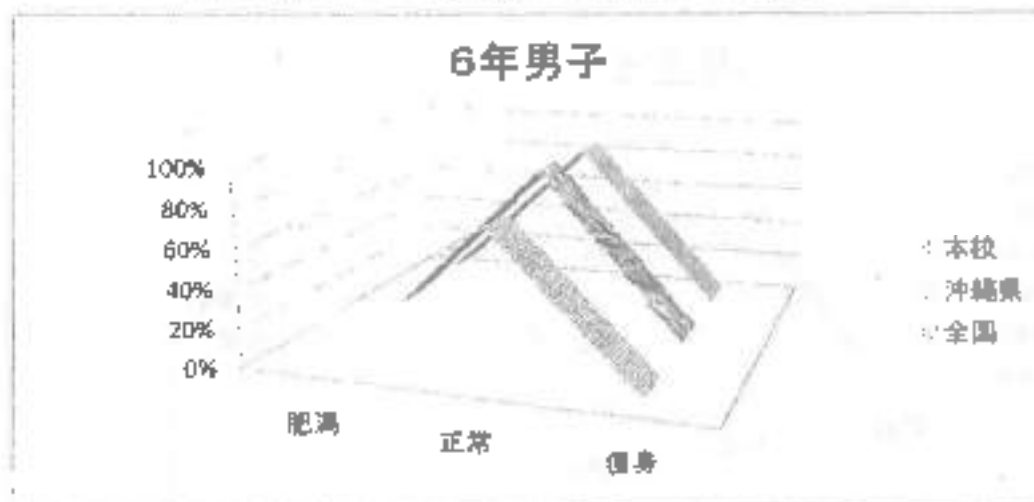


〈考察〉

・ 本校では、3名肥満(軽度肥満2名・中等度肥満1名)がみられた。

⑨ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H21年度)との比較(平均値)

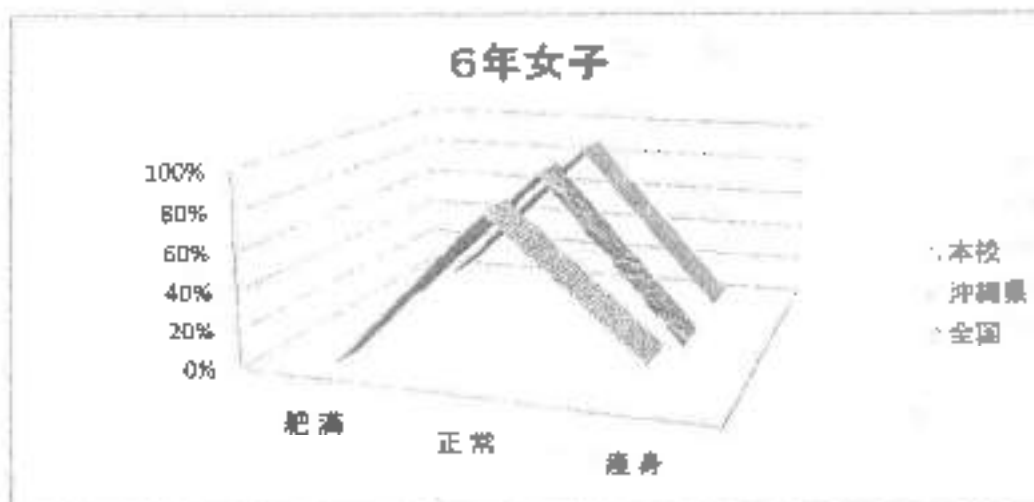
6年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(25%)	3(75%)	0(0%)
沖縄県	9.2%	87.6%	3.2%
全国	10.6%	86.1%	3.3%



(考察)

・ 本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

6年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	5(83.3%)	1(16.7%)
沖縄県	10.7%	87.9%	1.4%
全国	8.7%	88.6%	2.7%



(考察)

・ 本校では、1名痩身(高度痩身)がみられた。

⑩ 今年度の全国における体格の発育状況

(1) 身長

平成21年度の男子の身長(全国平均値、以下同じ。)は、7歳(小2)、8歳(小3)で前年度より増加している。しかし、その他の年齢では、9歳(小4)で前年度より減少している。一方、女子の身長は、10歳(小5)、11歳(小6)で前年度の同年齢より増加している。

(2) 体重

平成21年度の男子の体重(全国平均値、以下同じ。)は、前年度より増加している学年はない。7歳(小2)、8歳(小3)、9歳(小4)、10歳(5年)、11歳(6年)で前年度より減少している。一方、女子の体重は、7歳(小2)～11歳(小6)の年齢で前年度の同年齢より減少している。

(3) 座高

平成21年度の男子の座高(全国平均値、以下同じ。)は、6歳(小1)、9歳(小4)、11歳(6年)で前年度より減少している。一方、女子の座高は、6歳(小1)、9歳(小4)、10歳(小5)で前年度より増加している。

(4) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子では、10歳(小5)、11歳(小6)で10%を超えており、10歳(小5)が11.3%と最も高くなっている。一方、女子では、11歳(小6)が10.7%で最も高くなっている。

また、痩身傾向児の出現率は、男子では10歳(小5)、11歳(小6)で2%を超えており、11歳(小6)が3.2%と最も高くなっている。一方、女子では9歳(小4)から11歳(小6)で1%を超えており、11歳(小6)が2%と最も高くなっている。

(5) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率の算出・判定方法

肥満・痩身傾向児については、平成17年度まで、性別・年齢別に身長別平均体重を求めその平均体重の120%以上の体重の者を肥満傾向児、80%以下の者を痩身傾向児としていたが、18年度から、性別、年齢、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は、以下の通りである。

肥満度(過体重度)%

$$= [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] \div \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\ast \text{身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

標準体重を求める係数

係数 年齢(学年)	男		女	
	a	b	a	b
6(小1)	0.461	32.382	0.458	32.079
7(小2)	0.513	38.878	0.508	38.367
8(小3)	0.592	48.804	0.561	45.006
9(小4)	0.687	61.390	0.652	56.992
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091
11(小6)	0.782	75.106	0.803	78.846

判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30～49.9%	中等度肥満
20～29.9%	軽度肥満
-19.9～19.9%	正常
-20～-29.9%	軽度痩身
-30%以下	高度痩身

「児童・生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」より
平成18年9月31日発行 財団法人 日本学校保健会

Ⅲ 研究の実践

3 各専門部の実践

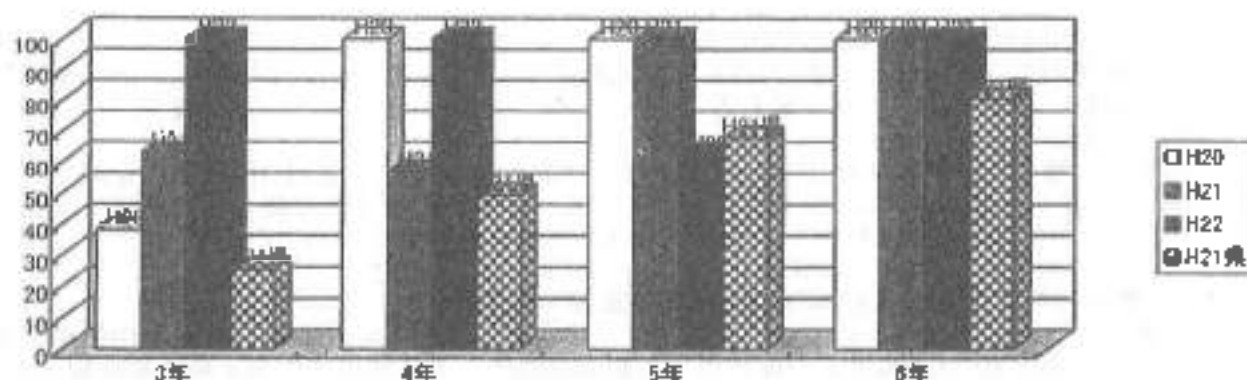
(1) 資料調査部の実践-③

児童の泳力（県との比較）

～25m以上泳げる児童の割合～

【男子】

男子	3年	4年	5年	6年
本校目標	60%	70%	80%	90%
H20	38%	100%	100%	100%
H21	63%	57%	100%	100%
H22	100%	100%	62.5%	100%
H21 県	25.6%	49.4%	68.0%	80.6%



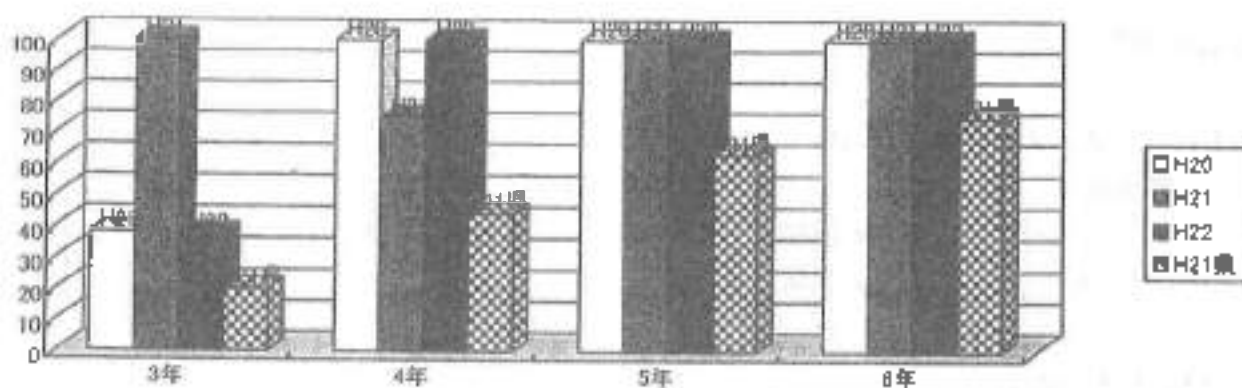
○ 男子は5年生以外の全学年が100%の達成率という結果だった。3・4年生は、平泳ぎを中心に指導を行い、3年生にバタ平が数名いたが、ほとんどの児童が平泳ぎで25m以上泳ぐことができた。

5・6年生は、クロール・平泳ぎの両方で25m以上泳ぐことのできる児童が多かった。

5年生においては、過去3年間の推移を見てみると、3・4年生のときは県平均を上回っているが、本年度において県平均を下回った。脱力によって浮くことが困難なため泳げない児童が数名いるが、T1、T2によるきめ細かい指導により記録は伸びてきている。さらなる指導方法を工夫改善していきたい。

【女子】

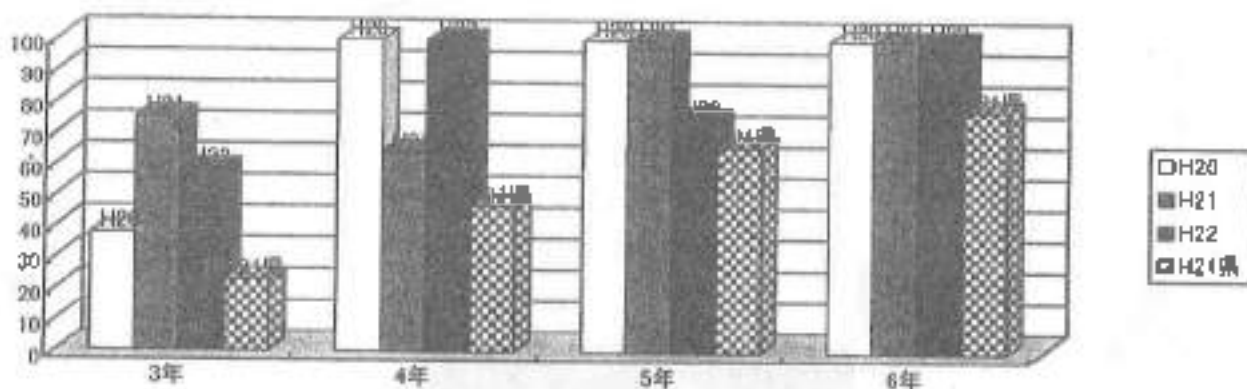
女子	3年	4年	5年	6年
本校目標	60%	70%	80%	90%
H20	38%	100%	100%	100%
H21	100%	75%	100%	100%
H22	37.5%	100%	100%	100%
H21 県	20.2%	44.0%	62.9%	74.8%



○ 女子は3年生以外の全学年が100%の達成率であった。過去の3年間の推移をみても県平均をすべて上回っており、ほとんどの児童が25m以上泳ぐことができる。男子と同様に3・4年生は平泳ぎで25m以上を泳ぐことができ、5・6年生においては、クロール・平泳ぎの両方で25m以上泳ぐことができる。3年生においては、低学年の「水遊び」から、中学年の「浮く・泳ぐ」という段階へのつながりとして大切な時期にある。基本をしっかりと押さえた指導が必要といえる。

[全体]

全体	3年	4年	5年	6年
本校目標	60%	70%	80%	90%
H20	38%	100%	100%	100%
H21	75%	64%	100%	100%
H22	58.3%	100%	75.0%	100%
H21 県	22.9%	46.7%	65.9%	77.7%



○ 全体としての泳力も県平均を大きく上回っている。その要因として、本校は、隣学年合同での体育の授業を行っており、少人数の児童に教師が2人指導につけるということからも、お互いが協力することで、きめ細かい指導をすることができ、そのことが児童の技能向上へとつながっていると考えられる。今後も、低学年の「水遊び」から中学年の「浮く・泳ぐ」、高学年の「水泳」までの系統的・段階的な個に応じた指導を計画・実践していきたい。

2 道徳での実践

单元名 もったいないぼあさん

ねらい 今までの「もったいない」生活を見直そうとする態度を育てる。

活動の様子

授業の前半は、資料のカルタや世界の現状(映像)を提示して、自分の生活を振り返らせる。後半は、見つけたいろいろなもったいないことをカルタにして児童に作らせる活動を通して物を大切にすることを大切にする気持ちを高める。

作成したカルタの半数は、食べ物に関するもったいないことであった。このことから、意識していることが伺える。



3 栄養士との連携

(1) 給食時間を利用した巡回給食指導

6月に実施し、手洗いの仕方について学んだ。



手洗いの歌を歌いながら、キレイに洗いましょうね。



きれいなハンカチで手をふくことも大事ですよ。

(2) 道徳の授業での ゲストティーチャーとしてのお話

※ 次ページでの道徳指導略案に掲載

〈3〉収穫後の織子



『えだまめ』ができていますよ。



やったー！。とろもろこしができたー！



ゴーヤーのカーテンだね！



とろもろこしは、ひげが
たくさんあるんだね。



とろもろこし、いただきます！

〈4〉家庭との連携



学級通信の通信欄より



収穫したゴーヤーをもち帰って、家庭で味わった児童の日記



道徳学習指導略案

日時 平成22年9月9日(木) 3校時
 対象 与那国小学校 1・2学年
 1学年 男子5名 女子4名 計9名
 2学年 男子6名 女子7名 計13名
 授業者 1学年担任 上地 真由美
 栄養士 糸数 やえ子(がけり)

1. 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ① 「いただきます」という言葉の意味を考えさせ、生きることの大切さに気づかせる。
- ② 給食に携わる方の思いを聞くことによって、おいしくいただくとする意欲を育む。

(2) 授業仮説


学校生活で体験した野菜の栽培・収穫を振り返り、給食に携わる方の思いを知ることによって、食べることは生きるために大切な行為であることに気づき、感謝の気持ちをこめた食事のあいさつについて考えることができるであろう。

(3) 準備物

・漫画の1コマごとの掲示用拡大コピー ・生活科学習の様子(写真)・挿絵 ・ワークシート

(4) 本時の展開

過程	学習活動	○発問・予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1. 生活科で育てた野菜を食べたことを振り返る。	○食べる前に言う言葉は何でしょうか。 ・いただきます	・やぎが草を食べている写真と児童が収穫した野菜を食べている写真を提示する。
展開 32分	2. 資料『「いただきます」ということ』を読んで話し合う。 	○みんなはどう思いますか。 ・シカがライオンに食べられてかわいそう。 ・かわいそうだけどしかたない。 ○みんなも、お肉やお魚を食べますか。 ・はい。 ・お魚、おいしいよ。 ・唐揚げのお肉が大好き。 ○ハーちゃんは、何て言ったと思いますか。 ・ママなんてきらい。 ・ハーちゃんはライオンとちがうよ。 ・ハーちゃんは、ごはんを食べない。 ・ハーちゃんは、もうお肉を食べない。 ○ハーちゃんは、「もー、お肉たべない！」と言っていますが、その代わりに何を食べていると思いますか。 ・おこめやたまご ・やさいやパンとかおかし。 ○お肉の代わりになぜ、お米やたまごなどは食べようと思いますか。 ・ころさなくてもいいものだから。 ・どうぶつみたいにいのちがないから。 ○食べ物を食べないとどうなってしまいますか。 ・おなかですいて、しんでしまう。 ・びょうきになる。 ○私たちが「生き物のいのちを食べている」ということをどう思いますか。 ・いままでしらなかつた。 ・いきものに「ごめんね」という気持ち。 ・「ありがとう」という気持ちになった。	・漫画の1コマずつ提示する。 ・自分の生活と重ねて考えられるようにする。 ・女の子の吹き出しの言葉を考えさせてから、漫画を提示する。 ・食べ物の挿絵を提示する。 ・植物の成長過程(写真)を提示し、生きていることを確認する。 ・人間も動物も、物を食べなければ生きていけないことを確認する。 ・自分の生活を振り返り、食べないとどうなるか考えさせる。

番号	学習活動	○疑問・予想される児童の反応	指導上の留意点
	3. ゲストティーチャー（栄養士）の話を聞く。 	○生き物のいのちをみんなにおいしく食べるられるようにしてくれている方のお話を聞きましょう。 ○「いただきます」というときに、どんなことを考えたらいいですか。 ・食べものひとつひとつに「ありがとう」という。 ・つくってくれたひとにかんじやする。 ・食べものをたいせつにする。	・献立を立てるときの苦労や工夫を話す。 （GT：糸数やえ子氏） ・ワークシート配布 ・日頃使っている「いただきます」の意味を考える。
まとめ 10分	4. 今日の学習を振り返る。	○みなさんの食卓について、考えたことや思ったことを発表しましょう。	・生きるために食べることは大切なことを考えさせる。 ・2, 3名の児童に発表させ、自分の感想と比べながら聞く。

(5) 評価

「いただきます」という言葉の意味を考え、生きることの人切さに気づくことができたか。

2. 板書計画

興味

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

理解

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

興味

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

理解

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

「いただきます」って何ですか？

拡大した挿絵
(前半部分)

挿絵

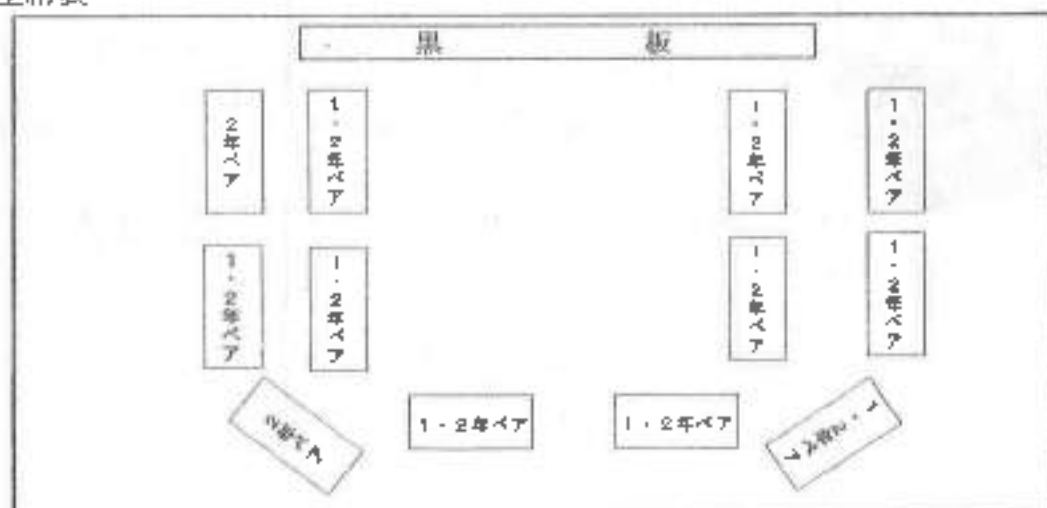
挿絵

挿絵

挿絵

「いただきます」って何ですか？

3. 座席表



4. 児童の感想 (ワークシートより)

2 年 生

◇「いただきます」というときにどんなことをかんがえたらよいでしょうか。



つくってくれた人に感謝する。
 のこさも出さなければいけないので
 のこさまでちゃんと食べよう。

◇きょうのどうとくじやうは どうでしたか。□に ◎○△を かきましよう。



◎ とう おもてなしがよかった。
 ○ べつ
 △ おもてなしがよかった。

◎	きょうの どうとくじやうは、わがやがよかったです。
○	おもてなしがよかったり、ともだちの いっぱい ことを 書いて、あたらしく 思った ことは ありませんか。
△	これから、たべものを たいせつに しようと おもいましたか。

◇じやうの なかで、かんじた ことや かんがえた ことが あったか、かきましよう。

つくってくれた人に感謝する。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。



◇「いただきます」というときにどんなことをかんがえたらよいでしょうか。



いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。

◇きょうの どうとくじやうは どうでしたか。□に ◎○△を かきましよう。



◎ とう おもてなしがよかった。
 ○ べつ
 △ おもてなしがよかった。

◎	きょうの どうとくじやうは、わがやがよかったです。
○	おもてなしがよかったり、ともだちの いっぱい ことを 書いて、あたらしく 思った ことは ありませんか。
△	これから、たべものを たいせつに しようと おもいましたか。

◇じやうの なかで、かんじた ことや かんがえた ことが あったか、かきましよう。

いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。

◇「いただきます」というときにどんなことをかんがえたらよいでしょうか。



つくっている人がいっしょに
 たくさんおいしいものを
 食べるから、いただきます。

◇きょうの どうとくじやうは どうでしたか。□に ◎○△を かきましよう。



◎ とう おもてなしがよかった。
 ○ べつ
 △ おもてなしがよかった。

◎	きょうの どうとくじやうは、わがやがよかったです。
○	おもてなしがよかったり、ともだちの いっぱい ことを 書いて、あたらしく 思った ことは ありませんか。
△	これから、たべものを たいせつに しようと おもいましたか。

◇じやうの なかで、かんじた ことや かんがえた ことが あったか、かきましよう。

いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。

1 年 生

◇「いただきます」というときにどんなことをかんがえたらよいでしょうか。



いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。

◇きょうの どうとくじやうは どうでしたか。□に ◎○△を かきましよう。



◎ とう おもてなしがよかった。
 ○ べつ
 △ おもてなしがよかった。

◎	きょうの どうとくじやうは、わがやがよかったです。
○	おもてなしがよかったり、ともだちの いっぱい ことを 書いて、あたらしく 思った ことは ありませんか。
△	これから、たべものを たいせつに しようと おもいましたか。

◇じやうの なかで、かんじた ことや かんがえた ことが あったか、かきましよう。

いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。
 いただきますはつくづくお一人一人の
 思いが大切。

学級活動指導案

平成22年9月9日（木）3校時
 3学年 男子4名 女子8名 計12名
 4学年 男子6名 女子4名 計10名
 授業者 3学年担任 東内原 初妃
 4学年担任 宮良 善起

1、題材名 「食べ物の働きを知って、バランスよく食べよう」

2、目標

わたしたちは食べ物を食べることにより、成長したり、元気に活動したり、運動したりすることができることを知る。また、食べている食品の働きを知らせたり調べたりして、好き嫌いなくなんでも食べようとする態度を育てるとともに、食事や給食の大切さを知る。

3、本時の展開

(1) 本時の目標

給食に使われている食品を主な3つの働きに分け、3つの働きがそろったバランスのよい食事の大切さを知る。

(2) 授業仮説

3つの食品群とその働きについて知り、給食に出てきた食品をなかま分けをすることで、栄養バランスのとれた食生活が体力の向上、健康の促進に重要な役割を果たすことを理解できるであろう。

(3) 準備

- ・ワークシート、給食献立表、色鉛筆〔児童用〕
- ・栄養表、掲示資料（食品絵カード、仲間分け表）、大型テレビ〔教師用〕

(4) 展開

	学習活動	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応	・資料 ☆評価
導 入	1、昨日の給食のメニューを思い出す。	・野菜、ご飯、牛乳、小魚、調味料など他にもいろいろな食品が入っていることに気付かせる。	・食品絵カード

導入
(十分)

2. なぜ給食を食べるのかを考える。



- どうして給食にはたくさんの食品が入っているかと投げかけ、本時の課題をつかませる。
- ・ みんなにいろいろな種類の食べ物を食べてほしいから。
- ・ 食べ物はそれぞれ違った栄養素を持っているから、バランスよく食べてほしい。

・ 食品絵カード

展開
(三十二分)

3. 本時のテーマ①を知る。

4. 食品の3色分類を思い出し、主な動きを確認する。

5. 給食の食品を3色に分け、気づいたことを発表する。

6. 本時のテーマ②を知る。

7. 給食以外の献立が良くなるように付け加えたい料理を考え、発表する。

食べ物の働きを知ろう

- 3つの食品群の働きを知らせ、食品を3つのグループに分けさせる。



- 食品絵カードを、3つの食品群に分けて黒板に貼らせる。
- 給食はいろいろな食品がバランスよく使われていることに気づかせ、残さないで食べることが大切なことを理解させる。
- ・ 給食は毎日3色そろっている。
- ・ 給食は食品の数が多いい。


・ 栄養表

・ 献立表
・ 食品絵カード
・ 仲間分け表

赤・黄・緑 バランスよく食べよう

- 不足している食品群に入る食品を使い料理を考えさせる。
- 大型テレビを用いて、不足している食品群を確認していく。

・ 献立表
・ ワークシート
・ 大型テレビ

		<p>○普段の食事の時にも、栄養がかたよらないように3つの食品群を認識すると良いことを知らせる。</p>	
<p>まとめ (2分)</p>	<p>8. 本時のまとめをする。</p>	<p>○体をよりよく成長させるために大切なことを考え、めあてを発表する。</p>	<p>・ワークシート</p>

4. 評価

いろいろな食べ物の働きがわかり、嫌いなものでも少しずつ食べようとする意欲がもてたか。

5. 板書計画

今日のめあて

食べ物のはたらきを知って
バランスよく食べよう

給食のこんだて

赤の食べ物

はたらき

黄色の食べ物

はたらき

緑の食べ物

はたらき

まとめ

すくすく育て わたしの体

名前 _____

1. どんな料理をたしますか。



2. 体がすくすく育つために大切なことは何ですか。

• _____

• _____

• _____

3. 体をよりよく成長させるためのめあてを書きましょう。

～授業の様子～

たしますか。

このメニューに足りない食品群は何かな～？

好きなものばかりだけど、栄養のバランスはどうだろう…



とうふは体をつくる赤の食べ物だよ！



黄色の食べ物はこんなはたらきをしているよ！



はい！！給食に入っていた小魚は赤の食べ物だと思います！！



ぼくのきれいな物は緑に多いんだなあ～！
バランス良く食べなきゃ！

残さず食べよう！ペロリ表★

苦手なものを先に食べたり、三角食べに気をつけたり、モグモグタイム（おしゃべり禁止タイム）をもうけたりと工夫をしながら、全員ペロリ賞を目標にがんばっています！

給食を残さず食べることができると、教室に掲示されているペロリ表にシールを貼ることができます☆



やった～！！今日も残量ゼロだ～★
栄養バランスに気をつけて、きれいな物も食べることができたよ（＾＾）！



食 育 (5・6 学年)

食に関する指導の目標として、高学年は以下の3つが立てられている。

- 食事を通して豊かな心と好ましい人間関係を育てるようにする。
- 日常の食事に関心をもち、バランスのとれた食事の大切さが分かる。
- 食品の衛生に気をつけて簡単な調理をすることができる。

これらの目標を達成するための手立てとして高学年では、家庭科学習における食指導、総合的な学習の時間における稲作体験を柱として食教育に取り組んだ。

1 家庭科学習における食指導

5、6年生は家庭科の学習で調理実習がある。食材について簡単な栄養バランスや調理方法、安全や衛生についての知識などを学習する。5、6年生は畑で野菜を育て、自分たちが育てた野菜を使って調理実習を行った。赤（おもに体をつくる食品） 黄（おもにエネルギーのもとになる食品） 緑（おもに体の調子を整える食品）の栄養バランスを意識させることで、給食のバランスはどうなっているか、自分の家庭での食事はどうなっているかなど、自分の食生活を振り返り学習することができた。また、栄養士の米数さんから食に関する情報として毎月「とまとてがみ」を学校に提供していただき、各クラスに掲示することで食に関する意欲を高めている。

とまとてがみ


第403号
発行日：2013年10月27日（水）
発行所：学校生活部生活文化課健康推進課
発行：栄養士 米数 さん



夏休みが終わると、元気な体が徐々に萎んでくることがあります。学校生活で再び元気に、体の調子を整えたいと思います。スタート地点、体調などをくぐらないよう、栄養士さんや食育の味方の方の生活に近づき、お食事は好きずきでも、体質の値や食事の量には手洗いやうがいもしっかりする、食は早めに休み時間を十分に取るなど心がけてください。

バランスのとれた食 事


主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉、魚、卵、牛乳、大豆製品など）、副菜（野菜、きのこ、海藻、果物など）をそろえるようにすると、バランスもよくなります。学校給食の予定献立表をぜひ参考にしてください。




十分な睡眠

十分な睡眠は体、脳、心の疲れをとるために大切です。翌日の目覚めや食欲、体調にも影響を及ぼします。


22時～24時に成長ホルモンが多く分泌されます。




☆調理実習の様子

カルシウムについて

カルシウムは、日本人にとって不足しやすい栄養素の一つです。1日に小学生（8～9歳）は700mg、中学生（12～14歳）の男子は1000mg、女子は800mg必要とされています。



カルシウムが不足すると・・・

★骨や歯がもろくなる ★血が止まりにくくなる ★イライラするなどの症状

カルシウムの吸収を助ける「リン」が多く含まれている加工食品（インスタント食品やスナック菓子など）のとり過ぎには注意しましょう。



「とまとてがみ」
内容も私たちの食生活に関する身近なネタで、子どもたちにもわかりやすく楽しい記事になっています。

2 総合的な学習の時間における稲作体験

○ わらい

- ・地域の農業の一つである稲作を体験し、お米ができる過程を観察することができる。
- ・稲作体験を通して、毎日食べる食事への意識を高めることができる。

○ 活動の様子

・箱苗づくり（平成22年2月）

地域ボランティア：小嶺長洋さん・崎元恒男さん・援農隊



もみ殻を、把種機を使って箱に植え付けていく。

4時間ほどの作業で200箱近い箱苗を作成した。

・田植え（平成22年3月）



足もとがぐらぐら、うまく歩けない・・・

・稲の観察と手入れ（平成22年 4・5・6月）



・稲刈り（平成22年 7月）



稲刈り体験の思い出

稲刈り体験の思い出

成果と課題

- (成果) ・稲作体験を通して、地域の産業に関わりながら自分たちが普段口にする食料がどのようにして作られるのか知ることができた。
- ・給食や調理実習を通して、食べることの大切さやバランスよく栄養を摂取することを学ぶことができた。
- (課題) ・お米だけでなく他の作物も、1年間を通して栽培体験できるようにしたい。
- ・自分たちで栽培した作物を使って、調理実習を行えるようにしたい。

Ⅲ 研究の実際

3 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

⑤ コーディネーション運動の実際

領域	運動名	運動の内容	7つのコーディネーション能力の分類						
			定位	変換	連続	反応	識別	リズム	バランス
・ 陸上運動 (ハードル)	1 フェイントジャンケン	① 2人1組で向かい合い。 ② 足でジャンケンをする。 ③ できるだけ高く跳び、空中でグーを出し、着地寸前でパーにするなどフェイントをかける。	○	○					○
	2 「たこ」と「たい」 「カジキ」と「カツオ」	① 2人1組で、どちらが「たい」、どちらが「たこ」を決め、着中合わせで長座する。 ② 教師が「たこ」か「たい」と言ったとき、呼ばれなかった人は逃げ、呼ばれた人は追いかける。 ※ 「カジキ」と「カツオ」も同様に行う。 バリエーション ・ 「うつ伏せ、や」仰向け」などスキーマト体勢を変えて行う。	○	○		○			
	3 リ・ダースキップ	① 4～5名のグループをつくる。 ② 一列に並び先頭の人(リーダー)のまねをしながら行っていく。 ③ 笛の合図で、先頭が入れ替わっていく。		○					○
	4 ラダーステップ	① ラダーステップを行って、次のステップを行う。 ・ ベーシックステップ ・ グー・パー連続ステップ ・ ちも上げステップ ・ スラロームステップ ・ 平行移動ステップ ・ 開脚ジャンプ ・ サイドステップ ② 足の動きが正確に素早くできたら、手の動きを加えてコーディネーション能力を高めていく。 ※ ラダーステップにはいろいろな種類があるので、上記のものから抜粋して行ったり、新しいステップを創って取り組んでも良い。	○	○	○			○	○

領域	運動名	運動の内容	？のマーダーゲーム シェン様への分類						
			定 位	要 素	連 結	反 応	鑑 別	リ ズ ム	バ ラ ンス
	5 スナップオンゲーム	①2人1組で向かい合って立ち、両手をのびなく、 ②教師の合図で、お互いに相手の足を踏む。	○	○	○		○	○	○
	6 じゆうたんかわ跳び	①じゆうたん (人工芝パネル) 4枚を5歩のリズムで走り越す。 ②横れてきたら徐々にスピードを上げていく。 ③じゆうたんの幅を広げ (人工芝パネル6枚) を3歩のリズムで走り越す。 ④横れてきたら、グループでハンドタンチラリーを行う。	○	○	○		○	○	
	7 ハードランウォーク (抜き足練習)	①振り上げ足をハードルの横より前に置く。 ②ハードルの上をまたぎ抜き足を前に降ろす。 ③横れてきたら、後ろ向きでも行う。 ④これも慣れにくくと歩きながら次のハードルをまたいでいく。							○
	8 フラックダグット	①2人1組でスタートラインに並ぶ。 ②教師 (次の組の児童) の合図でスタートし、先にフラックをとった方が勝ちとする。 ③勝った児童は次回1歩下がってスタートする。 ④途中で人工芝、ペットボトルハードル、ハードルを置いて実施する。	○				○	○	
	9 ペットボトルハードル リレー	①自分のインターバルに合ったコースで行う。 ・コースは (緑5.5m) (黄6.0m) (赤6.5m) (青7.0m) で行う。 ②それぞれのグループで、ハンタダリレーを行う。	○					○	○
	10 ペアスナップ	①2人1組でハードルをそれぞれ向かい合い、お互いに右手を相手の右肩 (左手を左肩) に置く。 ②ハードルを「ハードルウォーク」と同じようにまたぎ越す。 ・抜き足を横にして抜く (膝より足首がしたにある) ことを意識して行う。 ③横れてきたら、抜き足で早くマット (人工芝) を踏みつける練習をする。						○	○

運動の内容

定	変	適	具	機	ト	バ
位	換	新	応	別	ク	ス

領域	運動名	運動の内容	定	変	適	具	機	ト	バ
陸上運動 (ハードル)	11 おおまたダリ	①2人1組でスタートラインに立つ。 ②ジャンケンダリコをする。 ・入ままでスタートラインを広げる事を意識する。 ・1ダブ(ダリコ)3歩(チャコ・レート)6歩(バク・バイナブル)6歩 ③10m地点で折り返し、スタートラインに先に戻ってきた方が勝ち。			○				○
	12 スクワアプ・ジャンプ	①4個のペットボトルを正方形に並べその中心に立つ。 ②中心から前→中心→後ろ→中心→右→中心→左→中心の順に両足ジャンプを繰り返す。 パリエーション ・慣れてきたら、方向の順番を変えたり、仲間に指がされた方向に跳んだりする。	○		○		○		○
	13 バウンディングくらべ	①2人1組でスタートラインに並ぶ。 ②ジャンプで跳った距離から、大きなストライドで5歩(7歩)でどこまでいけるかを競う。 ③ジャンプを並べる。			○				○
	14 ステップ	①1・2・3,バックのリズムでステップする。 パリエーション ・ジャンプの間隔を変える。	○	○				○	○
陸上運動 (走り幅跳び)	2 ミニハードル	①ミニハードルの間隔を2mとして並べる。 ②助走から踏み切り、上方へ跳ぶ感覚でリズム良く跳び越える。	○	○	○	○	○	○	○
	3 人間ラダー	①グループ(4〜6人)で行う。 ②間隔を2mとして並び足の上をリズムカルに跳び越える。 ・足の裏を使う感覚を身につける。 パリエーション ・長厚・厚跳びへと高さを変えていく。	○	○					○
	4 川とび	①ラインを引いたり、シートを敷いたりして川をつくる。 ②助走から片足を踏み切り、両足を着地する。	○	○	○	○	○	○	○

領域	運動名	運動の内容	7つのコアデザインセッション能力の分類						
			定位置	変換	連結	反応	識別	リズム	バランス
陸上運動 ・健康増進 ・1231	1 ケンステップ	①ケンステップを歩く。 ②「1・2・3・パツ」のリズムでステップする。 <u>パリエーション</u> ・ケンステップの間隔を変える。 ①ミニハードルを間隔をとって使う。 ②踏み切り足で、ケンケンしながらリズムよくハードルを踏びこえる。 ③横向きになり、もれ上げをしながら横にハードルを跳んでいく。 ・踏み切り足と振りあげる足を意識する。 ・頭や上半身がブレないように、姿勢を意識する。	○	○				○	○
	2 ミニハードル	①グループ(4~6人)で行う。 ②間隔をとって歩速をして並み足の上をリズムカールに跳び越える。 ・足の裏を使い感覚を身につける。 <u>パリエーション</u> ・長さ→間脚と間の間隔に変化をもたせ、リズムを意識する。	○						○
	3 人間ラダー	①等間隔にあいた4つのボックスの上で「1・2・3・トン」で踏み切った足で、右の上は跳び下が る。 ②足の振り上げを意識する。	○						○
	4 ボックス跳び上がり	①1・2年生の組み合わせで、お互いの体をほぐす。 ①リズムよくトボふことで、歩調リズムをつなげる。 ①バランスの感覚を上りながら、楽しくジャンケンをする。 ③新聞のマネをしたながら、いろんな表現をする。(身体いっぱい使って) ③二人一組でふれあうことで、仲間意識がでる。	○						○
表現・リズム遊び	1 パフォーマンス		○						○
	2 1分間なわとび		○						○
	3 片足じゃふけん		○						○
	4 新聞あそび		○						○
	5 きゅうりの塩もみ		○						○

領域	運動名	運動の内容	7つのコア・フィジカル・シジョン能力の分類					
			定位置	変換	進歩	反動	識別	リズム
水	1 水中前進ゴッポ	・4～5人1組になり、前の人を胸に手をおき全体がななめなかつたまま、水中を歩き回る。 ・水に顔を付け、口や鼻から息を吐く。	○	○	○	○	○	○
	2 くじら（くじらリング）	・息をとめて水中にもぐり、膝は上がって空中で息を感じる。	○	○	○	○	○	○
	3 かっぱ（ボビング）	①ひざのまえ ②後ろへつリン ③大きくゆれて ④船へゆれる。膝をかかえて止まる。	○	○	○	○	○	○
	4 ゆりかご	①膝を伸ばして、両手を置いて前へ進む。	○	○	○	○	○	○
	5 くまさん	①右足を前に、左手を衣に突へと出し、両足を引きずる。	○	○	○	○	○	○
	6 アザラシさん	②吹タバコ手を前に出し、前進する。両手だけを泳いで進む。足はのびたまま。	○	○	○	○	○	○
	7 ウリガさん	①両手を高く肩につけ、しゃがむ。②手を着く直前に膝が伸び、両手をしゃがみより高く。	○	○	○	○	○	○
	8 ウサギの足打ち	③両足を上げてぶら下げる。④足を戻して、しゃがみ姿勢になる。	○	○	○	○	○	○
	9 シマウタ・リムシさん	①両手を高く肩につけ、しゃがむ。②手を着く直前に両足を上げる。③足を開く。④膝早く歩む。⑤着地。	○	○	○	○	○	○
	10 ゴロリン遊び（だるま遊び）	①両手を前へ着いて体を伸ばす。②頭を出し、真上を見「両足を上げておなかを上へ上げる。③両足の引け1回分。 ④両足の引け2回分。⑤両足の引け3回分。⑥体を伸ばす。	○	○	○	○	○	○
	11 アンテナ	①座った状態で足の裏を合わせ、膝に寄り添う。 ②膝間をいよく倒し、背中を上手につけて回り、起き上がる。	○	○	○	○	○	○
	12 スピードかべ逆立ち	①かむつた状態で足をつまみ、できるだけ腰を高く持ち上げる。 ②両手を着いて両足で踏み切る。③マットの反対側に両足で着地する。 ④二人でペアになり、AさんがBさんの両足を持ち上げる。 ⑤Bさんは両手で歩かながら出合ったチームとじゃんけんをする。 ⑥二人で同時に、かべを使い逆立ちの姿勢になる。⑦片手を床から離し、お互いジャンケンをする。 ⑧勝ったほうが逆立ちの回数を2回くぐる。	○	○	○	○	○	○

領域	運動名	運動の内容	7つのコーディネーション能力の分類								
			定位置	変換	連続	反応	識別	リズム	バランス		
必須運動(サシカ)	1片足バランス	①左右どちらかの足で立ち、反対の足がつかないようにバランスを保つ。 [パリエーション] ・目を閉じて行う。 ・ケンケンで動いてから静止して行う。									
		②2人で向かい合い片足で立って右手(左手)で手をつなく。 ③教師の合図で手を引いたり押ししたりして相手のバランスをくずす。 ④両足が地面についてしまったり、転んでしまったりの場合は負け。 [パリエーション] ・手や足を入れ替える。									
	3ストッピング	①ボールを転がし、そのボールを追いかけ足裏で止める。 [パリエーション] ・反対の足で行う。 ・インサイドやおしりなど他の部分でボールを止める。									
		④ボールを投げ上げ、落ちてきたところを体のいろいろな部分を使って止める。									
	4投げ上げストップピング	①2人1組となり背面から股下を通してボールを転がしてもらい。 ②ボールが見えたら、すばやく追いかけて足の裏でボールを止める。 [パリエーション] ・反対の足を使う。 ・足の内側や外側で止める。 ・距離ごとにボールを投げてもらう。									
		⑤ストップ・ザ・ボール	①グループ(5~6人)で輪になって手をつなく。 ②輪の中にボールを入れパスをしながらボールを運ぶ。 [パリエーション] ・ボールを2個にする。								
	5手つなぎパス										

領域	運動名	運動の内容	7つのコーディネーション能力の分類									
			守位	変換	連結	反応	選別	リズム	バランス			
ボール運動(サッカー)	パス	①3人1組になって開脚をとりま一列に並び、両端の人がそれぞれボールを一つの方向につつ。 ②両端の人は中央の人に向かって交互にパスを出す。(除けても解はしてもよい) ③中央の人は、手で投げられたボールは手で返し、10のボールは、インサイドキックで返す。 <u>バリエーション</u> ・ターンする方向を変える。 ・3人とも足跡みをしながら行う。 ・投げられたボールを、ヘディングで返す。										
		①グループ(4～6人)で円をつくる。 ②パスをする順番を決めておき、その順番にパスを回す。 ③レシ、バレーは声やハンドサインを出し、パスを出し人は相手の名前を言う。 <u>バリエーション</u> ・動きながら行う ・ボールを2回にして行う。										
		①アラス全員がタオルなどしっぽとなるものを持って首着のズボンの後ろに挟む。 ②教師の合図で全員がしっぽを取り合う。 <u>バリエーション</u> ・チームに分かれて初挑戦を行う。										
	ドリブル	10 ボールステップニング <u>バリエーション</u> ・ボールの位置を体の真下にタツプする。 ・ボールの位置を体の真下に持ってくる。										
		11 ボールでなぞろう <u>バリエーション</u> ・横向き後ろ向きで行う。 ・2人組で行う。										
	ドリブル	12 ドリブルジャンケンドリブル <u>バリエーション</u> ・右足だけ、左足だけ、インサイドだけなどドリブルを制限する。										

領域	運動名	運動の内容	7つのコーディネーション能力の分類					
			反応	変換	選択	反応	調律	リズム
ドリブル	13 ドリブル鬼ごっこ	①グループ(4~6人)で行う。 ②鬼を1人決め、それ以外の人はボールを一つずつ持ち、ドリブルをしながらコートの中を逃げる。 ③捕まったら鬼に交代する。 パリエーション：鬼の数を二人にする。 ・コートの大きさを変える。						
	14 しっぽ取りドリブル	①4名のしっぽ取りをドリブルをしながら行う。 パリエーション：チーム対抗で行う。						
	15 リフティング	①1人1つのボールを行う。 ②体の様々な部位を使って、ボールを地面に落とさないで何回タッチできるかをカウントする。 パリエーション：左右の足交互にリズムよくタッチする。						
シュート	16 ゴール取りキャッチ	①足の甲(インステップ)でボールを上に戻り、手でキャッチする。 ②慣れてきたら、少しずつ高く蹴り上げるようにする。 パリエーション：反対の足で行う。 ・前後左右にずらして蹴り上げてキャッチする。						
	17 的あてキック	①1人1組ずつのボールを持ち、ラインからの的(コンシ等)をねらってキックする。 ②最初は近くの的からねらい、徐々に遠くの的にチャレンジする。 パリエーション：的までの距離や大きさを得点をつけ、チーム対抗戦を行う。						
	18 障害物シュート	①ゴールに段ボール等の障害物を置く。 ②障害物に当たらないようにシュートする。 パリエーション：反対の足でシュートする。 ・障害物を増やす。						

◎資料調査部の取り組みにおける成果と課題

成果

- 新体力テストの結果や泳力調査、体位各・体位の調査結果をまとめて分析し、児童の実態を把握した上で指導案を作るなど、授業実践に生かすことができた。
- 過去に取り組んだコーディネーション運動の資料を活用し、児童の実態に合わせて選択し実践することができた。
- 総合的な学習の時間や学活・道徳、そして生活科や家庭科などを通して食育に取り組み、食の大切さについて考えさせることができた。

課題

- 新体力テストの結果が県や全国と差がある場合の原因の究明。
- コーディネーションの資料の充実。

3. 各専門部の実践

(2) 環境整備部の実践

1 おらい

- ・日常生活において児童が運動できる環境の充実を図る。
- ・児童の運動に対する実態把握を行う。

2 方針

- (1) 児童の実態把握をする為、運動や体育学習に関するアンケートの実施を行う。
- (2) ゴールドジャンプの実践を記録する。
- (3) 運動環境の充実を図る。
- (4) なわとび検定日を定め、その実施に当たる。
- (5) 朝のジョギングを奨励する。

3 活動内容

(1) アンケート (※資料は平成22年度 運動や体育の学習に関するアンケートをご覧ください)

①おらい

- 日頃の運動や体育の学習において、全児童対象にアンケートを行うことで、児童の実態を把握し、充実した運動・体育学習のデータを作成し、活用していく。
- 各学年毎にデータを収集し、昨年度のデータと比較することで、児童の変容を把握し、分析考察していくとともに、今後の運動や体育の学習を進めていく上での指導の成果と課題に結びつけていく。

②調査実施時期

平成22年 9月 1日(水)

③調査対象

小学1年生～小学6年生の 計67名の児童

(2) ゴールドジャンプ

① おらい

- 自己のゴールドジャンプの記録や運動の記録をとり、自分で振り返らせることで、めあてを持って主体的に取り組む態度を育て、技能を習得していこうとする意欲を育てる。
- 1年間の自己の記録をとり、振り返らせることにより、次年度以降もさらに継続して自己の技能の向上を図ろうとする態度を育てる。

② 方法

- 日常生活でできるようになった項目があれば、担任でチェックし、シールやサインをして児童の意欲を高めていくようにする。

平成22年度 運動や体育の学習に関するアンケート

～児童の意識調査～

問1 あなたは運動が好きで、運動をするのが好きですか。

- ①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

	①	②	③	④
1年	6(67%)	3(33%)	0(0%)	0(0%)
2年	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)
3年	9(75%)	3(25%)	0(0%)	0(0%)
4年	9(90%)	1(10%)	0(0%)	0(0%)
5年	8(62%)	2(15%)	3(23%)	0(0%)
6年	5(50%)	4(40%)	1(10%)	0(0%)
合計	48(72%)	15(22%)	4(6%)	0(0%)

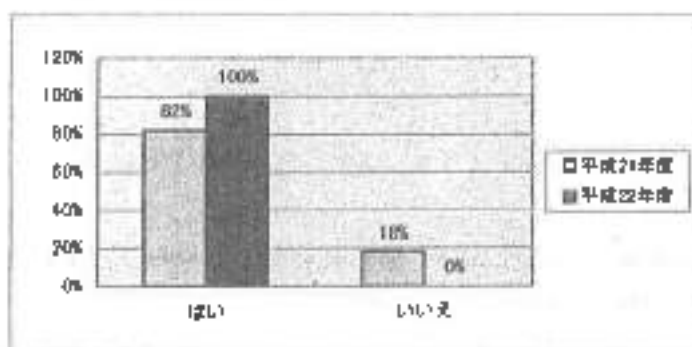


「①好き」または「②どちらかといえば好き」と回答した児童は94%であり、「④嫌い」と回答した児童が0%であることから、昨年度よりも運動するのが好きな児童が増加していることがわかる。

問2 体育の学習以外に、普段運動をしていますか。(部活動も含む)

- ①はい ②いいえ

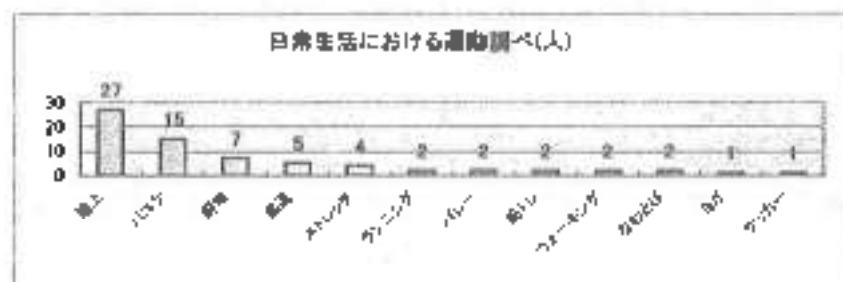
	①	②
1年	9	0
2年	13	0
3年	12	0
4年	13	0
5年	13	0
6年	10	0
合計	67(100%)	0(0%)



普段運動をしている児童が昨年に比べ、大幅に増加している。本校では、毎日、朝のマラソンを実施して、それにより運動の苦手な子もある程度の運動量の確保ができていると言える。

問3 問2で「①はい」と答えた人は、何をしていますか。(複数回答)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
陸上	4	6	4	5	5	3	27
バスケ	0	4	4	0	3	4	15
野球	0	0	2	1	2	2	7
柔道	0	2	1	1	1	0	5
ストレッチ	3	0	0	1	0	0	4
空手道	0	1	0	1	0	0	2
バレー	0	2	0	0	0	0	2
筋トレ	0	0	2	0	0	2	2
カーリング	0	0	2	0	2	0	2
ななとび	0	0	2	0	1	1	2
ヨガ	0	1	2	0	0	0	1
フッカー	0	0	0	0	0	1	1
合計	7	16	11	9	14	13	70

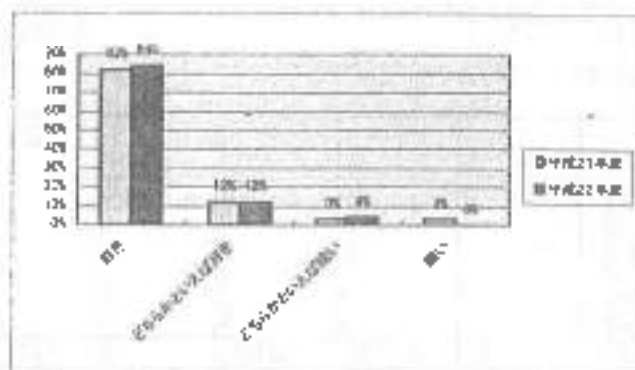


全学年を通して様々なスポーツに興味を持ち、運動している。特に陸上に関心のある児童が多く、三割近くの児童が陸上運動に励んでいる。また、今年はバスケ部や野球部に所属している児童が増え、ボール運動への興味・関心も高まってきた。

問4 あなたは、体育の学習が好きですか。

- ①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

	①	②	③	④
1年	9(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
2年	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
3年	11(92%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)
4年	9(90%)	1(10%)	0(0%)	0(0%)
5年	8(62%)	3(23%)	2(15%)	0(0%)
6年	6(60%)	3(30%)	1(10%)	0(0%)
合計	56(84%)	8(12%)	3(4%)	0(0%)



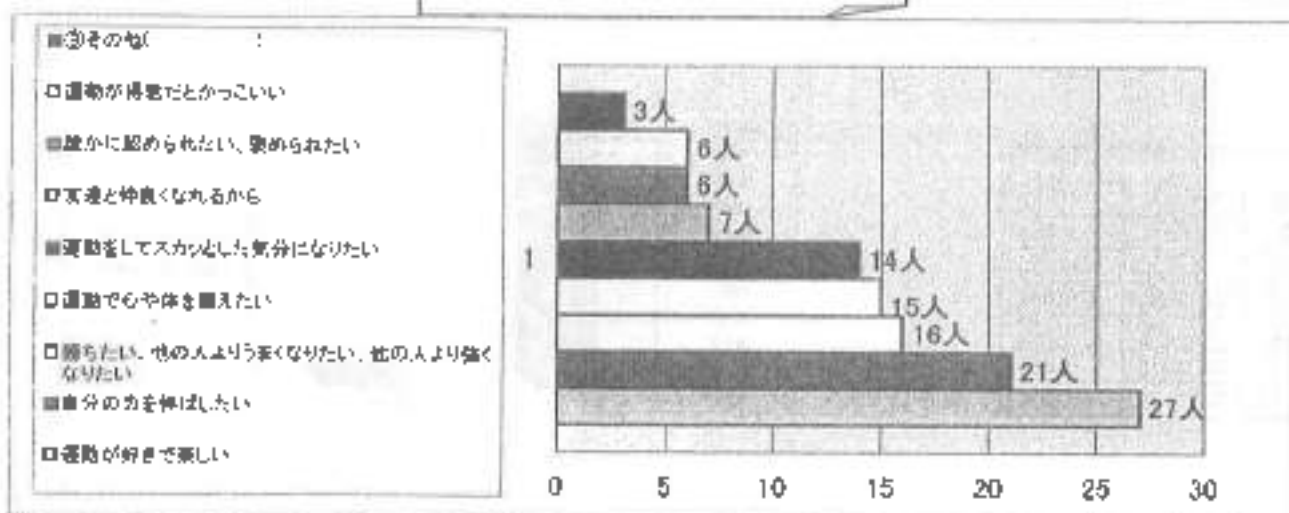
「①好き」または「②どちらかといえば好き」と回答した児童が9割を占めている。「③どちらかといえば嫌い」と回答した児童が3人いるが、「④嫌い」と回答した児童がいないことから、体育の学習が好きな児童が多いことがわかる。

問5 問4で「①好き」か「②どちらかといえば好き」を選んだ人は、その理由を選んで下さい。(複数回答)

- ①運動してスカッとした気分になりたい。
 ②運動が好きで楽しい。
 ③勝ちたい、他の人より上手になりたい、他の人より強くなりたい。
 ④友達と仲良くなれるから。
 ⑤誰かに認められたい、褒められたい。
 ⑥自分の力を伸ばしたい。
 ⑦運動が得意だとカッコいい。
 ⑧運動で心や体を鍛えたい。
 ⑨その他()

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1年	3	1	0	0	2	0	0	3	0
2年	1	3	5	1	0	2	0	4	1
3年	2	10	2	0	0	6	1	3	0
4年	1	3	4	0	1	2	1	1	1
5年	3	7	3	3	1	6	2	2	1
6年	4	3	2	3	2	5	2	2	0
合計	14	27	16	7	6	21	6	15	3

体育の学習が好きな理由(人)

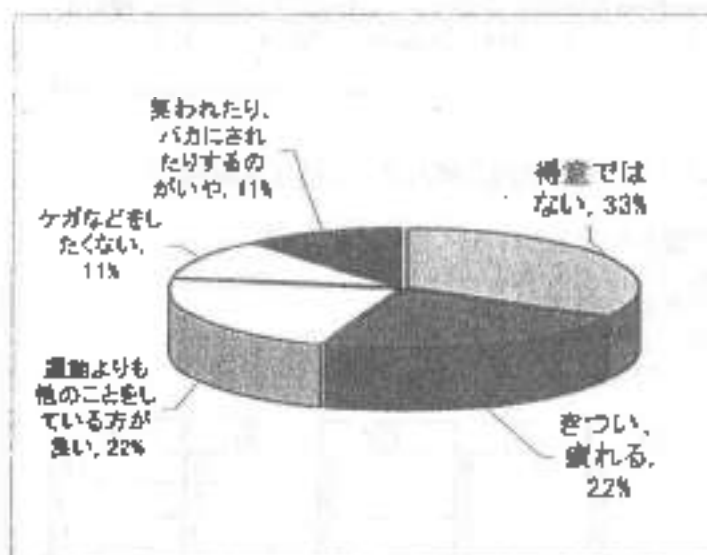


体育の学習が好きな理由として最も多かったものとして「②運動が好きで楽しい」であった。次いで、「⑥自分の力を伸ばしたい」「③勝ちたい、他の人よりうまくなりたい、他の人より強くなりたい」「⑧運動で心や体を鍛えたい」という理由が多かった。この結果から、自分の力を伸ばしたいという意欲や、体や心をもっと鍛えたいといった向上心が感じとれる。その他の回答では、「みんなで楽しくできるから」「水泳のように楽しい授業があるから」といった意見が見られた。

問6 問4で【3.どちらかといえば嫌い】が【4.嫌い】を選んだ人はその理由を選んでください。(3つ)

- ①きつい、疲れる。 ⑤笑われたり、バカにされたりするのがいや。
 ②運動より他のことをしている方が良い。 ⑦どんなに頑張っても上手くならない。
 ③ケガなどをしたくない。 ⑧運動をやっても何の役にも立たない。
 ④負けるのがいや。 ⑨運動は嫌い興味がない。
 ⑤得意ではない。 ⑩その他()

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0
6年	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	2(22%)	2(22%)	1(11%)	0	3(33%)	1(11%)	0	0	0	0



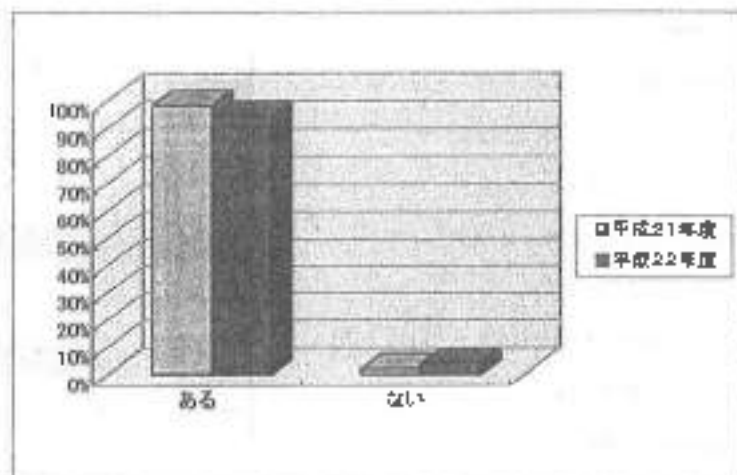
体育が【3.どちらかといえば嫌い】を選んだ児童は、全体の4%であったが、「⑤得意ではない」「①きつい、疲れる」といった運動を苦手と決めつけてしまう児童がいる。

そのような児童が満足感や達成感を味わえるような体育学習の授業の工夫・改善が今後の課題といえる。

問7 体育の学習で好きな運動はありますか。

- ①ある ②ない

	①	②
1年	9(100%)	0(0%)
2年	13(100%)	0(0%)
3年	9(75%)	3(25%)
4年	10(100%)	0(0%)
5年	12(92%)	1(8%)
6年	10(100%)	0(0%)
合計	63(94%)	4(6%)

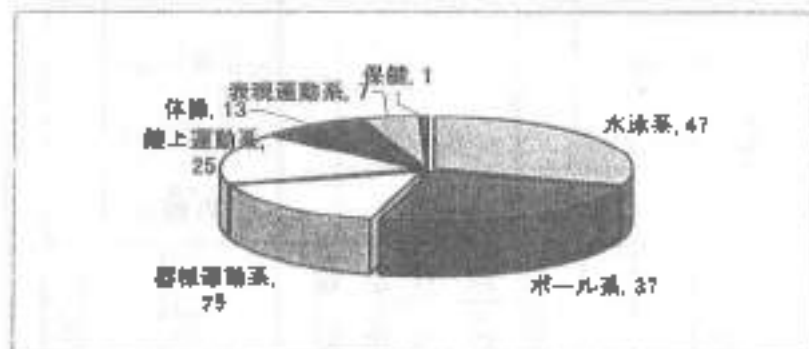


体育の学習で好きな運動がある児童が全体の94%いる。しかし、6%の児童が好きな運動はないと回答していて、昨年度よりも2%増加している。運動を好きにさせる環境づくりや体育の学習の授業改善の工夫をする必要がある。

問8 問7で【1.ある】と選んだ人は、好きな運動はどれですか(3つまで)。

- ①体操(体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、用具を操作する動き(なわとび)など)
- ②器械運動系(マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動)
- ③陸上運動系(かけっこ、リレー、走り高跳び、走り幅跳び、マラソン、ハードル走など)
- ④水泳系(浮く・泳ぐ運動、クニール・平泳ぎなど)
- ⑤ボール運動系(サッカー、バスケットボール、ソフトバレーボールなど)
- ⑥表現運動系(身近なものを動きて表現する活動、フォークダンス、リズムダンスなど)
- ⑦保健(毎日の生活と健康、「育ちゆく体とわたし」「心の健康」「けがの予防」「病気の予防」)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
1年	5	6	2	9	2	3	0	27
2年	4	5	5	7	4	4	0	29
3年	0	5	4	7	6	0	0	22
4年	2	2	6	7	9	0	0	26
5年	2	3	4	6	10	0	1	29
6年	0	4	4	8	6	0	0	22
合計	13	25	25	47	57	7	1	155



全学年を通して、水泳系とボール系、器械運動系に興味を示す児童が非常に多かった。
低学年では、普段から舞踊やダンスに親しむ児童が多いことから、体操や表現運動への関心が高いわかる。

☆上記で選んだ好きな運動の理由を書いて下さい。

①「体操」が好きな理由
体が柔らかくなるから

②「器械運動系」が好きな理由
回転するのが好きだから
跳んだりするのが楽しい
やっているうちに楽しくなるから
マット運動が得意だから

③「陸上運動系」が好きな理由
走るのが好きだから
リレーはチームでやるから好き
高跳びが好きだから

④「水泳系」が好きな理由
水に触れるのが楽しいから
泳ぐのが好きだから
泳げるようになって人を助けたいから

⑤「ボール運動系」が好きな理由
投げたり、キャッチしたり、蹴ったりするのが楽しい
ボール運動が得意だから
勝っても負けても友達と仲良くなれるから
チームでできるから
サッカーやバレーが上手になりたいから

⑥「表現運動系」が好きな理由
ダンスや踊るのが好きだから
フォークダンスが好きだから

⑦「保健」が好きな理由
いろいろな事を知ることができるから

ほとんどの児童が「得意だから」と、好きな運動の理由をあげている。このことから、「できる」→「好き」につながっていることがわかる。よって、多くの成功体験を積み、「できた」という喜びを味わわせることが重要だと考えられる。

◎ 以上の児童の実態調査から…

- すべての児童が体育の学習以外でも運動をしていると回答していることから、体育の学習以外でも、運動量の確保がされている状況である。
- 運動が好きな児童が非常に多く、本校では特に陸上運動への関心が高い。運動が楽しいだけでなく、「自分の力を伸ばしたい」「心や体を鍛えたい」といった回答が多かったことから、運動への意識が高いといえる。
- 一方で、少数ながら高学年の女子で、体育の授業が「どちらかといえば嫌い」と回答している児童もいる。そのような児童が、たくさんの成功体験を積み、運動の喜びを味わえるような環境づくりと主体的な学びを促す授業の工夫が必要である。

僕の、私のゴールド記録			年 名前		
ゴールドジャンプ記録		記録(距離)	記録(高さ)	記録(高さ)	記録(高さ)
今年の目標		鉄棒の記録	マット運動の記録	とび箱運動の記録	なわとびの記録
		足かけ上がり	開脚前(後)転	開脚跳び(6段階)	後ろ跳び
		足かけ上がり	押しつ後転	台上前転	あや跳び(前)
		前方支持回転	側方回転	抱え込みとび	あや跳び(後)
		後方支持回転	とび込み前転	側方回転	交差跳び(前)
		足かけ前回り	倒立前転	ヘッドスプリング	交差跳び(後)
		足かけ後ろ回り	ハンドスプリング	ハンドスプリング	かけ足跳び
泳力測定	m	ふみこしおり	ロングード	あおむけとび	二重跳び
持 久 走 の 記 録	参考記録(去年の記録から複製)			1 回目の記録	分 秒
	2 回目の申告タイム	分 秒		2 回目の記録	分 秒
	3 回目の申告タイム	分 秒		3 回目の記録	分 秒
	4 回目の申告タイム	分 秒		4 回目の記録	分 秒
	5 回目の申告タイム	分 秒		5 回目の記録	分 秒
	持久走大会での申告タイム	分 秒		持久走大会の記録	分 秒
想					
	5 月	10 月	考察(気づいたこと)		
握力	kg	kg			
上体起こし	回	回			
長座体前屈	cm	cm			
反復横とび	回	回			
20mシャトルラン	回	回			
50m走	秒	秒			
立ち幅とび	cm	cm			
ソフトボール投げ	m	m			

僕の、私の、私のゴール記録

ゴール記録	5月	10月	10月	10月	10月
ゴール記録	21	19	48	36	16
ゴール記録	10.1	11.0	14.0	14	14
泳力測定	157 m	157 m	157 m	157 m	157 m
1回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
2回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
3回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
4回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
5回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
6回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分

5月 10月 考察(気づいたこと)

健力 21 19 48 36 16

上体起こし 19回 41回 48回 36回 16回

背座体前屈 45 48 36 16

反復横とび 10.1 11.0 14.0 14 14

50m走 10.1 11.0 14.0 14 14

立ち幅とび 14 14 14 14 14

僕の、私の、私のゴール記録

ゴール記録	5月	10月	10月	10月	10月
ゴール記録	12	19	32	52	43
ゴール記録	9.6	13.0	10	12	10
泳力測定	157 m	157 m	157 m	157 m	157 m
1回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
2回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
3回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
4回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
5回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分
6回自の泳種	1分	1分	1分	1分	1分

5月 10月 考察(気づいたこと)

健力 12 19 32 52 43

上体起こし 19回 41回 48回 36回 16回

背座体前屈 45 48 36 16

反復横とび 10.1 11.0 14.0 14 14

50m走 10.1 11.0 14.0 14 14

立ち幅とび 14 14 14 14 14



(3)なわとび検定

なわとび検定実施計画

1.ねらい

自己の体力にあったためあてを設定し、日頃から、「なわとび」の技を高め、意欲的・継続的に体力の向上を図る。

2.実施方法

①月一回(第4水曜日)で、「なわとび検定」を行う。

②毎週金曜日の体育朝会で、なわとびの練習を行う。

③「なわとび検定」では、各種目ごとに担当教師を決めておく。児童は挑戦したい種目を決め、検定日には担当教師の前で技を検定してもらう。

④「なわとび検定」は6月30日(水)からスタートさせる。

⑤「なわとびマスター表」で自己の目標を決める。

3.実施場所 運動場

4.なわとびマスター表

級	1000回(検定)の回数 前とび	800回	600回(男)	500回(女)	400回(男)	300回(女)	200回(男)	150回(女)	100回	50回	自分だけの技
10	10	5	10	5	10	5	3	2	5	5	
9	20	15	20	10	20	10	6	4	10	15	
8	30	20	30	20	30	20	10	8	15	20	
7	40	30	40	30	40	30	15	10	20	30	
6	50	40	50	40	50	40	20	15	25	40	
5	60	50	60	50	60	50	25	20	30	50	
4	70	60	70	60	70	60	30	25	35	60	
3	80	70	80	70	80	70	35	30	40	70	
2	90	80	90	80	90	80	40	35	45	80	
1	100	90	100	90	100	90	45	40	50	90	
名人	150 以上	100 以上	120 以上	100 以上	120 以上	100 以上	50 以上	45 以上	60 以上	100 以上	

5. 「なわとび検定」の担当

前とび	各担任の先生
後ろとび	2年担任
あやとび(前・後)	3年担任
こうさとび(前・後)	4年担任
二重とび(前・後)	6年担任
なかよしとび	5年担任
自分で作った技	教務
サポート	校長・教頭
児童観察	1年担任
救護	養護教諭

6. 「なわとび」検定の流れ

- 8:20 集合・あいさつ
- 8:23 準備運動(かけあし前跳び:3分)
- 8:28 集合・ストレッチ
- 8:30 前とび1分間チャレンジタイム
- 8:35 なわとび検定チャレンジタイム(前とび以外の検定タイムとする)
- 8:40 集合・達成状況確認



二重跳びにチャレンジの6年生



1分間で何回、前跳びができるかな?



なわとび検定でこうさとびにチャレンジ



全員で仲良しとびにチャレンジ

④朝のジョギング

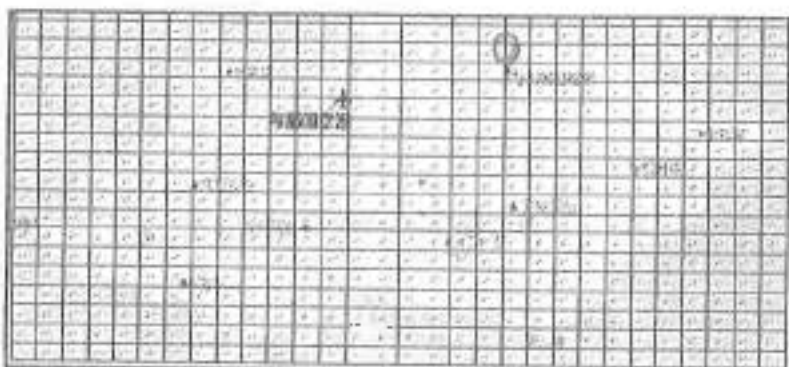
(4) 朝のジョギング



8時前に登校し運動場何周走れるかチャレンジ



仲良くそろってジョギングする3年生



1周ごとに1マス塗りつぶしていきます！まずは与那国島から！



続いてNO. 3は石垣島と西表島



どんどん北上し、NO. 3は宮古島



さらに沖縄本島へと進み、九州や本州へも！

(5)環境の充実

①ケンステップ



今年は青の直線と赤のへび型を追加



休み時間での様子（楽しい）

②一本線のペイント



職員と児童が協力してできました！



うまくバランスとれますよ！

③垂直跳び



全職員でハイジャンプをペイント



完成の様子（ハイジャンプ）



2mまでさわれたぞ!



いつでも出来るから楽しいぜー

④PTA 作業にて一本橋作成



お父さん達が与っ子のために作成中です



みんなで遊ぶと楽しいよ!

4 成果と課題

成果

- 多様な遊び場を作成することにより、休み時間や放課後に児童が積極的に遊ぶ姿がみられた。
- なわとび検定月を設けることにより、体育朝会や体育学習でめあてを持ち、意欲的になわとびに取り組む児童が増えた。
- 朝のジョギングを奨励することにより早登校する児童が増え、体力向上と基本的な生活習慣が身につけてきている

課題

- 予算面や安全面にも考慮し、遊具の数を増やし努力をしていきたい。
- 積極的に鉄棒やうんていを活用させる取り組みを工夫できればよかった。
- なわとび検定において、技のかたよりがみられるため、より多くの技にチャレンジさせる取り組みが必要である。
- 朝のジョギングを継続させるワークシートの活用方法を工夫したい。

4. 関連した取り組み

(1) 幼稚園部の活動

幼稚園部の活動

今年度の取り組み

今年度も、園児の新体力測定（測定項目を抜粋）を実施した。年長、年中両方とも同じ項目を5月と9月の2回実施した。また、日常の運動遊びでは、体をほぐす遊びやリズム遊びを意図的に取り入れた。そして、なわとびの取り組みも例年より早く実施し小学校とのつながりをもたせるため、い学校のシステムに似せて表を作成した。運動遊びのほかに、食育として「ナス」「ヘチマ」の栽培、収穫し度した。

ア. ねらい

- ①小学校入学前園児の体力の実態や遊びなどを把握し、小学校へのスムーズな移行を図る。
- ②野菜などの栽培を通して、それぞれの特性に興味関心を持ち、身近な食べ物として食する。

イ. 方針

- ①小学校で実施する新体力テストを全園児で実施し、小学校の研究につなげる。
- ②栽培・食すことを通して、食育と共に「早寝・早起き・朝ご飯」を励行する。

ウ. 連携した取組実践

○研修会・会議の実施

校内研修や研究授業や終了後の研究会に参加し、子ども達の活動の様子や教師の関わり方などに視点をおいて、体育の授業改善について話し合った。

1. 新体力テストの実施

測定可能な新体力テストの種目を小学校教諭のサポートを得ながら実施した。実施種目は、握力、長座体前屈、反復横跳び、30M走で、種目においても個人差や男女差の大きいことが分かった。（月齢差が現れやすい）また、昨年より今年、5月より9月のテスト結果が良い園児が多かった。柔軟性、瞬発力を高めるための運動遊びを保育実践に反映できた。

平成22年度体力テスト平均値

	年中/男	年中/女	年長/男	年長/女
30M走（秒）	8.86	8.19	8.2	8.4
反復横跳び（回）	21.5	21.4	22	23.4
長座体前屈（回）	28.8	27.6	25	32.4
握力左（kg）	6.4	5.7	8.6	7.9
握力右（kg）	5.8	4.7	7	7.1

2. なわとびチャレンジ表

よなぐにしまどうぶつめぐり（単位：回）

	りす	うきご	やぎ	ぶた	らいおん	うま	うし	かば	さい	ぞう	きりん
前跳び	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	150以上
後跳び	2	4	8	10	15	20	25	30	35	40	45以上
仲良し跳び	2	4	8	10	15	20	25	30	35	40	45以上

3. なわとび・収穫祭の様子



4. 成果と課題

【成果として】

- 毎週火・木に設定した体育遊びでは、柔軟運動、ストレッチなどを毎回行い、体ほぐしの運動を楽しんで行った。
- なわとびの得意な子が苦手な子に対して、跳び方のコツをアドバイスしていた。仲良し跳び等は、お互いに励まし合いながら楽しく跳んでいた。

【課題として】

- 小学校と合同学習の時間を設定することが難しい。
- 食す野菜等の栽培、食育の年間を見通した計画の作成。

(2) 放課後スポーツ活動の取り組み

放 課 後 ス ポ ー ツ 活 動 状 況

☆ 学校内におけるスポーツクラブ

1 野球部 (与那国クラウンズ)

- 活動日 毎週 月・水・金 ・日曜日
 練習場所 与那国小学校グラウンド
 指導者 稲川宏二さん (地域ボランティア・本校保護者)
 水見 拓磨 (本校教諭)
 活動形態 ・父母会が主体となり、活動している。
 ・年一回、石垣島での大会へ参加している。
 ・他の小学校からも、入部可能



2 ミニバスケットボール部

- 活動日 毎週 月・水・金曜日
 活動場所 与那国小学校体育館
 指導者 宮良 善起 (本校教諭)
 活動形態 ・父母会が主体となり、活動している。
 ・年一回、石垣島での大会へ参加している。
 ・本校の児童のみの入部



3 陸上競技 (与那国アスリートクラブ)

- 活動日 毎週 火・木曜日
 大会前 月・火・木・金・土曜日
 指導者 仲本 史佐 (本校教諭) 田島 政之 (地域ボランティア)
 活動形態 ・本校の児童の陸上競技の技術向上の為、年間を通して指導計画を立て、全児童対象に行っている。

主な出場大会及び結果

- ・ 5月 全国小学校陸上競技交流大会 八重山大会への参加 (5・6年対象)

6年女子	稲濱 早希子	100m	優勝
		走り幅跳び	優勝
- ・ 6月 全国小学校陸上競技交流大会 沖縄県大会への参加

6年女子	稲濱 早希子	100m	6位
		走り幅跳び	優勝
- ・ 8月 新報児童オリンピック陸上競技大会参加

2年女子	相田 真央	100m	13位
2年男子	山島 旭人	100m	3位
3年女子	崎元 美玖	100m	11位
4年男子	池田 竜聖	ボール投げ	10位
5年男子	前黒島 蓮	1000m	11位
		ボール投げ	2位
6年女子	稲濱 早希子	100m	6位
		走り幅跳び	優勝 (4m60:大会記録)
- ・ 8月 全国小学校陸上競技交流大会

6年女子	稲濱 早希子	走り幅跳び	20位
------	--------	-------	-----
- ・ 9月 与那国町少年陸上競技選手権大会への参加 (優勝のみの掲載)

1年男子	100m	宮澤 芭斗夢	
2年男子	100m	山島 旭人	女子 相田 真央





3年女子	100m	崎元 美玖
4年男子	100m	糸数 豪太
5年男子	100m	前黒島 蓮
5年男子	200m	入慶田本 朝哉
女子	走り幅跳び	前盛 瑞伽
6年男子	100m	高山 峻輔
	200m	高山 峻輔
	走り幅跳び	新嵩 晃崇
	走り幅跳び	高山 峻輔
代表男子	400mR	糸数・入慶田本 前黒島・高山
男子	学年別R	富澤・田島・前外間・糸数・前黒島・高山
女子	学年別R	大嵩・杉田・崎元・岩下・前盛・與那覇
男子	1000m	前黒島 蓮
男子	ボール投げ	前黒島 蓮



女子	與那覇 下翔
女子	岩下 菜摘
女子	仲黒島 彩海
女子	與那覇 千翔
女子	崎元・前盛 譜久嶺・與那覇



・10月24日 八重山地区小学校陸上競技大会への参加予定

☆ 学校外におけるスポーツクラブ

1 与那国柔道クラブ

活動日 毎週 火・木・土曜日

活動場所 与那国町児童交流センター内体育館

指導者 山内さん（久郎良駐在所巡査）・関係者父母数名

活動形態 ・与那国町全小・中学生対象に希望する児童、生徒が参加している。

・年一回、八重山地区大会、県大会への参加

・島外から講師を招き、昇段試験も行っている。



創立125周年記念大運動会



平成22年6月20日(日)
与那国町立与那国小学校
与那国町立よなぐに幼稚園

テーマ : 燃えろ赤組 太陽のように! かがやけ白組 光のように!
みんなの力でめざせ感動いっぱい運動会!

園歌

1 よなぐに幼の 園児らは
みんな 仲良し こよしです
ことりのように あいらしく
声をそろえて うたいましょう

2 よなぐに幼の 園児らは
みんな 仲良し こよしです
うさぎのように 元気よく
おどって遊ぼうよ ほがらかに

3 よなぐに幼の 園児らは
みんな 仲良し こよしです
リンゴのような ほっぺして
元気いっぱい 遊びましょう



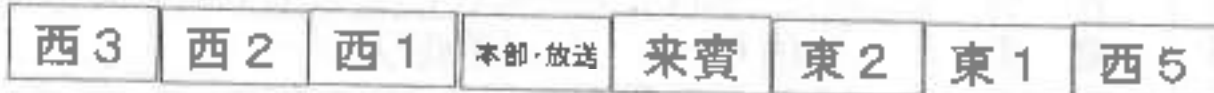
校歌

1 黒潮けぶる南国の
あかねさす日に照らされて
青葉に高くそびえたつ
我が懐かしき学び舎よ
これ七百年のはらからが
雨のあしたも風の夜も
汗と愛との力もて
きずきあげたる新天地

2 自治のみはたをおしたてて
ふるいおこさん校風を
春はデイゴの花の山
紅き心のしるしにて
秋はてんだの月すみて
千古の教え我にとく
のびよ はらからもろともに
つるをはなれし矢のごとく

学びの道にいそしみて 強き心をきたえなん
学びの道にいそしみて 心のまことみがかなん

親客テント配置図



運動場



用具

赤組児童

入退場門

白組児童・園児



創立125周年記念大運動会 プログラム

開会式		1. 開式のことば 2. 園歌・校歌斉唱(校旗掲揚) 3. 学校長あいさつ		4. 園児・児童誓いの言葉 5. 運動会の歌	
回	種目	演 技 名		競 技 者	
1	体操	みんなで体ほぐし(ラジオ体操)		全児童	
2	個走	Bダッシュでかけぬけろ!!		3・4年	
3	個走	走れ!ちびっこチーター!ゴールまで		1・2年	
4	個走	めざせ1等賞(50m走)		幼稚園	
5	個走	電光石火!走れ、輝け 5, 6年		5・6年	
6	ダンス	それいけ!与小っ子カンフー		1・2年	
7	表現	2010宇宙への旅 ~THE世界遺産~		3・4年	
8	ダンス	ハッスル・はっする・ビューティフル		PTA・来賓・地域	
9	団競	ゴールドジャンプ 2010		全児童	
10	表現	マブヤーとLet's Go!		幼稚園	
幼稚園閉会式(賞品授与・園長のおはなし)					
昼 食(12:00~13:00)					
11	マーチング	ひびけ! 与小っ子マーチ		全児童	
12	継走	中学生リレー		中学生	
13	継走	絆深めよう!親子リレー		親子	
14	表現	舞え・羽ばたけ・勇壮に!!(Eイサー)		5・6年	
15	継走	ふがらっさ!職域リレー		一般	
16	継走	燃えろ!かがやけ!紅白リレー		全児童	
17	表現	125年の伝統「校歌ダンス」		全児童	
閉会式		1. 成績発表 2. 賞品授与 3. 児童代表のことば		4. PTA会長あいさつ 5. 学校長あいさつ 6. 閉式のことば	

※ 当日、このプログラムをご持参ください。
 ※ ゴミは持ち帰るようお願いいたします。

IV 研究の成果と課題

IV 研究の成果と課題

1 H22年度の成果と課題

(1) 成果

仮説1「一人一人にめあてをもたせそれを達成させていくことで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。」

- 「めあてをもたせ」では、授業において目標とする数値を明確にし、学習カードにしっかりと自己のめあてを書かせることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- 体育朝会のなわとびにおいては、とべた回数で何級と設定することで、検定に向けて励むことができた。
- 体力測定の結果を子ども達に返し自分の記録を振り返らせることで、児童が自己の課題を知り、日頃の運動を意識して行うようになってきた。

仮説2「場の設定を工夫し運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら進んで運動に楽しみたくましい体と心をつくる児童を育成することができるであろう。」

- 習得させたい技や、児童のつまずきにあわせた場を設定することができた。
- デジカメとモニターを利用することで、児童が自分の動きを振り返る場を設定することができた。
- 身の回りにある材料（段ボール、椅子、ホース等）で用具を工夫し、多様な場を設定することができた。
- 場の設定やBGMの選定を工夫することで、子ども達が生き生きと表現活動に取り組むことができた。
- 各単元ごとにオリエンテーションを行い、場の設定をしっかりと把握させることで、児童がみずから場の設定を行うようになり、運動量の確保ができた。

仮説3「児童の課題をコーディネーション運動の視点からとらえ、変化のある反復の中で楽しみながら考えさせることで、児童の技能を向上させるためのレディネスを形成することができるであろう。」

- 各単元の中で、学習を支える予備運動として定着してきた。
- TTで行うことにより役割分担ができ、数多くのコーディネーション運動を短時間で行う流れができた。
- 様々なコーディネーション運動を取り入れたことで抵抗なく表現リズム遊びを楽しむ児童が多かった。
- 体育朝会と連動してなわとびを体育の授業でコーディネーション運動として継続できた。

専門部の取り組み

- 新体力テストや泳力テストの結果や体位・体格の実態等の資料をまとめ、考察することにより、児童の実態を把握し実践に生かすことができた。
- 3年間の研究で取り組んだコーディネーション運動を資料としてまとめることができた。
- 多様な遊び場を作成することにより、休み時間や放課後に児童が積極的にあそぶ姿が見られた。
- なわとび検定日を設けることにより、体育朝会や体育学習でめあてを持ち、意欲的になわとびに取り組む児童が増えた。

- なわとびに取り組むことで体力の向上を図ることができた。
- 朝のジョギングを奨励することにより早登校する児童が増え、体力向上に取り組みながら基本的な生活習慣が身に付いている。
- 朝のジョギングで走った距離を記入することにより、目標を持って取り組むことができた。

その他

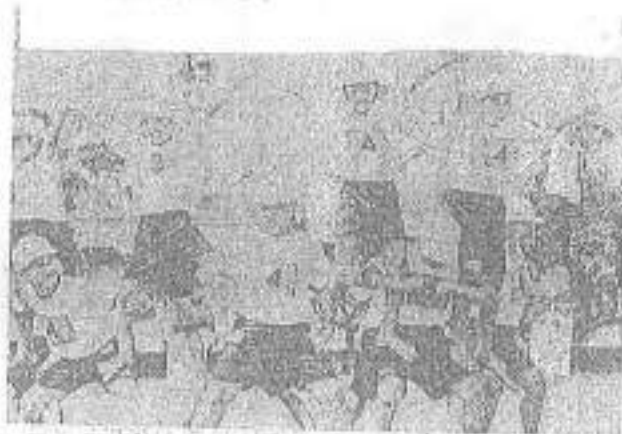
- 各学年の体力が著実に向上してきており、3年間の取り組みが各学年ごとに明確に数字に表れている。
- 体力の向上により、係活動、清掃活動、菜園での活動に粘り強く取り組めるようになってきた。
- 隣学年で授業を行うことで、教え合い、高め合う学習環境をつくることができた。

(2) 課題

- 体育の時数の学期ごとの振り分けが行事によって偏るので、もう少し余裕をもたせた年間指導計画の作成が必用。
- 他教科との関連性を明記する。
 - ・「話し合い活動」の場面における国語や特活との関連。
 - ・総合的な学習の時間、家庭科、生活科における食育の位置づけ。
- 「たくましい心」に関し、意図的取り組みと検証方法の模索が必用。
- コーディネーション運動の資料の充実。
- 隣学年で授業を行う際の打ち合わせ時間の確保。

これまでの三ヶ年の研究を通して「めあての持たせ方」「場の設定の工夫」「食育」「コーディネーション運動」等に視点をおいて授業づくりを行うことで、研究主題である「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」する授業の在り方を検証することができた。子ども達は、運動の大切さ、そして何より楽しさを知ること、より高いめあてに主体的に取り組む、日常的に運動に親しむようになっていったように思われる。ケンステップや滑り台、平均台の設置など遊びの場も充実してきた。平均台でのジャンケンやいろいろな技でのなわとび、友達とボール遊びなどをしている子ども達の表情を見ても運動をすることを楽しんでいることがわかる。子ども達が楽しみながら習慣的に体を動かすことができるようになったことは本研究の大きな成果であった。今後この運動への意識をどのように継続させていくかが課題となってくると考えられる。

V 資料



毎月
2014.6.21

児童ら組体操を披露

創立125周年記念運動会

与那国小

【与那国小】21日、創立125周年記念運動会が、梅雨明けの晴れ上がったグラウンドで、児童ら組体操など元気いっぱい走り回った。宇田への旗、世界遺産、科学歴史、マップを再現する演舞や親子リレーなども盛りだ

いだ。伝統のニイサーでは「スルプディ」男の姿取り入れた演舞では、父母らが拍手で盛り上げ、児童たちは元気いっぱいだった。(田浦政英通信員)

八重の島

2010.7.11

与那国小が稲刈り作業

収穫の喜びと豊作に感謝



【与那国小】児童ら、田舎体験活動の一環として、稲刈り作業を行った。

田舎体験活動の一環として、稲刈り作業を行った。

児童らは「昔の人たちは田舎でも稲刈り作業をしたと聞き、入心した」と語り、「田舎で稲刈り作業をしたのは初めて。収穫の喜びを知ることができた。」と語った。児童らは、収穫米を町内のライオンセンターに納入し、稲刈り体験活動の一環として、稲刈り作業を行った。

田舎体験活動の一環として、稲刈り作業を行った。

田舎体験活動の一環として、稲刈り作業を行った。

西川、宮良さん最優秀表彰

平和メッセ セシジ展 優秀賞の當間さんも

【那覇】慶幸和記念 平和メッセセシジ展の第20回「児童・生徒の平和メッセ」が9日午



賞を受けた高橋彩知さんと西川麗乃さん、宮良日向(右から) - 9日午前、那覇市民ホール

【那覇】慶幸和記念 平和メッセセシジ展の第20回「児童・生徒の平和メッセ」が9日午前、那覇市民ホールで開かれ、表彰式が行われた。今年も受賞した。平和メッセセシジ展は創作活動を通じて、平和の心を伝えること、国内外に平和のメッセを届ける機会とする。県内小中学校から約100名、作文600点の過去最多の応募があった。

今年も受賞した。平和メッセセシジ展は創作活動を通じて、平和の心を伝えること、国内外に平和のメッセを届ける機会とする。県内小中学校から約100名、作文600点の過去最多の応募があった。

今年も受賞した。平和メッセセシジ展は創作活動を通じて、平和の心を伝えること、国内外に平和のメッセを届ける機会とする。県内小中学校から約100名、作文600点の過去最多の応募があった。

今年も受賞した。平和メッセセシジ展は創作活動を通じて、平和の心を伝えること、国内外に平和のメッセを届ける機会とする。県内小中学校から約100名、作文600点の過去最多の応募があった。

- ▽川原編組(大正6年) 橋井千裕(同6年)
- ▽中学生的部
- ▽優秀賞(丸山吹(同7年)▽優秀賞(同7年)▽優秀賞(大正3年)
- ▽文部門
- ▽中学生的部
- ▽優秀賞(高良日向(同7年)
- ▽文部門
- ▽小学生的部
- ▽優秀賞(水田寛太郎(同7年)▽佳作(同7年)▽佳作(同7年)▽佳作(同7年)

- ▽中学生的部
- ▽優秀賞(丸山吹(同7年)▽優秀賞(同7年)▽優秀賞(大正3年)
- ▽文部門
- ▽小学生的部
- ▽優秀賞(水田寛太郎(同7年)▽佳作(同7年)▽佳作(同7年)

西川さんが最優秀賞 平和のメッセ展



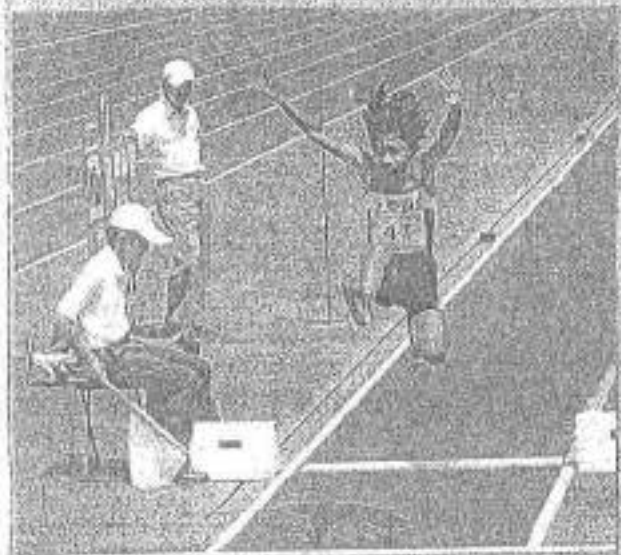
西川麗乃さん(左)が最優秀賞を受賞した。背景には平和メッセの展示がみえる。

広告、店舗と業務の
八重山毎日新聞
毎日の広告が
未来を拓く

【那覇】西川麗乃さんが最優秀賞を受賞した。平和メッセセシジ展の第20回「児童・生徒の平和メッセ」が9日午前、那覇市民ホールで開かれ、表彰式が行われた。今年も受賞した。平和メッセセシジ展は創作活動を通じて、平和の心を伝えること、国内外に平和のメッセを届ける機会とする。県内小中学校から約100名、作文600点の過去最多の応募があった。

女子6年
走り幅跳び

福濱産が大会新で優勝



八重山勢が上位進出の活躍
 位置上位進出は次の通り

【男子の部】
 △2年1000メートル 前底光 比川クワ
 △3年1000メートル 前底光 比川クワ
 △4年1000メートル 前底光 比川クワ
 △5年1000メートル 前底光 比川クワ
 △6年1000メートル 前底光 比川クワ

【女子の部】
 △4年1000メートル 前底光 比川クワ
 △5年1000メートル 前底光 比川クワ
 △6年1000メートル 前底光 比川クワ

新報児童オリンピック陸上競技

新村、福地、前底も1位

八重山勢が上位進出の活躍

【本報記者】本報児童オリンピック大会が、陸上競技(二種)の活躍を、中津島陸上競技場が、21日(土)の午間、本報記者が取材した。女子6年走の幅跳びで福濱産が、走り幅跳びで新村、福地、前底も1位の活躍を披露した。男子6年走の幅跳びで新村、福地、前底も1位の活躍を披露した。女子6年走の幅跳びで前底光選手(比川クワ)もまた、1位の活躍を披露した。

【男子の部】
 △4年1000メートル 前底光 比川クワ
 △5年1000メートル 前底光 比川クワ
 △6年1000メートル 前底光 比川クワ

【女子の部】
 △4年1000メートル 前底光 比川クワ
 △5年1000メートル 前底光 比川クワ
 △6年1000メートル 前底光 比川クワ

この大会は、八重山地方の児童が参加する。新村、福地、前底も1位の活躍を披露した。男子6年走の幅跳びで新村、福地、前底も1位の活躍を披露した。女子6年走の幅跳びで前底光選手(比川クワ)もまた、1位の活躍を披露した。

お わ り に

今年、興南高校野球部の「全国高等学校野球選手権大会」（夏の甲子園大会）優勝による「甲子園春・夏連覇」の大ニュースや全国の高校生が沖縄県内各地を会場に競技した「美ら島沖縄総体2010」、海外では「サッカーワールドカップ南アフリカ大会」等スポーツに関する話題の多い年でありました。

本校は平成20年度より沖縄県教育委員会の「体育・スポーツ推進校」として指定を受け3年間研究に取り組んでまいりました。研究テーマは「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」とし、副題は「一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとらして」としました。

1年次は、年間指導計画、評価計画の見直しから始まり、児童の運動面や基本的な生活リズムの実態調査に努め、それを基にした環境整備の充実で体力向上に力を入れました。2年次は、コーディネーション運動の導入で子ども達の運動の機会を確保し、さらに体力向上をめざすため、望ましい生活習慣・食育指導の充実にも努めました。本年度、3年次（最終年次）は体育朝会、早朝ジョギング、なわとび検定を実施し体力の向上を図り、授業研究会を通して授業内容を深めると共に、体育科学習指導方法の工夫改善に取り組みました。また、校内体育環境を整備し、ハイジャンプ・平均台遊び等を体力の向上に生かしています。次に、本年度導入の52型液晶テレビを体育の授業でも活用することで、児童のつまずきをデジタルカメラの動画と写真で再生し、その場でフィードバックすることができました。いち早い気づき・問題解決で児童の「またやりたい」「もっとやってみたい」という喜びやチャレンジ意欲を引き出すことができました。

本研究の成果として、児童が教値目標を設定したワークシート等の活用により意欲的に学習に取り組むことができ、教師も低・中・高学年の縦学年で授業を行うことで、教え合い・高め合い共に資質を向上することができました。また、教材教具や場の工夫、コーディネーション運動という授業を工夫改善することで、研究テーマである「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」につなげることができました。

結びになりましたが、本研究を進めるにあたり、指導助言下さいました、県教育庁保健体育課の指導主事をはじめ、八重山教育事務所の大浜譲指導主事、与那国町教育委員会 崎原用能教育長、東小浜功尚教育課長には深く感謝申し上げます。また、本校保護者の皆様、地域の方々には環境整備、遊具造りでご尽力して下さい感謝にたえません。これからも職員一同頑張っていく所存であります。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年10月10日

与那国小学校 教頭 嶋井俊次

研究同人

校長	平良 進	5年担任	仲本 史佐
教頭	嶺井 俊宏	6年担任	平良 賢輔
教務・研究主任	水見 拓磨	学習支援メンバー	與那覇 由理沙
1年担任	上地 真由美	養護	伊舎堂 優子
2年担任	米須 清秀	事務	大城 世子
3年担任	東内原 初妃	幼稚園	諸久嶺 ひとみ
4年担任	宮良 善起	幼稚園	前浜盛 美緒

お世話になった先生方

玉城 義一	県教育・保健体育課主任指導主事	東小浜 功尚	与那国町教育委員会教育課長
大浜 謙	八重山教育事務所指導主事	東迎 和芳	与那国町立与那国中学校校長
糸数 やえ子	与那国町学校共同調理場栄養士		

【参考文献】

- 小学校学習指導要領 体育編
- 新版 体育の学習 教師用指導書 光文書院
- 子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 準備運動編 明治図書
- 子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 ボール運動編 明治図書
- 体育の授業を変えるコーディネーション運動65選 明治図書
- 小学校体育「めあて学習」の進め方ーみんな仲よく楽しい体育ー 東洋館出版社
- 目標に準拠した評価の実践 沖縄県教育委員会

- ・那覇市立 与儀小学校 研究紀要 (H14～16)
- ・恩納村立 安富祖小学校 研究紀要 (H16～18)
- ・糸満市立 瀬平小学校 研究紀要 (H17～19)
- ・H22年度 小学校体育実技指導者講習会資料
- ・H22年度 体力づくり・体育指導改善講習会資料



